

Contents

オペラ芸術監督 大野和士	2
<hr/>	
2023/2024シーズン オペラ ラインアップ	4
修道女アンジェリカ／子どもと魔法	5
シモン・ボッカネグラ	10
こうもり	15
エウゲニ・オネーギン	20
ドン・パスクワーレ	25
トリスタンとイゾルデ	29
椿姫	34
コジ・ファン・トゥッテ	38
トスカ	43
<hr/>	
令和5年度公演	47
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2023 (新国立劇場公演)	
ラ・ボエーム	48
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2023 (ロームシアター京都公演)	
魔笛	50
<hr/>	
公演一覧(1997.10～2023.7)	53

※本資料中のスタッフ・キャストは全て予定であり、変更される可能性があります。
何卒ご承知おきください。

2023/2024 シーズン オペラ

オペラ芸術監督 大野和士



世界を取り巻く厳しい情勢の影響は、新国立劇場にとっても例外ではなく、2023/2024シーズンは新制作2演目、レパートリー7演目というラインアップでお届けすることになりました。

新国立劇場は近年、英国のオペラ雑誌「Opera Now」や、ドイツのオペラ雑誌「Opernwelt」の特集を飾り、日本人作曲家委嘱シリーズ第一弾の西村朗『紫苑物語』もインターナショナル・オペラ・アワードにノミネートされるなど、世界のオペラ界でも大きな注目を集める存在となっております。困難な時代こそ音楽の持ちうる力を信じ、劇場が一丸となって、聴衆の皆様に至福の音楽体験をお届けする所存しております。

23/24シーズンの新制作としまして、現在エクサン・プロヴァンス音楽祭の総監督である演出家ピエール・オーディを迎え、ヴェルディの最後期の作品が生み出される先駆けとなった『シモン・ボッカネグラ』の新国立劇場初演を行います。主役のシモン・ボッカネグラにはロベルト・フロンターリ、娘アメリアにはイリーナ・ルング、フィエスコには名バスのリッカルド・ザネッラート、アメリアの恋人役のガブリエーレにはルチアーノ・ガンチほか、世界の第一線の歌手が揃い、貴族社会と平民社会、それとボッカネグラとアメリアの間の子の確執が、胸をえぐるような深い劇的な波となって皆さんの心に刻まれることでしょう。

もう一つの新演出はプッチーニ『修道女アンジェリカ』とラヴェル『子どもと魔法』です。『修道女アンジェリカ』は、修道院の中での事件として登場人物が全員女性であるという、「三部作」の中でも異なる存在です。主人公のアンジェリカは未婚の母だったため、子どもと引き離されて修道院へと入ります。子を思い続けて過ごした彼女は7年後に息子の死を知り、悲しみのあまり息を引き取って昇天しますが、天国に迎え入れられる際の音楽はプッチーニのオペラのどの作品よりも、神々しさに満ち溢れています。

一方、ラヴェルの『子どもと魔法』は、いたずらをしたり、悪いことばかりしてお母さんを困らせていた子供が、いじめていた動物たちや壊した食器や時計など、自分が乱暴に扱っていたもの全てに仕返しを受け追い詰められるという「悪夢」の世界に追いやられていきます。そんな悪夢のような状況から男の子を助けてくれる呪文は、最愛の「ママ」という言葉でした。今回のダブルビルは、人間の愛の中でもっとも純粋な“母と子の愛”をテーマにしています。

指揮には16年間びわ湖ホール芸術監督を務めオペラを極めていく沼尻竜典、アンジェリカには名花キアラ・イゾットン、公爵夫人には気品を湛えたマリアンナ・ピッツォラート、また『子どもと魔法』の子ども役として世界中で引く手あまたのクロエ・ブリオ、そしてそれに加えて齊藤純子、河野鉄平、塩崎めぐみ、郷家暁子、小林由佳という日本の実力派歌手を揃え、栗國淳による堂々の新演出でお届けします。

さてレパートリーでは、なんとといっても13年振りに、ワーグナー作曲『トリスタンとイゾルデ』が再演されます。光と闇によって愛の喜びと苦悩を表現し尽くして大きな話題となったデイヴィッド・マクヴィカーの演出が、新国立劇場の舞台に帰ってきます。イゾルデにはエヴァ＝マリア・ヴェストブルック、トリスタンにはトルステン・ケール、クルヴェナールにはエギルス・シリンス、マルケ王にはヴィルヘルム・シュヴィングハマー、そしてブランゲーネには藤村実穂子という当代随一と言える歌手が揃いましたので、トリスタン和音が表す解決のない愛の世界に身を浸していただけることでしょう。

『こうもり』指揮は、新進気鋭の指揮者としてメキメキと頭角を表しているパトリック・ハーン。オルロフスキー公爵にはキリリと引き締まった端正な舞台姿で聴衆を魅了するタマラ・グーラ、アデーレにシェンティン・アヴェモ。

『エウゲニ・オネーギン』のタチヤーナ役には、世界の著名歌劇場を席卷しているエカテリーナ・シウリーナ、主演オネーギンには最近モネ劇場の同役で絶賛を博したユーリ・ユルチュク。

『ドン・パスクワレ』は、なんとといってもミケーレ・ペルトウージが同役で新国立劇場に初登場します。そしてマラテスタには上江隼人、エルネストにはファン・フランシスコ・ガテル、ノリーナにはラヴィニア・ビーニという世界中のベルカント歌手が結集しているので、何とぞご期待ください。

『椿姫』では我が国が世界に誇る中村恵理がヴィオレッタを歌います。成熟を増す中村恵理がどのようなヴィオレッタを私たちの前に披露してくれるか、興味はつきません。実力派指揮者フランチェスコ・ランツィロッタ、アルフレード役にはリッカルド・デッラ・シュッカという強力な布陣が名花中村を支えます。

『コジ・ファン・トゥッテ』はオペラ経験豊富な実力派飯森範親が指揮。二組の恋人と哲学者役にはセレーナ・ガンベローニ、ダニエラ・ピーニ、ホエル・プリエト、マッティア・オリヴィエーリ、フィリッポ・モラーチェと名歌手が揃い、そこにくすぐるような愛嬌を振りまくデスピーナ役には九嶋香奈枝。

『トスカ』の指揮者は、イタリアの巨匠マウリツィオ・ベニーニ。新国立劇場でも来る5月の『リゴレット』で、聴衆を魅了した『セビリアの理髪師』（98年）以来実に25年ぶりの登場が待ち望まれているところですが、今回は大変ドラマティックな『トスカ』が期待されます。タイトルロールにはレバノン出身、オタワ大学で音楽博士号を習得した美貌の歌手ジョイス・エル＝コーリー。マゼールやムーティなどに認められキャリアを築いた実力派です。カヴァラドッシは、オペラ夏の祭典2019-20『トゥーランドット』で日本デビューしたテオドール・イリンカイの再登場。華やかな舞台が期待されます。

また来シーズンも至るところで、新国立劇場合唱団の実力を皆様にお示しできることもお約束したいと思います。

劇場で皆様をお待ちしております。

〈プロフィール〉

東京藝術大学卒業後、バイエルン州立歌劇場でサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。ザグレブ・フィル音楽監督、バーデン州立歌劇場音楽総監督、ベルギー王立モネ劇場音楽監督、アルトゥーロ・トスカニーニ・フィル首席客演指揮者、リヨン歌劇場首席指揮者、バルセロナ交響楽団音楽監督を歴任。現在、新国立劇場オペラ芸術監督（2018年～）及び東京都交響楽団音楽監督、ブリュッセル・フィルハーモニック音楽監督。これまでにボストン響、ロンドン響、ロンドン・フィル、ライブツィヒ・ゲヴァントハウス管、フランクフルト放送響、パリ管、フランス放送フィル、スイス・ロマンド管、イスラエル・フィルなど主要オーケストラへ客演を重ね、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、エクサン・プロヴァンス音楽祭など主要歌劇場や音楽祭で数々のプロダクションを指揮。新作初演にも意欲的で、数多くの世界初演を成功に導いている。17年にはリヨン歌劇場がインターナショナル・オペラ・アワード「最優秀オペラハウス」を獲得し、フランス芸術文化勲章オフィシエを受勲。日本芸術院賞、サントリー音楽賞、朝日賞など受賞多数。文化功労者。新国立劇場では1998年『魔笛』、2010～11年『トリスタンとイゾルデ』、19年『紫苑物語』『トゥーランドット』、20年『アルマゲドンの夢』、21年『ワルキューレ』『カルメン』『Super Angels スーパーエンジェル』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』、22年『ペレアスとメリザンド』『ボリス・ゴドゥノフ』を指揮している。23年6、7月には『ラ・ボエーム』を、23/24シーズンは『シモン・ボッカネグラ』『トリスタンとイゾルデ』を指揮する予定。

2023/2024 シーズン オペラ ラインアップ
〈新制作2演目／レパートリー7演目 合計9演目40公演〉

2023年10月

新制作

修道女アンジェリカ／子どもと魔法

Suor Angelica / L'enfant et les sortilèges | G. プッチーニ/M. ラヴェル
4回公演

2023年11月

新制作

シモン・ボッカネグラ

Simon Boccanegra | G. ヴェルディ
5回公演

2023年12月

こうもり

Die Fledermaus | J. シュトラウス二世
4回公演

2024年1月～2月

エウゲニ・オネーギン

Eugene Onegin | P. チャイコフスキー
4回公演

2024年2月

ドン・パスクワレ

Don Pasquale | G. ドニゼッティ
3回公演

2024年3月

トリスタンとイゾルデ

Tristan und Isolde | R. ワグナー
6回公演

2024年5月

椿姫

La Traviata | G. ヴェルディ
5回公演

2024年5月～6月

コジ・ファン・トゥッテ

Così fan tutte | W. A. モーツァルト
4回公演

2024年7月

トスカ

Tosca | G. プッチーニ
5回公演

修道女アンジェリカ／子どもと魔法

Suor Angelica / L'enfant et les sortilèges

オペラパレス | 4回公演

『修道女アンジェリカ』全1幕<イタリア語上演/日本語及び英語字幕付>

●会員先行販売期間：2023年7/22(土)～8/1(火)

『子どもと魔法』全2部<フランス語上演/日本語及び英語字幕付>

●一般発売日：2023年8/5(土)

【修道女アンジェリカ/Suor Angelica】

初演：1918年12月14日/メトロポリタン歌劇場

作曲：ジャコモ・プッチーニ

台本：ジョヴァンキーノ・フォルツァーノ

【子どもと魔法/L'enfant et les sortilèges】

初演：1925年3月21日/モンテカルロ歌劇場

作曲：モーリス・ラヴェル

台本：シドニー＝ガブリエル・コレット

プロダクションについて

ダブルビル（2本立て）シリーズの第3弾として、プッチーニ『修道女アンジェリカ』とラヴェルの『子どもと魔法』をカップリングして上演します。『修道女アンジェリカ』は、プッチーニ晩年の「三部作」の二作目で、ラストシーンの混声合唱を除き登場人物すべてが女声だけで演じられ、宗教的、叙情的な空気に満ちた作品です。約50分の中に、修道女たちの穏やかな情景、アンジェリカと叔母である公爵夫人の緊迫したやり取りと悲嘆へのドラマティックな展開、そして神秘的な奇蹟のシーンが、プッチーニならではの雄弁な管弦楽で展開します。ラヴェルの『子どもと魔法』は作曲家自身が「ファンタジー・リリック」と呼んだ、オペラとバレエの要素を融合させて作曲された作品。子ども目線で展開する趣向も楽しく、子どもはもちろん、大人のための寓話としても楽しむことのできる舞台作品です。ラヴェル独特の近代的な和声やリズム、華麗な管弦楽も魅力です。

演出に国内きっての実力派オペラ演出家の栗國淳、指揮には近代作品も得意とする沼尻竜典が『フィレンツェの悲劇/ジャンニ・スキッキ』に続いて登場。ダブルビルならではのコントラストが楽しみです。アンジェリカには、トスカなどドラマティックな役柄でスター街道を駆け上がるキアラ・イゾットンが、21年『トスカ』以来の出演となります。

あらすじ

【修道女アンジェリカ】夕暮れの修道院。礼拝を終え修道女たちは、アンジェリカは面会を待ち続けているのだと噂する。ついに面会の夫人が訪れる。アンジェリカの叔母の公爵夫人である。夫人はアンジェリカの妹の結婚のため、両親の遺産を放棄し妹へ与えるようにと遺産整理の手続きに来たのだ。アンジェリカは未婚の母であり、そのために7年前、子どもと引き離され修道院へ入れられていた。妹の結婚を喜び、わが子の様子をおずおずと尋ねるアンジェリカに、公爵夫人が子どもは2年前に亡くなったと伝える。悲嘆にくれるアンジェリカ。深夜、アンジェリカはひっそりと薬草を煎じて毒薬を作り、息子のもとへ旅立とうと毒をあおるが、すぐに自殺の大罪を犯しては天国へ行けないことに気づき絶望する。罪を悔い、聖母マリアに祈りを捧げるアンジェリカに奇蹟が起こり、天使の合唱の中、アンジェリカは息子に導かれ息を引き取る。

【子どもと魔法】宿題がいやで文句だらけの男の子。お母さんは怒って、味気ないパンと苦いお茶をおやつに置いていく。男の子はポットやカップを割ったり、リスや猫をいじめたり、暖炉をかき回してやかんを引っくり返したり、壁に落書きしたり、時計を壊したり本を破いたりと暴れ放題。すると椅子が動いて「乱暴な子はまっぴら」とダンスを始め。時計も怒るし、ポットもカップも脅かすし、「悪い子を焼き殺そう」と火まで追いかけてくる。壁紙から落書きの羊飼いや、破れた本からおとぎ話のお姫様、そして教科書から算数の問題を出す妙なおじいさんまで登場。男の子が庭に逃げ出すと、寄り掛かった木が「お前がつけた傷だ」とうめくのでびっくり。トンボやこうもり、カエルと、いじめられた生き物たちも次々に集まる。男の子が思わず「ママ」と叫ぶと、生き物たちが仕返ししようと飛びかかって大騒ぎに。怪我してしまったリスを男の子が手当ですると、生き物たちは子どもの優しいところに気づいて、気を失った男の子を助けて家まで運んで「ママ」と声をかけ、「坊やはいいい子になった」と言って消えていく。月明かりのもと、目を覚ました男の子が「ママ」と呼びかける。

ジャコモ・プッチーニ／モーリス・ラヴェル

修道女アンジェリカ／子どもと魔法

Giacomo PUCCINI "Suor Angelica" / Maurice RAVEL "L'enfant et les sortilèges"

『修道女アンジェリカ』全1幕(イタリア語上演／日本語及び英語字幕付)

『子どもと魔法』全2部(フランス語上演／日本語及び英語字幕付)

指揮 Conductor	沼尻竜典 NUMAJIRI Ryusuke
演出 Production	粟國 淳 AGUNI Jun
美術 Set Design	横田あつみ YOKOTA Atsumi
衣裳 Costume Design	増田恵美 MASUDA Emi
照明 Lighting Design	大島祐夫 OSHIMA Masao
振付 Choreographer	伊藤範子 ITO Noriko

【修道女アンジェリカ／Suor Angelica】

アンジェリカ Suor Angelica	キアラ・イゾットン Chiara ISOTTON
公爵夫人 La zia principessa	マリアンナ・ピッツォラート Marianna PIZZOLATO
修道院長 La badessa	塩崎めぐみ SHIOZAKI Megumi
修道女長 La suora zelatrice	郷家暁子 GOKE Akiko
修練女長 La maestra delle novizie	小林由佳 KOBAYASHI Yuka
ジェノヴィエツァ Suor Genovieffa	中村真紀 NAKAMURA Maki
オスミーナ Suor Osmina	伊藤 晴 ITO Hare
ドルチーナ Suor Dolcina	今野沙知恵 KONNO Sachie

【子どもと魔法／L'enfant et les sortilèges】

子ども L'enfant	クロエ・ブリオ Chloé BRIOT
お母さん Maman	齊藤純子 SAITO Junko
安楽椅子／羊飼いの娘／ふくろう／こもり La Bergère / Une pastourelle / La chouette / La chauve-souris	盛田麻央 MORITA Mao
柱時計／雄猫 L'horloge comtoise / Le chat	河野鉄平 KONO Teppei
中国茶碗／とんぼ La tasse chinoise / La libellule	十合翔子 SOGO Shoko

火／お姫様／夜鳴き鶯 Le feu / La princesse / Le rossignol	三宅理恵 MIYAKE Rie	
羊飼いの少年／牝猫／リス Un pâtre / La chatte / L'écureuil	杉山由紀 SUGIYAMA Yuki	
ティーポット La théière (Wedgewood noir)	濱松孝行 HAMAMATSU Takayuki	
小さな老人／雨蛙 Le petit vieillard / La rainette	青地英幸 AOCHI Hideyuki	ほか
合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus	
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra	

2023年	10月	1日(日)14:00	4日(水)19:00
		7日(土)14:00	9日(月・祝)14:00

【チケット料金】 S:29,700円 ・ A:24,200円 ・ B:17,600円 ・ C:11,000円 ・ D:7,700円

【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:沼尻竜典

Conductor : NUMAJIRI Ryusuke

神奈川フィルハーモニー管弦楽団音楽監督、トウキョウ・ミタカ・フィルハーモニア音楽監督、びわ湖ホール桂冠芸術監督。ベルリン留学中の1990年、プザンソン国際指揮者コンクールで優勝。以来、ロンドン響、モンテリオール響、ベルリン・ドイツ響、ベルリン・コンツェルトハウス管、フランス放送フィル、ミラノ・ヴェルディ響、シドニー響、チャイナ・フィル等世界各国のオーケストラに客演を重ねる。国内ではNHK交響楽団を指揮してデビュー以来、新星日本響、東京フィル、名古屋フィル、日本フィル、群馬響、日本センチュリー響のポストを歴任。2011年にはサイトウ・キネン・オーケストラにデビュー。ドイツではリュールベック歌劇場音楽総監督を務め、オペラ公演、リュールベック・フィルとのコンサートの双方において数々の名演を残した。ケルン歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ベルリン・コーミッシェ・オーパー、パーゼル歌劇場、シドニー歌劇場等へも客演。16年間芸術監督を務めたびわ湖ホールでは、17年より4年間かけ《ニーベルングの指環》を上演、空前の成功を収めた。14年には横浜みなとみらいホールの委嘱でオペラ『竹取物語』を作曲・初演、国内外で再演されている。これまで出光音楽賞、渡邊暁雄音楽基金音楽賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、毎日芸術賞、中島健蔵音楽賞、文化庁芸術祭優秀賞、芸術選奨文部科学大臣賞、ENEOS音楽賞洋楽部門本賞等を受賞。2017年春には紫綬褒章を受章している。新国立劇場では『カルメン』『フィガロの結婚』『鹿鳴館』『トスカ』『フィレンツェの悲劇/ジャンニ・スキッキ』、鑑賞教室『カルメン』『トスカ』を指揮している。



演出:粟國 淳

Production : AGUNI Jun

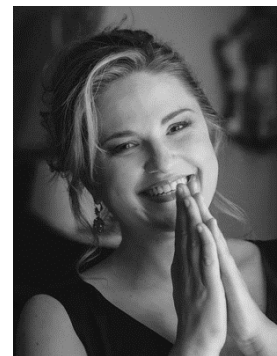
東京生まれローマ育ち。ローマ・サンタ・チェチーリア音楽院でヴァイオリンと指揮法を学ぶ。オペラの演技・演出法をM.ゴヴォーニに師事。新国立劇場ではF.ゼッフィレリ、L.ロンコーニなど巨匠達の演出助手を務めた。1998年から文化庁派遣芸術家在外研修員として渡伊、H.ブロックハウス氏のもとで研鑽を積んだ後、P.ファッジョーニ、A.ファッシーニなどの片腕としてヨーロッパを拠点に活躍。97年藤原歌劇団公演『愛の妙薬』で演出家デビュー。びわ湖ホール、二期会、神奈川県民共同制作『トゥーランドット』『アイダ』『オテロ』、東京二期会『仮面舞踏会』、あいちトリエンナーレ『ホフマン物語』、藤原歌劇団『ファルスタッフ』『ノルマ』、日生劇場オペラ『アイナダマール』（日本初演）『セビリアの理髪師』、紀尾井ホールバロックオペラ『オリンピアアデ』など多数の作品を手掛ける。海外ではサッサリ・ヴェルディ劇場『アンドレア・シェニエ』『エルナーニ』、スロベニア国立マリボール歌劇場『ホフマン物語』を演出している。2011年度エクソンモービル音楽奨励賞を受賞。新国立劇場では『ラ・ボエーム』『セビリアの理髪師』『おさん』『フィレンツェの悲劇/ジャンニ・スキッキ』『チェネレントラ』、小劇場オペラ『外套』を演出。現在、日生劇場芸術参与、新国立劇場オペラ研修所演出主任講師。



アンジェリカ(『修道女アンジェリカ』):キアーラ・イゾットン(ソプラノ)

Suor Angelica : Chiara ISOTTON

イタリア・ベッルーノ出身。生地ですんだ後、ヴェネツィアのベネデット・マルチェッロ音楽院を卒業。2013年、スポレートコンクールに優勝し、スポレート・ドゥエ・モンディ音楽祭『トスカ』タイトルロールに出演。同年ミラノ・スカラ座アカデミーに入り、メータ指揮『アイダ』巫女でミラノ・スカラ座にデビュー。15年にはアカデミーを修了し、スポレート歌劇場で『ラ・ボエーム』ミミに出演した。これまでにミラノ・スカラ座で『椿姫』フローラ、『ヘンゼルとグレーテル』ゲルトルート、フェニーチェ歌劇場、ピアチェンツァ歌劇場『トスカ』タイトルロール、サッサリ歌劇場『イル・トロヴァトーレ』レオノーラなど出演。最近ではパレルモ・マッシモ劇場『トスカ』（演奏会形式）、マルセイユ歌劇場『ドン・カルロ』エリザベッタ、トゥールーズ・キャピトル劇場『メフィストーフェレ』マルゲリータ、トラパーニ音楽祭『トスカ』タイトルロール、『イル・トロヴァトーレ』レオノーラに出演。新国立劇場では21年『トスカ』タイトルロールに出演した。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

公爵夫人(『修道女アンジェリカ』):マリアンナ・ピッツォラート(メゾソプラノ)

La zia principessa : Marianna PIZZOLATO

イタリア生まれ。ロッシーニのスペシャリストとして活躍し、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルへ2003年の『ランスへの旅』でデビュー以来、『タンクレディ』『アルジェのイタリア女』『セビリアの理髪師』『エルミオーネ』『チェネレントラ』など数多く出演している。『チェネレントラ』でウェールズ・ナショナル・オペラ、パリ・オペラ座、『セビリアの理髪師』はボローニャ歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場、チューリヒ歌劇場、サン・カルロ歌劇場、『アルジェのイタリア女』でボローニャ歌劇場、サン・カルロ歌劇場、さらにメトロポリタン歌劇場などに出演。リセウ大劇場、サン・カルロ歌劇場、英国ロイヤルオペラなどで『皇帝ティートの慈悲』『コジ・ファン・トゥッテ』『ナブッコ』などに出演しているほか、カヴァッリ、モンテヴェルディ、ヴィヴァルディ、ヘンデルなどのバロック作品の出演も多く、ザルツブルク音楽祭、ミラノ・スカラ座、リセウ大劇場に加えて多くのバロックの演奏団体や音楽祭に招かれている。宗教曲を中心としてコンサートのソリストとしても活躍し、ムーティ、ジェルメッティ、パッパーノ、ガッティ、ビシュコフ、ゼッターらと共演、録音も数多い。新国立劇場へは23年2月『ファルスタッフ』クイックリー夫人でデビューした。



子ども(『子どもと魔法』):クロエ・ブリオ(ソプラノ)

L'enfant : Chloé BRIOT

フランスの若手ソプラノ。『ペレアスとメリザンド』イニョルド、『子どもと魔法』子どもでシカゴ交響楽団、ロサンゼルス・フィル、フランス放送フィル、フィルハーモニア管弦楽団と共演し、急速に国際的な注目を集める。パリ国立音楽高等学院で学ぶ。2014年エクサン・プロヴァンス音楽祭アカデミーHSBC賞に選出。UFAM国際声楽コンクール新人賞受賞。モーツァルトやフランス・オペラをレパートリーとし、特に『子どもと魔法』子どもに数多く出演。これまでに、モネ劇場、オランダ国立オペラ『アルチーナ』オベルト、グライントボーン音楽祭ツアー公演『ペレアスとメリザンド』イニョルド、リヨン歌劇場、リール歌劇場『にんじんの王様』、マルセイユ歌劇場『天国と地獄』キューピッド、ヴェルサイユ王室歌劇場『ラ・ボレアド』セミレ、アンジェ＝ナント・オペラ、ディジョン歌劇場『リトル・ニモ』少年ニモに、エクサン・プロヴァンス音楽祭、モネ劇場、ディジョン歌劇場、ボルドー歌劇場で『ピノッキオ』人形などに出演している。19年にはパリ・オペラ座『魔笛』パパゲーナ、オペラ・コミック『L' Inondation (洪水)』女、リヨン歌劇場『にんじんの王様』ロゼ・デュ・ソワールに、21年にはシャンゼリゼ劇場『ペレアスとメリザンド』イニョルドに出演。新国立劇場初登場。



お母さん(『子どもと魔法』):齊藤純子(メゾソプラノ)

Maman : SAITO Junko

東京都出身。東京藝術大学卒業、同大学院修了。フランス政府給費留学生として渡仏し、パリ、ニューヨーク、ボルドーなどで学ぶ。以後ボルドー大劇場、ナポリ・サンカルロ劇場、ラヴェンナ・ダンテ・アリギーリ劇場、南チロル音楽祭、チロル音楽祭、サンタンデール音楽祭など欧州各地で活躍。近年ではびわ湖ホール『神々の黄昏』ノルン2、ベルカント・オペラ・フェスティバルinジャパン『ジュリエッタとロメオ』アデーリアに出演。オペラでは『ラインの黄金』『神々の黄昏』ヴェルグンデ、『ワルキューレ』ジークリンデ、『パルジファル』クンドリー、『さまよえるオランダ人』ゼンタ、『フィデリオ』レオノーレ、『トスカ』『アルツィーラ』『カルメン』タイトルロールなど、コンサートでもモーツァルト『短調ミサ』、ハイドン『天地創造』、フォーレ、ドヴォルザーク、シューマン『レクイエム』、ベートーヴェン『第九』『荘厳ミサ』、ロッシーニ、ペルゴレージ『スターパト・マーテル』などのソロを務め、シェーンベルク、ラヴェルの歌曲、さらにベリオ、エトヴェシュといった現代曲まで手掛けている。『アルツィーラ』『ニーベルングの指環』などCD、DVDも世界各国で発売されている。新国立劇場では『フィレンツェの悲劇』ピアンカ、『チェネレントラ』ティーズベに出演した。



シモン・ボッカネグラ

Simon Boccanegra

●会員先行販売期間：2023年8/27(日)～9/6(水)

オペラパレス | 5回公演 | プロローグ付き全3幕(イタリア語上演/日本語及び英語字幕付)

●一般発売日：2023年9/9(土)

初演：1857年3月12日/フェニーチェ歌劇場

改訂版初演：1881年3月21日/ミラノ・スカラ座

作曲：ジュゼッペ・ヴェルディ

原作：アントニオ・ガルシア・グティエレス

台本：フランチェスコ・マリア・ピアヴェ/アツリーゴ・ボーイト(改訂版)

プロダクションについて

ヴェルディ中期にあたる43歳で作曲し、24年後の大幅改訂で一躍成功を収めた『シモン・ボッカネグラ』が新国立劇場初登場。14世紀に実在した初代ジェノヴァ総督シモン・ボッカネグラを題材とし、平民派と貴族派の争い、親子や恋人の愛憎が入り組むドラマが力強い音楽で一気に展開します。フィエスコの沈痛なアリア「引き裂かれた父の心は」、アメリカのロマンツァ「暁に星と海はほほえみ」、シモンとアメリカの二重唱、ガブリエーレのアリア「わが心に炎が燃える」、シモンのモノローグ「慰めてくれ、海のそよ風よ」、そして緊迫した重唱や多彩な合唱と聴きどころも満載です。元海賊で名総督となるシモン（バリトン）、貴族階級で厳格な性格の宿敵フィエスコ（バス）をはじめ、ヴェルディならではの男声低音キャラクターの魅力が凝縮され、上演には盤石の歌手陣を必要とする作品でもあります。

演出にあたるのは、長年オランダ国立オペラを率い、18年からはエクサン・プロヴァンス音楽祭総監督を務める、現代オペラ界屈指の演出家ピエール・オーディ。現代アートのアニッシュ・カプーアとのコラボレーションです。指揮にはイタリア・オペラへも情熱を注ぐ大野和士自らが当たります。シモンにヴェルディ・バリトンとして世界を飛び回るロベルト・フロンターリ、フィエスコにはミラノ・スカラ座をはじめ著名劇場でバスの諸役を務めるリッカルド・ザネッラート、パオロに実力派シモーネ・アルベルギーニと重厚な布陣。アメリカにスター・ソプラノとして日本でもファンの多いイリーナ・ルング、そして恋人ガブリエーレには輝かしい声が持ち味のルチアーノ・ガンチが待望の登場を果たします。

本プロダクションはフィンランド国立歌劇場及びテアトロ・レアルとの共同制作で、新国立劇場での初演後にヘルシンキ、マドリードでの上演が予定されています。

あらすじ

【プロローグ】ジェノヴァの平民派パオロはシモン・ボッカネグラを総督に就かせ貴族派から権力を奪おうと画策する。シモンも貴族の娘マリアとの結婚の許しを得るため、総督立候補を決意する。しかし父フィエスコに幽閉されていたマリアは既に病死していた。結婚の許しを請うシモンに、フィエスコは娘の死を隠し、娘とシモンの間に生まれた子を渡すよう要求するが、子は行方不明であった。フィエスコと決裂したまま、シモンは恋人の亡骸と対面する。

【第1幕】25年後。シモンの娘マリアは孤児としてグリマルディ家に拾われアメリカ・グリマルディとなり、アンドレーアと名乗るフィエスコに養育されていた。アメリカの恋人ガブリエーレはアンドレーアに、たとえ孤児の出であっても彼女と結婚したいと伝える。総督シモンはアメリカの身の上を聞くうち彼女こそ行方不明の娘と気づき、父娘は再会を果たす。パオロもアメリカとの結婚を望むがシモンに断られ、彼女の誘拐を決意する。ガブリエーレがアメリカ誘拐の実行犯を殺害して暴動を起こし、アンドレーアと共に議会に引き立てられる。ガブリエーレはシモンこそ首謀者と糾弾し切り掛かるが、逃げてきたアメリカが制する。シモンは皆を諫めて二人を捕える。シモンに真犯人を呪うよう命じられたパオロは、恐れおののきながら自らを呪う。

【第2幕】パオロはシモンを恨んで彼の水に毒を盛り、アンドレーアにシモン殺害をけしかけ拒絶される。次いでガブリエーレにアメリカが総督に弄ばれていると吹き込み、シモン殺害を唆す。アメリカは激昂するガブリエーレを隠し、シモンに恋人の赦免を懇願する。水を飲んだシモンの意識が薄らぐ。ガブリエーレが襲いかかるが、シモンにアメリカは実の娘だと明かされ謝罪する。ガブリエーレは蜂起した貴族派の平定に向かう。

【第3幕】ジェノヴァに平和が戻り、反乱に加わったパオロは捕えられる。遠く婚礼の合唱が聞こえ、瀕死のシモンは海を懐かしむ。フィエスコが訪れると、シモンはついに和解の日が来たと喜び、アメリカこそフィエスコの孫娘であることを伝える。シモンはガブリエーレを後継者と言いついに息絶える。

ジュゼッペ・ヴェルディ

シモン・ボッカネグラ

Giuseppe VERDI / Simon Boccanegra

プロローグ付き全3幕(イタリア語上演/日本語及び英語字幕付)

指揮 Conductor	大野和士 ONO Kazushi
演出 Production	ピエール・オーディ Pierre AUDI
美術 Set Design	アニッシュ・カプーア Anish KAPOOR
衣裳 Costume Design	ヴォイチェフ・ジエジツ Wojciech DZIEDZIC
照明 Lighting Design	ジャン・カルマン Jean KALMAN
シモン・ボッカネグラ Simon Boccanegra	ロベルト・フロンターリ Roberto FRONTALI
マリア・ボッカネグラ(アメリア) Maria Boccanegra (Amelia)	イリーナ・ルング Irina LUNGU
ヤーコポ・フィエスコ Jacopo Fiesco	リッカルド・ザネッラート Riccardo ZANELLATO
ガブリエーレ・アドルノ Gabriele Adorno	ルチアーノ・ガンチ Luciano GANCI
パオロ・アルビアーニ Paolo Albiani	シモーネ・アルベルギーニ Simone ALBERGHINI
ピエトロ Pietro	須藤慎吾 SUDO Shingo
		ほか
合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

共同制作：フィンランド国立歌劇場、テアトロ・レアル

Co-production with Finnish National Opera and Ballet, Teatro Real Madrid

2023年	11月	15日(水) 19:00	18日(土) 14:00
		21日(火) 14:00	23日(木・祝) 14:00
		26日(日) 14:00	

【チケット料金】 S:29,700円 ・ A:24,200円 ・ B:17,600円 ・ C:11,000円 ・ D:7,700円

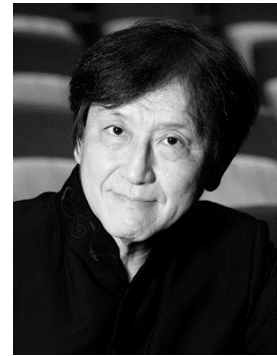
【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:大野和士

Conductor : ONO Kazushi

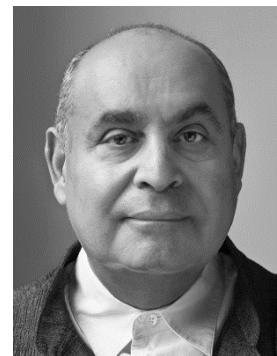
東京藝術大学卒業後、バイエルン州立歌劇場でサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。ザグレブ・フィル音楽監督、バーデン州立歌劇場音楽総監督、ベルギー王立モネ劇場音楽監督、アルトゥーロ・トスカニーニ・フィル首席客演指揮者、リヨン歌劇場首席指揮者、バルセロナ交響楽団音楽監督を歴任。現在、新国立劇場オペラ芸術監督（2018年～）及び東京都交響楽団音楽監督、ブリュッセル・フィルハーモニック音楽監督。これまでにボストン響、ロンドン響、ロンドン・フィル、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、フランクフルト放送響、パリ管、フランス放送フィル、スイス・ロマンド管、イスラエル・フィルなど主要オーケストラへ客演を重ね、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、エクサン・プロヴァンス音楽祭など主要歌劇場や音楽祭で数々のプロダクションを指揮。新作初演にも意欲的で、数多くの世界初演を成功に導いている。17年にはリヨン歌劇場がインターナショナル・オペラ・アワード「最優秀オペラハウス」を獲得し、フランス芸術文化勲章オフィシエを受勲。日本芸術院賞、サントリー音楽賞、朝日賞など受賞多数。文化功労者。新国立劇場では1998年『魔笛』、2010～11年『トリスタンとイゾルデ』、19年『紫苑物語』『トゥーランドット』、20年『アルマゲドンの夢』、21年『ワルキューレ』『カルメン』『Super Angels スーパーエンジェル』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』、22年『ペレアスとメリザンド』『ボリス・ゴドゥノフ』を指揮している。23年6、7月には『ラ・ボエーム』を、23/24シーズンは『シモン・ボッカネグラ』『トリスタンとイゾルデ』を指揮する予定。



演出:ピエール・オーディ

Production : Pierre AUDI

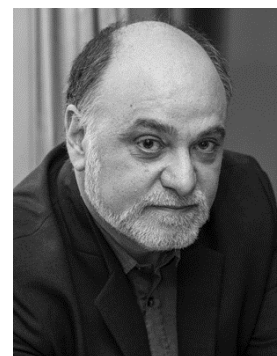
レバノン出身。オックスフォード大学で学ぶ。1979年ロンドンでアルメイダ劇場と同劇場現代音楽フェスティバルを設立、89年まで監督を務める。88年から2018年までオランダ国立オペラ芸術監督。在任中の16年に同劇場がインターナショナル・オペラ・アワード最優秀オペラカンパニーに輝く。04年～14年、オランダフェスティバル芸術監督。18年からエクサン・プロヴァンス音楽祭総監督、ニューヨーク・パークアヴェニュー・アーモリー芸術監督。演出家としては、カレル・アベル、ゲオルグ・バゼリッツ、アニッシュ・カプーア、ヘルツォーク&ド・ムーロンらの現代美術家と協働し、大評判を博したモンテヴェルディシリーズやオランダ初の『ニーベルングの指環』チクルスなど、バロックからモーツァルト、ワーグナー、ヴェルディ、メシアンまで幅広い作品を演出。現代作品の演出は特に多く、キャリア初期以来、約40の世界初演作を演出している。世界の主要劇場に演出に招かれ、最近では16年メトロポリタン歌劇場『ウィリアム・テル』、18年ミラノ・スカラ座『Fin de Partie (エンドゲーム)』世界初演、オランダ国立オペラ『光から』、22年オランダ国立オペラ『エウリディーチェ——Die Liebenden Blind』、フィレンツェ歌劇場『オルフェオとエウリディーチェ』などを演出。レスリー・ブージー賞、ドロットニングホルム黄金勲章、オランダ批評家賞、アムステルダム文化ビジネス賞、フェルメール賞など受賞多数。オランダ獅子勲章、レジオン・ドヌール勲章、アムステルダム市銀メダル受章。オランダ国立オペラ退任時に芸術科学黄金勲章を授与される。22年には芸術文化勲章オフィシエを授与された。新国立劇場初登場。



シモン・ボッカネグラ:ロベルト・フロンターリ(バリトン)

Simon Boccanegra : Roberto FRONTALI

世界で最も重要なバリトン歌手のひとり。キャリア初期はベルカント、その後ヴェルディ、最近ではプッチーニやヴェリズモをレパートリーとする。1990年代初頭にメトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座へデビュー。特に重要な出演に、アバド指揮『セビリアの理髪師』、ミラノ・スカラ座で10年に渡り共演したムーティ指揮『椿姫』『ファルスタッフ』『ドン・パスクワーレ』、メータ指揮『運命の力』『ルチア』『ファルスタッフ』、ザクセン州立歌劇場『ドン・カルロ』、フェニーチェ歌劇場『リゴレット』などがある。最近の特筆すべき出演に、ウィーン国立歌劇場『アドリアーナ・ルクヴール』ミショネ、『シモン・ボッカネグラ』タイトルロール、メトロポリタン歌劇場、テアトロ・レアル『リゴレット』、ロサンゼルス・オペラ、ローザンヌ歌劇場『ファルスタッフ』、サンフランシスコ・オペラ『西部の娘』ジャック・ランズ、ローマ歌劇場『カヴァレリア・ルスティカーナ』アルフィオ、サンフランシスコ・オペラ、フェニーチェ歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ローマ歌劇場、ナポリ・サンカルロ歌劇場、トリノ王立歌劇場『オテロ』イアーゴ、メトロポリタン歌劇場『シラノ・ド・ベルジュラック』ド・ギッシュ伯爵、パリ・オペラ座『マクベス』タイトルロール、フィレンツェ歌劇場『ペレアスとメリザンド』ゴローなどがある。新国立劇場では98年『セビリアの理髪師』フィガロ、2002年『ルチア』エンリーコ、15年『トスカ』スカルピアに出演。23年5、6月『リゴレット』へも出演予定。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

マリア・ボッカネグラ:イリーナ・ルング(ソプラノ)

Maria Boccanegra : Irina LUNGU

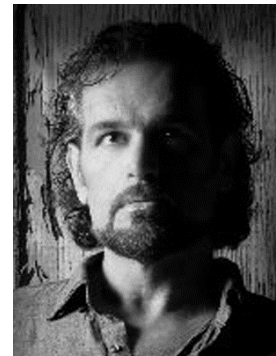
ロシア出身。ミラノ・スカラ座アカデミー在籍中にリッカルド・ムーティによりミラノ・スカラ座2003/04シーズンオープニング『モイーズとファラオン』アナイ役に抜擢され、同劇場で『愛の妙薬』アディーナ、『マリア・ストゥアルダ』タイトルロールなどに出演。ミラノ・スカラ座の『椿姫』ヴィオレッタは07年にデビュー後、08年、13年にも出演している。瞬く間に世界のオペラ界の主要アーティストとなり、パルマ王立歌劇場、ローマ歌劇場、ヴェローナ音楽祭、トリノ王立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、フェニーチェ歌劇場などに、『椿姫』ヴィオレッタ、『愛の妙薬』アディーナ、『リゴレット』ジルダ、『カルメン』ミカエラ、『ラ・ボエーム』ムゼッタなどで出演。21/22シーズンはパリ・オペラ座『リゴレット』ジルダ、バイエルン州立歌劇場『イタリアのトルコ人』フィオリツァ、ギリシャ国立歌劇場、英国ロイヤルオペラ『ファウスト』マルグリート、チューリヒ歌劇場『ファルスタッフ』アリーチェ(ロールデビュー)、サレルノ・ヴェルディ歌劇場『愛の妙薬』アディーナ、オペラ・オーストラリア『椿姫』などに出演している。新国立劇場では17年『椿姫』、21年『ルチア』に出演した。



ヤーコポ・フィエスコ:リッカルド・ザネッラート(バス)

Jacopo Fiesco : Riccardo ZANELLATO

イタリア生まれ。重要なバスの役で常に名前が上がる歌手の一人。リッカルド・ムーティによりローマ歌劇場に定期的に招かれているほか、ミラノ・スカラ座、トリノ王立歌劇場、ヴェローナ野外歌劇場、パレルモ・マッシモ歌劇場、パルマ・ヴェルディ音楽祭、バレンシア歌劇場、リセウ大劇場、ネザーランド・オペラ、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、サン・カルロ歌劇場、チューリヒ歌劇場、フランダース・オペラ、ザルツブルク音楽祭などに出演。『モイーズとファラオン』モーゼ、『ナブッコ』ザッカーリア、『シモン・ボッカネグラ』ヤーコポ・フィエスコ、『アッティラ』タイトルロール、『アイダ』ランフィス、『マクベス』バンクォー、『ドン・カルロ』フィリップポ二世、『アンナ・ボレーナ』エンリーコ、『ラ・ボエーム』コッリーネなどをレパートリーとしている。コンサートでも活躍し、特にヴェルディ『レクイエム』では世界各地に出演、多くの著名な指揮者と共演している。新国立劇場では2019年『トゥーランドット』ティムールに出演した。



ガブリエーレ・アドルノ:ルチアーノ・ガンチ(テノール)

Gabriele Adorno : Luciano GANCI

ローマ生まれ。2001年ドミンゴの「オペラリア」コンクール入賞、同年『ジャンニ・スキッキ』でデビュー。『蝶々夫人』ピンカートン、『ラ・ボエーム』ロドルフォといったプッチーニの諸役や、『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドゥスなどを歌い、12年にザルツブルク州立劇場『椿姫』で国際的にデビュー。広く輝かしい声で活躍し、ミラノ・スカラ座、サン・カルロ歌劇場、ヴェローナ野外歌劇場、ボローニャ歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場、フィレンツェ歌劇場、ヴェルディ音楽祭、プッチーニ音楽祭、ウィーン国立歌劇場、リセウ大劇場、バーリ・ペトルツェッリ劇場、マリンスキー劇場、ポリショイ劇場などで、『椿姫』アルフレード、『イル・トロヴァトーレ』マンリーコ、『アイダ』ラダメス、『蝶々夫人』ピンカートン、『ルチア』エドガルド、『カルメン』ドン・ホセなどに出演している。最近ではウィーン国立歌劇場、ローマ歌劇場『トスカ』カヴァラドッシ、ウィーン国立歌劇場、ボローニャ歌劇場『アドリアーナ・ルクヴール』マウリツィオ、ボローニャ歌劇場『アンドレア・シェニエ』タイトルロールなどに出演。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

パオロ・アルビアーニ:シモーネ・アルベルギーニ(バス・バリトン)

Paolo Albiani : Simone ALBERGHINI

ボローニャ生まれ。1993年トリノ王立歌劇場でデビュー後、イタリア内外の主要歌劇場に出演。ロッシーニ・オペラ・フェスティバルに『オテロ』『タンクレディ』『泥棒かささぎ』『ギョーム・テル』など数多く出演。『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、フィガロ、『コジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールのほか、『チェネレントラ』ダンディーニ、『ホフマン物語』悪役、『カルメン』エスカミーリョなど、モーツァルト、ロッシーニをはじめイタリア及びフランス・オペラをレパートリーに、グラインドボーン音楽祭、ローマ歌劇場、マチェラータ音楽祭、サン・カルロ歌劇場、ワシントン・オペラなどに出演を重ねる。これまでにウィーン国立歌劇場、ボローニャ歌劇場、リセウ大劇場、トリノ王立歌劇場、チューリヒ歌劇場などで『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、フェニーチェ歌劇場、ボローニャ歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『カルメン』エスカミーリョなどに出演している。最近ではボローニャ歌劇場『シモン・ボッカネグラ』パオロ、トリノ王立歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、サン・カルロ歌劇場『ラ・ボエーム』マルチェッロ、ボローニャ歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、フェニーチェ歌劇場『アルジェのイタリア女』ムスタファ、『椿姫』ジェルモンなどに出演している。新国立劇場では2022年『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロールに出演した。



こうもり

Die Fledermaus

オペラパレス | 4回公演 | 全3幕(ドイツ語上演/日本語及び英語字幕付)

●会員先行販売期間: 2023年9/23(土・祝)~10/3(火)

●一般発売日: 2023年10/7(土)

初演:1874年4月5日/アン・デア・ウィーン劇場

作曲:ヨハン・シュトラウスⅡ世

原作:アンリ・メイヤック、リウドヴィク・アレヴィ「大晦日の祝宴」ほか

台本:カール・ハフナー、リヒャルト・ジュネー

プロダクションについて

ワルツ王シュトラウスⅡ世が手がけたオペレッタの最高傑作『こうもり』。シャンパンの泡が弾けるような心躍る序曲を皮切りにシュトラウスの軽快で洒落な音楽が続き、美しいワルツやポルカにのせてユーモアいっぱいの喜劇が繰り広げられます。親しみやすい音楽と共に、小粋なユーモアや風刺が観客の心を高揚させ、大団円を迎える頃には歌と踊りと芝居に劇場中が幸福な空気です。ウィーン年末年始の風物詩としてもおなじみです。

演出はウィーン宮廷歌手の名テノール歌手ハインツ・ツェドニク。ウィーン気質を熟知するツェドニクによる、エレガントで洒落な仕掛けがふんだんに用意された正統的な演出が『こうもり』の魅力余すところなく伝えます。アール・デコ調の華やかな美術・衣裳も大きな見どころ。金色に輝く幾何学模様や官能的なラインの衣裳など、クリムトを彷彿させるデザインもファンをくすぐります。目に耳にウィーン洗練の美と洒落た風刺が続く『こうもり』は、まさに大人のためのエンターテインメントです。

オーストリア出身でジャズピアノなど多才ぶりを発揮する若手指揮者パトリック・ハーンが新国立劇場初登場を飾るほか、フレッシュなキャストが華やかに揃います。



2018年公演より

あらすじ

【第1幕】アイゼンシュタインは公務執行妨害で刑務所に入らねばならず苛立っているが、収監前の気晴らしにと友人ファルケからオルロフスキー公爵邸の夜会へ誘われる。小間使いアデーレも妹イーダから夜会に誘われ、「重病の叔母を見舞うため休みがほしい」とひと芝居打つ。アイゼンシュタインの妻ロザリンデは夫の不在を寂しがすが、その間に昔の恋人のテノール歌手アルフレードと情事を楽しもうと企む。みな表向き悲しみに暮れているが、本心はウキウキ。夫の外出後ロザリンデがさっそくアルフレードと楽しもうとすると刑務所長フランクが来て、人違いでアルフレードを収監してしまう。

【第2幕】オルロフスキー公爵の夜会。アイゼンシュタインとフランクが鉢合わせし、お互いフランスの貴族だと自己紹介して、しどろもどろのフランス語で意気投合する。アデーレはロシアの女優になりすまして登場。仮面をつけたハンガリーの貴婦人がやってくるが、実はロザリンデ。正体に気づかないアイゼンシュタインは口説こうとするも、口説き道具の懐中時計を彼女に奪われてしまう。シャンパンで乾杯し、宴もたけなわ。朝6時になり、アイゼンシュタインとフランクは大慌てで館をあとにする。

【第3幕】刑務所。夜会の余韻に浸るフランク。アイゼンシュタインが刑務所に行くと、フランクがいてびっくり。お互い正体を明かすが、すでに自分が収監されていると聞き驚くアイゼンシュタイン。そこにロザリンデがやってきた。アイゼンシュタインは妻の不貞を責めるが、彼女は例の懐中時計を差し出す。ここでファルケが、すべては自分が仕組んだ"こうもりの復讐"だったと種明かしし、にぎやかに大団円となる。

ヨハン・シュトラウスⅡ世

こうもり

Johann STRAUSS Ⅱ / Die Fledermaus

全3幕(ドイツ語上演/日本語及び英語字幕付)

指揮 Conductor	パトリック・ハーン Patrick HAHN
演出 Production	ハインツ・ツェドニク Heinz ZEDNIK
美術・衣裳 Set and Cosutume Design	オラフ・ツォンベック Olaf ZOMBECK
振付 Choreographer	マリア・ルイーズ・ヤスカ Maria Luise JASKA
照明 Lighting Design	立田雄士 TATSUTA Yuji
ガブリエル・フォン・アイゼンシュタイン Gabriel von Eisenstein	ジョナサン・マクガヴァン Jonathan MCGOVERN
ロザリンデ Rosalinde	エレオノーレ・マルグエッレ Eleonore MARGUERRE
フランク Frank	ヘンリー・ワディントン Henry WADDINGTON
オルロフスキー公爵 Prinz Orlofsky	タマラ・グーラ Tamara GURA
アルフレード Alfred	伊藤達人 ITO Tatsundo
ファルケ博士 Dr. Falke	トーマス・タツル Thomas TATZL
アデーレ Adele	シェシュティン・アヴェモ Kerstin AVEMO
プリント博士 Dr. Blind	青地英幸 AOCHI Hideyuki
		ほか
合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

2023年	12月	6日(水)19:00	9日(土)14:00
		10日(日)14:00	12日(火)14:00

【チケット料金】 S:26,400円 ・ A:22,000円 ・ B:15,400円 ・ C:9,900円 ・ D:6,600円

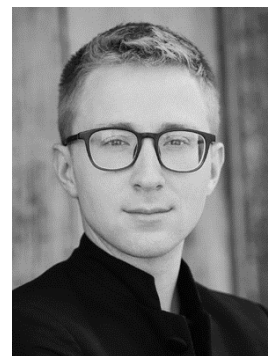
【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:パトリック・ハーン

Conductor : Patrick HAHN

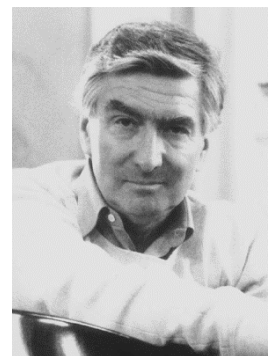
グラーツ出身。コンサートとオペラ双方で活躍する新鋭指揮者。2021/22シーズンからはヴッパタール交響楽団及びヴッパタール歌劇場音楽総監督に着任、ドイツ最年少の音楽総監督となる。21/22シーズンからボルサン・イスタンブールフィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者、ミュンヘン放送管弦楽団首席客演指揮者も務める。ミュンヘン・フィル、バイエルン放送響、ロイヤル・コンサートヘボウ管弦楽団、ロンドン・フィル、ケルン・ギェルツニヒ管弦楽団、NDR交響楽団などに招かれるほか、オペラではバイエルン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、チロル・エルル音楽祭などに登場。現代音楽ではクラングフォーラム・ウィーンとの共演を重ねる。最近指揮した公演に、オランダ国立オペラ『魔弾の射手』、ウィーン交響楽団と共演したキッセンゲンの夏音楽祭、ヴッパタール歌劇場『タンホイザー』、ミュンヘン・フィル、バイエルン放送響への客演がある。ゲオルク・クライスラーのキャブレソングの弾き歌いも行い、22年のクライスラー生誕100年記念でウィーンのコンツェルトハウスなど各地で演奏。ジャズピアニストとしてもシカゴ・ジャズフェスティバルでの数々の受賞、ウイスコンシン大学ジャズフェスティバルの最優秀ジャズピアニスト賞などの受賞がある。新国立劇場初登場。



演出:ハインツ・ツェドニク

Production : Heinz ZEDNIK

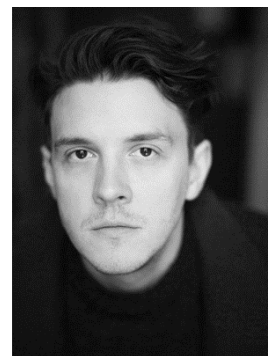
ウィーン生まれ。1964年グラーツ歌劇場と契約を結び、翌年、ウィーン国立歌劇場に移る。80年には宮廷歌手の称号を授与される。94年ウィーン国立歌劇場の名誉会員となり、97年にはフィデリオ・メダルを授与されている。これまでにバイロイト音楽祭、ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場など、世界の主要な歌劇場に出演。オペラとオペレッタのレパートリーは100役を超える。特に『こうもり』に関しては4役をレパートリーにしており、この演目に関してのエキスパートとして知られている。新国立劇場には、2004年『スペインの時』トルケマダ、『サロメ』ヘロデ、『ファルスタッフ』医師カイウスに出演。06年本プロダクションで演出家として世界デビューを果たし、09年、11年、15年、18年、20年に再演、今回が6度目の再演となる。



ガブリエル・フォン・アイゼンシュタイン:ジョナサン・マクガヴァン(バリトン)

Gabriel von Eisenstein : Jonathan MCGOVERN

イギリスのバリトン。英国ロイヤルオペラで『アポロとダフネ』アポロにロールデビュー。ガーシントン・オペラ『エウゲニ・オネーギン』タイトルロール、『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『魔笛』パパゲーノ、ウェルシュ・ナショナル・オペラ『戦争と平和』アンドレイ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、イングリッシュ・ナショナル・オペラ『ミカド』ピシュタッシュ、スコティッシュ・オペラ『夏の夜の夢』ディミトリアスに出演。コンサートでもエディンバラ音楽祭で『ナクソス島のアリアドネ』かつら師、アーリー・オペラカンパニー『デイドとエネアス』エネアス、ウィグモアホールで行われた『アポロとダフネ』アポロなどに出演。国外の歌劇場での主な出演に、ハンブルク州立歌劇場『魔笛』パパゲーノ、ベルリン・コーミッシェ・オーパー『ペレアスとメリザンド』ペレアス、シャンゼリゼ劇場『ドン・ジョヴァンニ』などがある。2022/23シーズンからベルン歌劇場専属歌手となり、『魔笛』パパゲーノ、『ギョーム・テル』ルートルドなどに出演している。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ロザリンデ:エレオノーレ・マルグエツレ(ソプラノ)

Rosalinde : Eleonore MARGUERRE

ハイデルベルク出身。カールスルーエ、ウィーンで声楽を学ぶ。2008年ヴィオッティコンクールなど数々の国際コンクールで優勝。キャリア初期にはジュネーヴ大劇場、ウィーン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ハンブルク州立歌劇場、ザクセン州立歌劇場などで『魔笛』夜の女王、ライプツィヒ歌劇場、エッセン歌劇場、ドルトムント歌劇場などで『後宮からの逃走』コンスタンツェ、ダルムシュタット歌劇場『リゴレット』ジルダなどに出演。その後リリック・ソプラノの役柄を歌うようになり、ドルトムント歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、ニュルンベルク歌劇場、エアフルト歌劇場、トゥール歌劇場、モンテカルロ歌劇場などで『コジ・ファン・トゥッテ』フィオルディリージ、『椿姫』ヴィオレッタ、『マノン』タイトルロール、『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、『フィガロの結婚』伯爵夫人などに出演。モネ劇場『利口な女狐の物語』狐、『フランケンシュタイン』（世界初演）エリザベートにも出演している。最近ではナント歌劇場、アヴィニヨン歌劇場、トゥーロン歌劇場『こうもり』ロザリンデ、ヴッパータール歌劇場『メリー・ウィドウ』ハンナ・グラヴァリなどに出演している。新国立劇場初登場。



フランク:ヘンリー・ワディングトン(バス・バリトン)

Frank : Henry WADDINGTON

イギリス出身。王立ノーザン音楽大学で学び、『夏の夜の夢』ボトムでデビュー。グランドボーン音楽祭で『アラベッラ』ラモラル伯爵、『夏の夜の夢』クインス、『フィデリオ』ドン・フェルナンドなどに出演を重ねる。英国ロイヤルオペラ、オペラ・ノース、イングリッシュ・ナショナル・オペラなどイギリスの様々なカンパニーに『フィガロの結婚』バルトロ、『セビリアの理髪師』バジリオ、『ラ・ボエーム』コッリーネ、『カルメン』スニガ、『オテロ』ロドヴィーコなどで出演。モネ劇場『三人姉妹』ソリョーヌイ、『オルフェオ』プルートのほか、リセウ大劇場、テアトロ・レアル『夏の夜の夢』クインス、オランダ国立オペラ『ビリー・バッド』などにも出演。最近の主な出演に、英国ロイヤルオペラ『フィガロの結婚』バルトロ、ウェールズ・ナショナル・オペラ『カルメン』スニガ、オランダ国立オペラ『イエヌーファ』粉屋の親方、ガーシントン・オペラ『ファルスタッフ』タイトルロール、オールドバラ音楽祭『ピーター・グライムズ』スワロー、オペラ・ノース『ばらの騎士』オックス男爵などがある。新国立劇場初登場。



オルロフスキー公爵:タマラ・ゲーラ(メゾソプラノ)

Prinz Orlofsky : Tamara GURA

アメリカ出身。チューリヒ歌劇場オペラスタジオを経て、ハンブルク州立歌劇場で『ジュリオ・チェーザレ』セスト、『イタリアのトルコ人』ザイダ、『スペードの女王』ポリーナ、『ポッペアの戴冠』アモーレなどに、バーデン州立歌劇場専属歌手として『イドメネオ』イダマンテ、『フィガロの結婚』ケルビーノ、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『セビリアの理髪師』ロジーナなどに出演。カールスルーエ・ヘンデル音楽祭『ラダミスト』タイトルロールなどバロック作品で評価され、バロック、モーツァルト、ベルカントから現代作品と広いレパートリーを持つ。ザルツブルク州立劇場、ザクセン州立歌劇場、イングリッシュ・ナショナル・オペラ、ローマ歌劇場、エッセン・アールト劇場などで『チェネントラ』『アリオダンテ』のタイトルロール、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『こうもり』オルロフスキー公爵、『ホフマン物語』ニクラウス、『夏の夜の夢』ハーミア、『オルフェオとエウリディーチェ』オルフェオ、『カルメン』タイトルロールなどに出演。最近では、トゥーロン歌劇場、ハンブルク州立歌劇場『こうもり』オルロフスキー公爵、フランクフルト歌劇場『夏の夜の夢』ハーミアなどに出演。新国立劇場初登場。

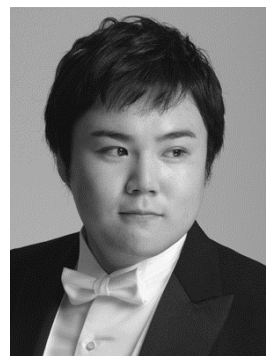


主要キャスト・スタッフ プロフィール

アルフレード:伊藤達人(テノール)

Alfred : ITO Tatsundo

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、同大学院修士課程修了。新国立劇場オペラ研修所第14期修了。文化庁在外研修員としてベルリンにて研鑽を積む。東京二期会『ナクソス島のアリアドネ』ブリゲッラに出演。日生劇場『魔笛』武士I、『ヘンゼルとグレーテル』魔女、『ルチア あるいはある花嫁の悲劇』アルトゥーロで出演。2022年にはオーケストラ・アンサンブル金沢のオペラ『禅〜ZEN〜』鈴木大拙で主演を務めたほか、東京二期会『パルジファル』タイトルロール、日生劇場『ランメルモールのルチア』アルトゥーロと重要な出演が続いた。オペラのほか、15年新国立劇場演劇部門のミュージカル『パッション』にトラップ中尉役で出演。コンサートでもヘンデル『メサイア』、ベートーヴェン『第九』、オルフ『カルミナ・ブラーナ』などでソリストとして活躍。新国立劇場には21年『夜鳴さうぐいす』漁師でデビューし、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ダーヴィットに出演した。二期会会員。



ファルケ博士:トーマス・タツル(バス・バリトン)

Dr. Falke : Thomas TATZL

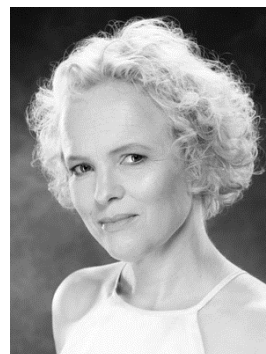
オーストリア出身。特にモーツァルトで活躍中のバス・バリトン。グラーツ音楽大学で声楽を学んだ後、ウィーン音楽大学を好成績で卒業。ベルリン国際歌曲コンクールなど国際コンクールに数多く入賞。在学中に『ドン・ジョヴァンニ』マゼットでオペラ・デビュー。チューリヒ歌劇場専属歌手となり多くの役柄に出演する傍ら、モンテカルロ歌劇場、リール、ビルバオ、バリアドリッド、ルクセンブルク、プレーメン音楽祭でハイドンのオペラ『L'Infedeltà Delusa (勘違いの不貞)』、クロスターノイブルクのオペラフェスティバルで『フィガロの結婚』タイトルロールに出演。その後フリーとなり、パパゲーノ、フィガロ、アルマヴィーヴァ伯爵、ドン・ジョヴァンニなどでザルツブルク音楽祭、ウィーン国立歌劇場、フェニーチェ歌劇場、チューリヒ歌劇場、ローマ歌劇場、モンテカルロ歌劇場、トリノ王立歌劇場、バレンシア歌劇場、ケルン歌劇場、中国国家大劇院など世界の主要劇場や音楽祭に出演。ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場『ナクソス島のアリアドネ』ハルレキン、カリアリ歌劇場『ファルスタッフ』フォード、テアトロ・レアル『El Público』世界初演にも出演している。新国立劇場初登場。



アデーレ:シェシュティン・アヴェモ(ソプラノ)

Adele : Kerstin AVEMO

スウェーデン出身。イエーテボリ歌劇場に2002年に『ルル』タイトルロールでデビューして絶賛され、同劇場に『カプレーティとモンテッキ』ジュリエッタ、『ルチア』タイトルロール、『オルフェオとエウリディーチェ』エウリディーチェと出演を重ねる。スウェーデン王立歌劇場『Tristessa』(世界初演)、『ペレアスとメリザンド』メリザンド、『リゴレット』ジルダ、『魔笛』夜の女王に出演。ジュネーヴ大劇場、デンマーク王立歌劇場、ダルムシュタット歌劇場、モネ劇場、ブレゲンツ音楽祭、テアトロ・レアル、フランクフルト歌劇場、チューリヒ歌劇場、エクサン・プロヴァンス音楽祭などに、『仮面舞踏会』オスカル、『ばらの騎士』ゾフィー、『皆殺しの天使』レティシア、『リゴレット』ジルダ、『パウダー・ハー・フェイス』メイド、『コジ・ファン・トゥッテ』デスピーナ、『班女』花子などで出演。最近では、イエーテボリ歌劇場『椿姫』ヴィオレッタ、『ラ・ボエーム』ミミ、『劇場の都合、不都合』プリマドンナ、『ホフマン物語』オランピア/アントニア/ジュリエッタのほか、ハンブルク州立歌劇場『人間の声』、バイエルン州立歌劇場『ジュディエッタ』アニータなどに出演。21年にはイエーテボリ歌劇場で、自身の発案・演出による『月に憑かれたピエロ』にも出演した。新国立劇場初登場。



エウゲニ・オネーギン

Eugene Onegin

オペラパレス | 4回公演 | 全3幕(ロシア語上演/日本語及び英語字幕付)

●会員先行販売期間: 2023年10/28(土)~11/7(火)

●一般発売日: 2023年11/11(土)

初演:1879年3月17日/モスクワ・マールイ劇場

作曲:ピョートル・チャイコフスキー

原作:アレクサンドル・プーシキン

台本:コンスタンチン・シロフスキー、ピョートル・チャイコフスキー

プロダクションについて

大野和士芸術監督のレパートリーの拡充の方針の下、ロシア・オペラの第一弾として制作したチャイコフスキーの甘美なオペラ『エウゲニ・オネーギン』を再演します。プーシキン原作の格調高いすれ違いの物語がチャイコフスキーならではの叙情豊かな音楽で綴られ、オペラファンならずとも心を動かされる名作です。「手紙の歌」や「青春は遠く過ぎ去り」、華麗なポロネーズなどは単独で上演されることも多い人気曲です。

ドミトリー・ベルトマンの演出はスタニスラフスキー演出をモチーフとしたもので、スタニスラフスキーのリアリズムを踏まえ、現代的な視点で人物を自然に生き活きと動かします。序盤のロシアの地方貴族の人間模様と、サンクトペテルブルクの公爵夫人となったタチヤーナとオネーギンの絶望を描く終幕とのコントラストも鮮やかで、美しい美術・衣裳も好評です。

世界トップソプラノのひとりエカテリーナ・シウリーナ、ヨーロッパで実力派バリトンとして頭角を現すユーリ・ユルチュク、主要歌劇場を席卷するアンナ・ゴリャチョワ、ドイツをはじめ欧米で活躍するヴィクトル・アンティペンコら、ロシア語圏の歌手陣が結集する贅沢な公演です。



2019年公演より

あらすじ

【第1幕】ラーリン邸。農村の女地主ラーリナの二人の娘、読書好きで物静かな姉のタチヤーナと陽気で外交的な妹オリガのもとを、オリガの婚約者のレンスキーが、友人オネーギンを連れて訪れる。タチヤーナは一目でオネーギンへの恋に落ちる。その夜、眠れないタチヤーナは意を決してオネーギンへの恋文をしたため、オネーギンへ届けさせる。ラーリン家の庭にオネーギンが現れ、タチヤーナに手紙を返す。ニヒリストのオネーギンは、自分は結婚生活に向かない人間だと冷たく告げ、タチヤーナに自制することを学ぶよう諭す。

【第2幕】ラーリン家の舞踏会。オネーギンがタチヤーナと踊っていると、客たちは二人の噂話を交わす。オネーギンはつまらない舞踏会に自分を誘ったレンスキーへの腹いせにオリガとばかり踊る。これを侮辱と捉えたレンスキーはオネーギンと激しく口論し、ついに決闘を申し込む。凍てつく冬の朝、決闘場所の水車小屋でオネーギンを待つレンスキーは、過ぎた日を懐かしむ。オネーギンが到着し、介添人の下で決闘が行われる。オネーギンが撃つとレンスキーが倒れ、オネーギンは友人の死におののく。

【第3幕】数年後、サンクトペテルブルクのグレーミン公爵邸の舞踏会。社交界から離れ放浪の旅を続けていたオネーギンが久しぶりに現れ、グレーミン公爵夫人となったタチヤーナに再会し、その変貌ぶりに驚く。グレーミン公爵がオネーギンに妻を紹介し、いかに妻を愛しているか語る。タチヤーナの優雅な姿に今度はオネーギンの心が燃え上がる。オネーギンはタチヤーナのもとを訪れ、憐れみを乞う。オネーギンの激情にタチヤーナも心動かされるものの、オネーギンの自尊心に訴え、公爵と共に生きる運命に従う、と言い残し去っていく。

ピョートル・チャイコフスキー

エウゲニ・オネーギン

Pyotr TCHAIKOVSKY / Eugene Onegin

全3幕(ロシア語上演/日本語及び英語字幕付)

指揮 Conductor	ヴァレンティン・ウリュープイン Valentin URYUPIN
演出 Production	ドミトリー・ベルトマン Dmitry BERTMAN
美術 Set Design	イゴール・ネジニー Igor NEZHNY
衣裳 Costume Design	タチアーナ・トゥルビエワ Tatiana TULUBIEVA
照明 Lighting Design	デニス・エニユコフ Denis ENYUKOV
振付 Choreographer	エドワルド・スミルノフ Edvald SMIRNOV
タチヤーナ Tatyana	エカテリーナ・シウリーナ Ekaterina SIURINA
オネーギン Eugene (Yevgeny) Onegin	ユーリ・ユルチュク Yuriy YURCHUK
レンスキー Vladimir Lensky	ヴィクトル・アンティペンコ Viktor ANTIPENKO
オリガ Olga	アンナ・ゴリャチョワ Anna GORYACHOVA
グレーミン公爵 Prince Gremin	アレクサンドル・ツィムバリユク Alexander TSYMBALYUK
ラーリナ Madama Larina	郷家暁子 GOKE Akiko
フィリッピエヴナ Filipyevna	橋爪ゆか HASHIZUME Yuka
ザレツキー Zaretsky	ヴィタリ・ユシュマノフ Vitaly YUSHMANOV
トリケ Monsieur Triquet	升島唯博 MASUJIMA Tadahiro
		ほか
合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京交響楽団 Tokyo Symphony Orchestra

2024年	1月	24日(水) 18:30	27日(土) 14:00
		31日(水) 14:00	
	2月	3日(土) 14:00	

【チケット料金】 S:29,700円 ・ A:24,200円 ・ B:17,600円 ・ C:11,000円 ・ D:7,700円

【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:ヴァレンティン・ウリュエピン

Conductor : Valentin URYUPIN

2017年ショルティ国際指揮者コンクール優勝。指揮者として成功する以前に、クラリネット奏者として20以上の国際コンクールを制し、世界的に演奏活動を行っていた経歴を持つ。15年から21年にはロストフ交響楽団芸術監督を務め、ロシア有数のオーケストラへ導く。21年秋にはモスクワのノーヴァヤ・オペラ首席指揮者兼芸術監督に就任。同劇場では『死の都』『サンドリヨン』で指揮している。ロシア国内でモスクワ・フィルのシリーズのほか、スヴェトラノフ記念ロシア国立アカデミー交響楽団、サンクトペテルブルク・フィル、ウラル・フィルなどを指揮、ペルミ歌劇場のムジカ・エテルナでも指揮を重ねる。ほかに、スロヴェニア・フィルハーモニック管弦楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、南西ドイツ放送交響楽団、トスカーナ管弦楽団、ボローニャ歌劇場管弦楽団、ミラノ・ジュゼッペ・ヴェルディ管弦楽団などに客演。オペラではシュトゥットガルト歌劇場『3つのオレンジへの恋』、プレゲンツ音楽祭『エウゲニ・オネーギン』『シベリア』などを指揮。エルル・チロル音楽祭にもしばしば招かれる。フランクフルト歌劇場ではこれまでに『エディプス王』『イオランタ』で成功を収めており、今シーズンはチャイコフスキー『チャロディカ』新制作で再登場予定。新国立劇場初登場。



演出:ドミトリー・ベルトマン

Production : Dmitry BERTMAN

モスクワ生まれ。ロシア舞台芸術アカデミーでオペラ演出を学ぶ。1990年23歳の時にモスクワでヘリコン・オペラを創立、すぐにロシアで最も有名なオペラカンパニーのひとつの地位を確立する。ヘリコン・オペラでの約120のプロダクションのほか、国内外でロシア作品や世界初演作品を含め多くのプロダクションを演出しており、カナディアン・オペラ・カンパニー、スウェーデン王立ドラマ劇場、マリインスキー劇場、ラトヴィア国立歌劇場、ローマ歌劇場、エストニア劇場、フィンランド国立歌劇場、モスクワ・N.I.サツツ記念子供音楽劇場、マシー歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、マンハイム州立劇場、ウィーン・フォルクスオーパー、ニュージーランド歌劇場、リセウ大劇場などで演出。2005年、ロシア連邦人民芸術家となる。98年、99年、01年、ロシア劇場連合“ゴールデンマスク賞”受賞。03年、04年、05年、劇場労働者組合“シーズン優秀作品賞”、05年スタニスラフスキー賞、07年モスクワ市賞、08年エストニア賞およびエストニア劇場組合賞、ロシア・フレンドシップ勲章、フランス教育功労章オフィシエなど受賞多数。ロシア舞台芸術アカデミー教授。



タチヤーナ:エカテリーナ・シウリーナ(ソプラノ)

Tatyana : Ekaterina SIURINA

ロシア出身。モスクワのロシア舞台芸術アカデミーで学び、ノーヴァヤ・オペラでデビュー後、瞬間に欧米の主要音楽祭や歌劇場に出演するようになり、2003年にウィーン国立歌劇場、英国ロイヤルオペラ、06年にメトロポリタン歌劇場へデビュー。これまでに、ウィーン国立歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、英国ロイヤルオペラ『魔笛』パミーナ、『リゴレット』ジルダ、バイエルン州立歌劇場、ピッツバーグ・オペラ、グラインドボーン音楽祭、ベルリン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場で『愛の妙薬』アディーナ、パリ・オペラ座とミラノ・スカラ座で『フィガロの結婚』スザンナ、ザルツブルク音楽祭『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、カナディアン・オペラ・カンパニー『椿姫』ヴィオレッタ、ヴェローナ野外歌劇場『リゴレット』ジルダなどに出演。最近の出演には、バイエルン州立歌劇場、ピッツバーグ・オペラ『愛の妙薬』アディーナ、ウィーン国立歌劇場『ドン・ジョヴァンニ』ドンナ・アンナ、『椿姫』ヴィオレッタ、英国ロイヤルオペラ『ラ・ボエーム』ミミ、ピッツバーグ・オペラ『ルサルカ』タイトルロールなどがある。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

オネーギン: ユーリ・ユルチュク (バリトン)**Eugene (Yevgeny) Onegin : Yuriy YURCHUK**

キーウ出身。シカゴのデポール大学音楽学校で声楽を学ぶ。2013年『ラ・ボエーム』マルチェッロでデビュー。14年から16年まで英国ロイヤルオペラのジェット・パーカー・プログラムに在籍し『トスカ』アンジェロッティ、『椿姫』ドゥフォーール男爵、『ラ・ボエーム』マルチェッロなどに出演。北アイルランドオペラ、チューリヒ歌劇場、オペラ・ノース『ラ・ボエーム』マルチェッロ、チェルシー・オペラ『アンドレア・シェニエ』ジェラルド、ウクライナ国立歌劇場『エウゲニ・オネーギン』タイトルロール、チューリヒ歌劇場『マノン・レスコー』レスコー、シカゴ・リリック・オペラ『ファルスタッフ』フォード、ウェックスフォード・オペラ・フェスティバル『マルグリータ』ロドルフォ伯爵などにも出演。22/23シーズンは北アイルランドオペラ『椿姫』ジェルモン、モネ劇場『エウゲニ・オネーギン』タイトルロールに出演。経済学、会計学の学位も持つ。新国立劇場初登場。

**レンスキー: ヴィクトル・アンティペンコ (テノール)****Vladimir Lensky : Viktor ANTIPENKO**

サンクトペテルブルク生まれ。ドラマティックな役柄で活躍するテノール。グリーンカ・コーラル・カレッジ、サンクトペテルブルク音楽院、フィラデルフィア声楽アカデミーで学ぶ。これまでに、ボリショイ劇場、オビエド・オペラ、バーデン州立歌劇場、サンフランシスコ・オペラ、テアトロ・ムニシパル、リヨン歌劇場などで『ニュルンベルクのマイスタージンガー』ヴァルター、『ローエン格林』タイトルロール、『エウゲニ・オネーギン』レンスキー、『スペードの女王』ヘルマン、『ラ・ジョコンダ』エンツォ、『マクベス』マルコム、『ボリス・ゴドゥノフ』グリゴリー、『さまよえるオランダ人』エリックなどにも出演。最近では、ケムニッツ歌劇場『フィデリオ』フロレスタン、ダラス・オペラ『金鶏』グヴィドン王子、インスブルック歌劇場『サムソンとデリラ』サムソン、ケムニッツ歌劇場『ローエン格林』タイトルロール、『ワルキューレ』ジークムントに出演。2021/22シーズンはアリゾナ・オペラ『カルメン』ドン・ホセ、メトロポリタン歌劇場『蝶々夫人』ピンカートン、イスラエル・オペラ『アイダ』ラダメスに出演している。新国立劇場初登場。

**オリガ: アンナ・ゴリャチョワ (メゾソプラノ)****Olga : Anna GORYACHOVA**

ロシア出身。サンクトペテルブルクの音楽院で学び、ローマのサンタ・チェチーリア音楽院でレナータ・スコットのもと研鑽を積む。2012年から17年までチューリヒ歌劇場専属歌手として、『絹のはしご』ルチッラ、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『ニュルンベルクのマイスタージンガー』マグダレーネ、『スペードの女王』ポリーナ、『セビリアの理髪師』ロジーナなど多くの役に出演した。19年からはボリショイ劇場ゲストソリストとなる。これまでに、オランダ国立オペラ、パリ・オペラ座、フィレンツェ歌劇場、ポローニャ歌劇場、ノルウェー国立オペラ、デンマーク王立歌劇場、ローマ歌劇場、サン・カルロ歌劇場、テアトロ・レアル、英国ロイヤルオペラ、ヴェローナ音楽祭などで『スペードの女王』ポリーナ、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『ランスへの旅』メリベア侯爵夫人、『ノルマ』アダルジーザ、『カルメン』タイトルロールなどにも出演。最近では、チューリヒ歌劇場『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、英国ロイヤルオペラ『スペードの女王』ポリーナ、ブレゲンツ音楽祭『ドン・キョット』ドゥルシネ、ジュネーヴ大劇場、パレンシア歌劇場、マリンスキー劇場、ウィーン国立歌劇場『チェネレントラ』アンジェリーナ、ウィーン国立歌劇場『エウゲニ・オネーギン』オリガ、『カルメン』タイトルロールなどにも出演している。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

グレーミン公爵:アレクサンドル・ツィムバリユク(バス)

Prince Gremin : Alexander TSYMBALYUK

ウクライナ出身。バイエルン州立歌劇場『ボリス・ゴドゥノフ』タイトルロールに出演、世界トップ歌劇場で同役を史上最年少で演じた歌手となる。2003年にオデーサ国立音楽院で声楽の修士号を取得し、数々の国際コンクールで優勝。ハンブルク州立歌劇場のオペラスタジオを経て、専属歌手を務める。現在はメトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、バイエルン州立歌劇場、パリ・オペラ座、バレンシア歌劇場、英国ロイヤルオペラ、リセウ大劇場、フィレンツェ歌劇場などに出演を重ねる。これまでに、バイエルン州立歌劇場『ムツェンスク郡のマクベス夫人』司祭、『ルチア』ライモンド、『トゥーランドット』ティムール、『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公爵、『フィガロの結婚』パルトロ、『ラインの黄金』ファーゾルト、英国ロイヤルオペラ『イル・トロヴァトーレ』フェルランド、パリ・オペラ座『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、シカゴ・リリック・オペラ『リゴレット』スparaフチーレ、メトロポリタン歌劇場『トゥーランドット』ティムール、ハンブルク州立歌劇場『エウゲニ・オネーギン』グレーミン公爵、ウィーン国立歌劇場『ボリス・ゴドゥノフ』タイトルロールなどに出演している。新国立劇場初登場。



ラーリナ:郷家暁子(メゾソプラノ)

Madama Larina : GOKE Akiko

東京藝術大学、同大学院修士課程オペラ専攻修了。学部卒業時に同声会賞、アカンサス音楽賞受賞。二期会研修所マスタークラス修了時、優秀賞及び奨励賞を受賞。藝大オペラ定期公演『皇帝ティートの慈悲』セストでデビュー。これまでに、モーツァルト劇場『アポロンとヒヤキントス』アポロン、春秋座オペラ『セビリアの理髪師』ロジーナ、堺シティオペラ『ちゃんちき』おとっさまが化けた美人、『ナクソス島のアリアドネ』作曲家、『カルメン』タイトルロール、日生劇場『ルサルカ』森の精2、『ヘンゼルとグレーテル』ヘンゼル、二期会ニューウェーブオペラ『アルチャーナ』ブラダマンテ、二期会『金閣寺』娼婦、『修道女アンジェリカ』修練女長、『ルル』ギムナジウムの学生、『こうもり』オルロフスキー、『フィガロの結婚』ケルビーノで出演。2022年には東京・春・音楽祭『ローエン格林』小姓、二期会『パルジファル』小姓/花の乙女で出演。「第九」をはじめ、モーツァルト『レクイエム』、ヘンデル『メサイア』などで大阪フィルハーモニー交響楽団、読売日本交響楽団、テレマン協会などと共演している。二期会会員。新国立劇場初登場。



フィリッピエヴァ:橋爪ゆか(メゾソプラノ)

Filipyevna : HASHIZUME Yuka

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。在学中にアルトからソプラノへ転向。同大学大学院オペラ科修了。文化庁オペラ研修所修了。文化庁派遣在外研修員としてウィーン留学。二期会『魔弾の射手』（演奏会形式）アガーテで本格的デビュー。多くのオペラ、コンサートで活躍し、二期会『ワルキューレ』ジークリンデ、『こうもり』ロザリンデ、『オルフェオとエウリディーチェ』エウリディーチェ、『さまよえるオランダ人』ゼンタ、『パルジファル』クンドリー、東京オペラプロデュース『二人のフォスカリ』ルクレツィア・コンタリーニ、メノッティ『ブリーカー街の聖母マリア』アンニーナなどに出演。2021年にメゾソプラノへ転向。新国立劇場では、オペラ鑑賞教室『蝶々夫人』タイトルロール、『さまよえるオランダ人』（演奏会形式）ゼンタ、『ジークフリート』ハイライトコンサート』ブリュンヒルデ、『神々の黄昏』ノルンⅢなどに出演。また『ワルキューレ』『ジークフリート』『神々の黄昏』ブリュンヒルデ、『フィデリオ』レオノーレ、『エウゲニ・オネーギン』タチヤーナ、『タンホイザー』ヴェーヌスなどでカバーを務めている。二期会会員。



ドン・パスクワレ

Don Pasquale

オペラパレス | 3回公演 | 全3幕(イタリア語上演/日本語及び英語字幕付)

●会員先行販売期間: 2023年11/25(土)～12/5(火)

●一般発売日: 2023年12/9(土)

初演:1843年1月3日/パリ・イタリア劇場

作曲:ガエターノ・ドニゼッティ

原作:ステファノ・パヴェージのオペラ『マルカントーニオ氏』のアンジェロ・アネッリの台本による

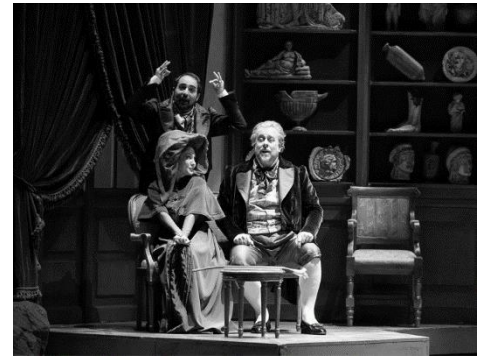
台本:ジョヴァンニ・ルッフィーニ、ガエターノ・ドニゼッティ

プロダクションについて

オペラの華であるベルカント・オペラから、ドニゼッティのオペラ・ブッフアの代表作『ドン・パスクワレ』を上演します。オペラ・ブッフアの様式に則って、バスソ・ブッフオのタイトルロール、スープレット・ソプラノのノリーナといったキャラクターの登場人物がコミカルな物語を繰り広げる構成で、ノリーナのカヴァティーナ「あの騎士の眼差しは」、エルネストの「遙かなる土地を求めて」など魅力的なアリアや、声の妙技が堪能できるアンサンブルが次々に展開します。

ヴィツィオーリ演出のプロダクションは、ミラノ・スカラ座、ラヴェンナ、ボローニャ、カリアリ、ジェノヴァ、オマーン、トリエステなど各地で上演されている人気プロダクション。オーソドックスながら繊細な心理表現や効果的なシーン展開といった現代的な感性が光る秀逸な演出です。

世界随一の人気バス歌手ミケーレ・ペルトウージが得意のドン・パスクワレ役で待望の新国立劇場初登場。ノリーナに新星ラヴィニア・ビーニ、エルネストには『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオで甘い美声が絶賛されたフランシスコ・ガテル、マラテスタには抜群の技術を誇る上江隼人が出演。圧倒的豪華歌手陣により、ベルカント・オペラの楽しさあふれる極上の上演をお届けします。



2019年公演より

あらすじ

【第1幕】裕福な独身老人ドン・パスクワレは主治医マラテスタに花嫁探しを依頼した。実はパスクワレの甥エルネストの親友でもあるマラテスタは、妹を薦める。エルネストの恋人ノリーナを自分の妹と偽ってパスクワレと結婚させ辟易させて、逆にエルネストとの結婚を認めさせようという魂胆だ。エルネストが伯父の勧める結婚話を断ると、パスクワレは自分が結婚して子を設けると宣言。エルネストは財産を相続してノリーナを迎える夢が破れ嘆く。ノリーナが小説の中の騎士に寄せ恋心を歌っていると、エルネストからローマを去るという手紙が届き驚く。マラテスタが来て計略を説明し、ノリーナをパスクワレ好みのうぶな娘に仕立て上げる。

【第2幕】パスクワレのもとへマラテスタがヴェールで顔を覆った女性を連れて登場、修道院出の妹ソフローニャと紹介する。パスクワレはすっかり気に入り、結婚式を執り行う。ノリーナが結婚の署名をする瞬間エルネストが入って来て驚嘆するが、マラテスタが素早く言いくるめ、ノリーナ、そしてエルネストも証人として署名する。式が終わった途端ノリーナの態度が豹変し、あれこれと注文を始め、大騒ぎとなる。

【第3幕】パスクワレ家はノリーナが買い物をした請求書の山。ノリーナは着飾って劇場へ行くと言い出し、止めようとする夫を平手打ちする。ノリーナがわざと落としていった逢引の手紙に、パスクワレは大憤慨する。夜、庭でセレナーデを歌うエルネストの前にノリーナが登場。パスクワレとマラテスタがノリーナを捕らえる。逆上したパスクワレが離縁を命じ、エルネストの結婚を許すと告げると、マラテスタがノリーナはここにいると言う。驚くパスクワレにマラテスタは自分の計略を明かし、パスクワレも許して若い二人を祝福する。

ガエターノ・ドニゼッティ

ドン・パスクワレ

Gaetano DONIZETTI / Don Pasquale

全3幕(イタリア語上演/日本語及び英語字幕付)

指揮 Conductor	レナート・バルサドンナ Renato BALSADONNA
演出 Production	ステファノ・ヴィツイオーリ Stefano VIZIOLI
美術 Set Design	スザンナ・ロッシ・ヨスト Susanna ROSSI JOST
衣裳 Costume Design	ロベルタ・グイディ・ディ・バーニョ Roberta GUIDI DI BAGNO
照明 Lighting Design	フランコ・マッリ Franco MARRI
ドン・パスクワレ Don Pasquale	ミケーレ・ペルトウージ Michele PERTUSI
マラテスタ Dottor Malatesta	上江隼人 KAMIE Hayato
エルネスト Ernesto	フアン・フランシスコ・ガテル Juan Francisco GATELL
ノリーナ Norina	ラヴィニア・ビーニ Lavinia BINI
		ほか
合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京交響楽団 Tokyo Symphony Orchestra

2024年	2月	4日(日)14:00	8日(木)14:00
		10日(土)14:00	

【チケット料金】 S:29,700円 ・ A:24,200円 ・ B:17,600円 ・ C:11,000円 ・ D:7,700円

【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:レナート・バルサドンナ

Conductor : Renato BALSADONNA

ヴェネツィア出身。1997年にアントニオ・パッパノーからモネ劇場合唱指揮者に招かれた後パッパノーと共に英国ロイヤルオペラへ参加、2004年～16年には同劇場合唱指揮者を務め、同劇場で『二人のフォスカリ』『ミノタウロス』『ナブッコ』などを指揮。これまでにトリエステ・ヴェルディ劇場『ラ・ボエーム』、ニース・オペラ『ノルマ』、英国ロイヤルオペラ『蝶々夫人』、マリンスキー劇場『ナブッコ』『ルクレツィア・ボルジア』、シンシナティ・オペラ『椿姫』、フェニーチェ歌劇場『蝶々夫人』、セビリア・マエストランサ劇場『ルチア』、ヴェローナ・フィラウモニコ劇場『ドン・ジョヴァンニ』、トリノ王立歌劇場『夢遊病の女』、フランクフルト歌劇場『ドン・カルロ』『ルチア』などを指揮。オーケストラでは、BBCコンサート・オーケストラ、オランダ放送合唱団、サンタ・チェチーリア合唱団、ロイヤル・フィルハーモニー管弦楽団、リトアニア国立交響楽団、オペラ・ノース管弦楽団などを指揮している。最近の公演に、英国ロイヤルオペラ『椿姫』、オペラ・ノース『ラ・ボエーム』がある。新国立劇場初登場。



演出:ステファノ・ヴィツィオーリ

Production : Stefano VIZIOLI

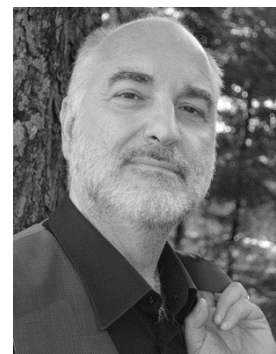
イタリア出身。イタリアの著名劇場で定期的に演出しており、代表作にミラノ・スカラ座『ドン・パスクワレ』、シカゴ・リリック・オペラ『リゴレット』、シャンゼリゼ劇場『セビリアの理髪師』、ラヴェンナ音楽祭『ノルマ』などがある。ミラノ・スカラ座『ドン・パスクワレ』、パルマ・ヴェルディ音楽祭『リゴレット』、サン・カルロ歌劇場『モンテズマ』『ルイザ・ミラー』、カリアリ歌劇場『ドン・パスクワレ』、パルマ・ヴェルディ音楽祭『セビリアの理髪師』、パート＝ヴィルトバート・ロッシーニ音楽祭の『二人のフィガロ』はDVD化されている。現代作品、バロック作品、より広い観客へ向けた企画に意欲的で、ローマ歌劇場『蝶々夫人』、パルマ・ヴェルディ音楽祭『リゴレット』、サンタフェ・オペラ『シモン・ボッカネグラ』、ザンクト・ガレン歌劇場『サムソンとデリラ』、中国国家大劇院『リゴレット』、プエノスアイレス・コロソ大劇場『第一回十字軍のロンバルディア人』などを手掛け、2013年にブータンでヘンデル『エイシスとガラテア』、16年に鎌倉、東京で上演された『ジャパン・オルフェオ』、19年にインスブルック古楽音楽祭で17世紀の作曲家チェスティの『ラ・ドーリ』を演出している。16年～20年にはピサ・ヴェルディ劇場の芸術監督を務めた。



ドン・パスクワレ:ミケーレ・ペルトウージ(バス)

Don Pasquale : Michele PERTUSI

パルマ生まれ。世界の重要歌劇場で活躍し数々の賞に輝くバス歌手。近年はヴェルディ歌いとして活躍しており、ウィーン国立歌劇場、テアトロ・レアル、ヴェルディ音楽祭、ミラノ・スカラ座で『ドン・カルロ』フィリッポ二世、ミラノ・スカラ座、フェニーチェ歌劇場、ヴェルディ音楽祭、ワロン王立歌劇場で『アッティラ』タイトルロール、パルマ王立歌劇場、モンテカルロ歌劇場で『第一回十字軍のロンバルディア軍』パガーノ、ヴェルディ音楽祭、ウィーン国立歌劇場で『リゴレット』スパラフチーレ、ウィーン国立歌劇場、トリノ王立歌劇場、パルマ王立歌劇場で『シモン・ボッカネグラ』フィエスコ、バイエルン州立歌劇場、ローマ歌劇場で『ルイザ・ミラー』ワルターなどに出演。ロッシーニの名手でもあり、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルには『セミラーミデ』でデビュー後、『モーゼとファラオ』『マホメットII世』『ウィリアム・テル』『泥棒かささぎ』などに出演し、ロッシーニ・ドーロ賞も受賞。最近ではヴェローナ音楽祭『アイダ』『ナブッコ』、トリノ王立歌劇場『トゥーランドット』、パルマ王立歌劇場、モネ劇場『ノルマ』、ローマ歌劇場『ルイザ・ミラー』、ミラノ・スカラ座『カプレーティ家とモンテッキ家』、パルマ・ヴェルディ音楽祭『シモン・ボッカネグラ』などに出演。ドン・パスクワレ役はミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ座などで歌っており、今後もウィーン国立歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場などで同役に出演する予定。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

マラテスタ: 上江隼人(バリトン)

Dottor Malatesta : KAMIE Hayato

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業、卒業時に松田トシ賞、アカンサス賞などを受賞。同大学院修了後、イタリアに留学。2006年ディマロ国際声楽コンクール「Val di sole」第1位。第23回後藤記念文化賞オペラ新人賞受賞。ブッセートのパルマ・ヴェルディ・フェスティバルにて11年『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵、15年『リゴレット』タイトルロールを演じ称賛を浴びる。最近の主な出演にNISSAY OPERA『セビリアの理髪師』フィガロ、びわ湖ホール・神奈川県民ホール『椿姫』ジェルモン、東京二期会『道化師』トニオ、『ドン・カルロ』ロドリゴ、『リゴレット』タイトルロール、『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵、藤原歌劇団『椿姫』ジェルモン、『ランスへの旅』アルヴァーロ、『リゴレット』タイトルロール、札幌文化芸術劇場『アイダ』アモナズロなどがある。新国立劇場では『アンドレア・シェニエ』ルーシェ、『アイダ』アモナズロ、『チェネントラ』ダンディエーニに出演。藤原歌劇団団員。



エルネスト: フアン・フランシスコ・ガテル(テノール)

Ernesto : Juan Francisco GATELL

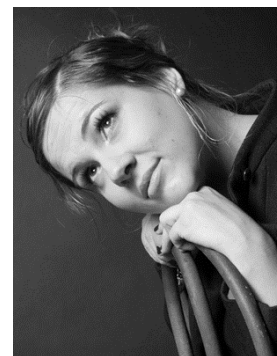
アルゼンチン出身。明るく魅惑的、エレガントな声と劇的な表現で躍進中のリリック・テノール。2004年カルーソーコンクール、06年AsLiCo コンペティションなどのコンクールで優勝。ミラノ・スカラ座、フェニーチェ歌劇場、トリノ王立歌劇場、ローマ歌劇場、フィレンツェ歌劇場、ウィーン国立歌劇場、リセウ大劇場、テアトロ・レアル、パリ・オペラ座、ロサンゼルス・オペラ、ザルツブルク音楽祭、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルなど世界中の歌劇場に『魔笛』タミーノ、『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、『コジ・ファン・トゥッテ』フェルランド、『ドン・パスクワレ』エルネスト、『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、『愛の妙薬』ネモリーノなどで出演。特に、大評判となったフェニーチェ歌劇場『羊飼いの王様』アレックスandro大王と『放蕩者のなりゆき』トム・レイクウェル、プエノスアイレス・コロソ歌劇場、ウィーン国立歌劇場などの『セビリアの理髪師』アルマヴィーヴァ伯爵、スカラ座、ワシントン・オペラ、中国国家大劇院『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオ、ロサンゼルス・オペラ、パルマ王立歌劇場、バレンシア歌劇場『ファルスタッフ』フェントンの成功は特筆される。新国立劇場へは19年『ドン・ジョヴァンニ』ドン・オッターヴィオでデビューした。



ノリーナ: ラヴィニア・ビーニ(ソプラノ)

Norina : Lavinia BINI

イタリアの新進気鋭のソプラノ。フィレンツェのケルビーニ音楽院を卒業。テバルディ国際コンクール優勝。ローマで『コジ・ファン・トゥッテ』デスピーナに出演してデビュー。その後ボローニャ歌劇場、フィレンツェ歌劇場、ラヴェンナ歌劇場、ヴェローナ・フィラルモニコ劇場、パリー・ペトルツェリ劇場、トリノ王立歌劇場、ザルツブルク州立劇場などに『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタ、『リナルド』セイレーン、『アルジェのイタリア女』エルヴィーラ、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ/ドンナ・アンナなどで次々に出演。最近では、リエージュ・ワロン歌劇場、ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場『ラ・ボエーム』ムゼッタ、ワロン歌劇場『リゴレット』ジルダ、パルマ王立歌劇場『ドン・カルロ』テバルト、モデナ歌劇場、ヴェローナ・フィラルモニコ劇場『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタ、カリアリ歌劇場『仮面舞踏会』オスカル、『ドン・パスクワレ』ノリーナ、トリノ王立歌劇場『第一回十字軍のロンバルディア人』ヴィクリンダ、『愛の妙薬』アディーナ、ヴェローナ・フィラルモニコ劇場『人間の声』などに出演している。2022年夏にはヴェローナ野外音楽祭『カルメン』ミカエラに出演した。新国立劇場初登場。



トリスタンとイゾルデ

Tristan und Isolde

●会員先行販売期間：2023年12/23(土)~2024年1/2(火)

オペラパレス | 6回公演 | 全3幕(ドイツ語上演/日本語及び英語字幕付)

●一般発売日：2024年1/6(土)

初演：1865年6月10日/バイエルン宮廷歌劇場

台本・作曲：リヒャルト・ワーグナー

プロダクションについて

2010/2011シーズンに大野和士指揮、デイヴィッド・マクヴィカー演出で上演し、センセーションを起こした『トリスタンとイゾルデ』が再登場します。ワーグナー円熟期の楽劇『トリスタンとイゾルデ』はワーグナー楽劇の最高傑作とも称えられており、愛と苦悩が身を焦がすような音楽で描き上げられ、ワーグナーの魔力を全身で感じていただける作品です。ワーグナー楽劇ならではのライトモチーフ（人物や状況を示すモチーフ）や、旋律から新しい旋律へと連続と繋がる無限旋律がふんだんに用いられるだけでなく、ワーグナーは『トリスタンとイゾルデ』で半音進行を突き詰め「トリスタン和音」と称される不安定な響きの和声を生み出して、官能と昂揚を表現しました。単独で演奏されることも多い前奏曲や、クライマックスの「イゾルデの愛の死」は特に有名で、甘美なうねりが聴くものをカタルシスに導きます。

芸術監督として、オペラ史上の革命的作品であるこの作品をオペラファンの方々へ届けたいと強い信念を持つ大野和士自らが指揮し、トリスタンに世界有数のヘルデンテノールで日本にもファンの多いトルステン・ケール、イゾルデにはエヴァ＝マリア・ヴェストブルックが出演します。



2010年公演より

あらすじ

【第1幕】伝説上の中世。アイルランドの王女イゾルデは敵対するイングランド・コーンウォールのマルケ王との政略結婚のため、王の甥トリスタンが漕ぐ船に乗って護送される。婚約者の仇でもあるトリスタンに密かに心惹かれるイゾルデは、船上で服毒心中を図るが侍女ブランゲーネは毒薬の代わりに愛の媚薬を手渡したため、若い二人は瞬間に熱烈な愛に陥る。

【第2幕】マルケ王の妻となったイゾルデだが、トリスタンとの逢引きが続く。しかし、侍女の警告も空しく密会の場に王が現れる。トリスタンは王の家臣メロートの剣によって瀕死の重傷を負う。

【第3幕】トリスタンは従者クルヴェナールに連れられ自分の城に戻りイゾルデを待つ。ようやくイゾルデが到着するが、トリスタンは愛するイゾルデの腕の中で息絶える。媚薬の仕業と知って2人を許そうと王一行がやってくるが、トリスタンとイゾルデは亡骸となっている。

リヒャルト・ワーグナー

トリスタンとイゾルデ

Richard WAGNER / Tristan und Isolde

全3幕(ドイツ語上演/日本語及び英語字幕付)

指揮 Conductor	大野和士 ONO Kazushi	
演出 Production	デイヴィッド・マクヴィカー David McVICAR	
美術・衣裳 Set and Cosutume Design	ロバート・ジョーンズ Robert JONES	
照明 Lighting Design	ポール・コンスタブル Paule CONSTABLE	
振付 Choreographer	アンドリュウ・ジョージ Andrew GEORGE	
トリスタン Tristan	トルステン・ケール Torsten KERL	
マルケ王 König Marke	ヴィルヘルム・シュヴィングハマー Wilhelm SCHWINGHAMMER	
イゾルデ Isolde	エヴァ＝マリア・ヴェストブルック Eva-Maria WESTBROEK	
クルヴェナール Kurwenal	エギルス・シリンス Egils SILINS	
メロート Melot	秋谷直之 AKITANI Naoyuki	
ブランゲーネ Brangäne	藤村実穂子 FUJIMURA Mihoko	
牧童 Ein Hirt	青地英幸 AOCHI Hideyuki	
舵取り Ein Steuermann	駒田敏章 KOMADA Toshiaki	
若い船乗りの声 Stimme eines jungen Seemanns	村上公太 MURAKAMI Kota	ほか
合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus	
管弦楽 Orchestra	東京都交響楽団 Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra	

2024年	3月	14日(木)16:00	17日(日)14:00
		20日(水・祝)14:00	23日(土)14:00
		26日(火)14:00	29日(金)14:00

【チケット料金】 S:31,900円 ・ A:26,400円 ・ B:18,700円 ・ C:13,200円 ・ D:7,700円

【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:大野和士

Conductor : ONO Kazushi

東京藝術大学卒業後、バイエルン州立歌劇場でサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。ザグレブ・フィル音楽監督、バーデン州立歌劇場音楽総監督、ベルギー王立モネ劇場音楽監督、アルトゥーロ・トスカニーニ・フィル首席客演指揮者、リヨン歌劇場首席指揮者、バルセロナ交響楽団音楽監督を歴任。現在、新国立劇場オペラ芸術監督（2018年～）及び東京都交響楽団音楽監督、ブリュッセル・フィルハーモニック音楽監督。これまでにボストン響、ロンドン響、ロンドン・フィル、ライプツィヒ・ゲヴァントハウス管、フランクフルト放送響、パリ管、フランス放送フィル、スイス・ロマンド管、イスラエル・フィルなど主要オーケストラへ客演を重ね、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、エクサン・プロヴァンス音楽祭など主要歌劇場や音楽祭で数々のプロダクションを指揮。新作初演にも意欲的で、数多くの世界初演を成功に導いている。17年にはリヨン歌劇場がインターナショナル・オペラ・アワード「最優秀オペラハウス」を獲得し、フランス芸術文化勲章オフィシエを受勲。日本芸術院賞、サントリー音楽賞、朝日賞など受賞多数。文化功労者。新国立劇場では1998年『魔笛』、2010～11年『トリストアンとイゾルデ』、19年『紫苑物語』『トゥーランドット』、20年『アルマゲドンの夢』、21年『ワルキューレ』『カルメン』『Super Angels スーパーエンジェル』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』、22年『ペレアスとメリザンド』『ボリス・ゴドゥノフ』を指揮している。23年6、7月には『ラ・ボエーム』を、23/24シーズンは『シモン・ボッカネグラ』『トリストアンとイゾルデ』を指揮する予定。



演出:デイヴィッド・マクヴィカー

Production : David McVICAR

グラスゴー生まれ。王立スコットランド音楽演劇アカデミーで学ぶ。これまでにメトロポリタン歌劇場『ロベルト・デヴェリュー』『カヴァレリア・ルスティカーナ/道化師』『ジュリオ・チェーザレ』『アンナ・ボレーナ』『マリア・ストゥアルダ』『イル・トロヴァトーレ』、ミラノ・スカラ座『トロイ人』、ウィーン国立歌劇場『トリストアンとイゾルデ』『ファルスタッフ』、英国ロイヤルオペラ『リゴレット』『魔笛』『ファウスト』『アンドレア・シェニエ』『ヴェニスに死す』、イングリッシュ・ナショナル・オペラ、スコティッシュ・オペラ『放蕩者のなりゆき』『蝶々夫人』『椿姫』『イドメネオ』『ホフマン物語』、オペラ・ノース『ドン・ジョヴァンニ』『羊飼いの王様』、シカゴ・リリック・オペラ『ヴォツェック』『ピリー・バッド』『ジュリオ・チェーザレ』、マリンスキー劇場『ねじの回転』『マクベス』、リセウ大劇場、モネ劇場、シャンゼリゼ劇場、フランクフルト歌劇場『アグリッピーナ』、シカゴ・リリック・オペラ、オペラ・オーストラリア、エクサン・プロヴァンス音楽祭『皇帝ティートの慈悲』、グライントボーン音楽祭『後宮からの誘拐』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』、ラン歌劇場『ニーベルングの指環』四部作などを演出している。2012年のダイヤモンド・ジュビリー叙勲者としてナイトの称号を授与され、同年、フランス政府から芸術文化勲章シュヴァリエを授与された。



トリストアン:トルステン・ケール(テノール)

Tristan : Torsten KERL

ドイツ生まれ。オーボエ奏者としてオーケストラで活躍後、歌手に転向し瞬時に成功を収めた。現代最高のヘルデンテノールの一人として、ウィーン国立歌劇場、メトロポリタン歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、サンフランシスコ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、ザクセン州立歌劇場、ミラノ・スカラ座、オランダ国立オペラ、バイエルン州立歌劇場など世界の著名劇場で活躍している。主なレパートリーにはバルジファル、ローエングリン、タンホイザー、トリストアン、ローゲ、ジークムント、ジークフリートなどワーグナー諸役のほか、『魔弾の射手』マックス、『死の都』パウル、『低地』ペドロ、『影のない女』皇帝、『カルメン』ドン・ホセ、『サムソンとデリラ』サムソン、『オテロ』タイトルロール、『ボリス・ゴドゥノフ』グリゴリーなどがある。バイロイト音楽祭（『タンホイザー』『さまよえるオランダ人』『ニュルンベルクのマイスタージンガー』）、ザルツブルク音楽祭（モーツァルト『レクイエム』、『ダナエの愛』『死の都』）、エディンバラ音楽祭、グライントボーン音楽祭、サヴォンリンナ・オペラ・フェスティバルなどにも出演を重ねるほか、ウィーン・フィル、ロンドン・フィル、ロンドン響、ベルリン・フィル、アムステルダム・コンセルトヘボウ管、フランス国立管、シュターツカペレ・ドレスデンなどに定期的に客演している。新国立劇場では2010年『カルメン』ドン・ホセ、14年『死の都』パウル、19年『タンホイザー』タイトルロールに出演。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

マルケ王: ヴィルヘルム・シュヴィングハマー(バス)

König Marke : Wilhelm SCHWINGHAMMER

バイエルン出身。若手世代で最高峰のバス歌手のひとり。ベルリン芸術大学で学びハンブルク州立歌劇場ヤング・アーティスト・プログラムに参加、2006年～17年はハンブルク州立歌劇場専属歌手として活躍。レパートリーはバロックから現代音楽まで広範に及び、『フィガロの結婚』フィガロ、『ドン・ジョヴァンニ』レポレッコ、『魔笛』ザラストロ、『ローエングリン』ハインリヒ国王、『トリストアンとイゾルデ』マルケ王、『タンホイザー』領主ヘルマン、『さまよえるオランダ人』ダーラント、『フィデリオ』ロッコ、『リゴレット』スパラフチーレ、『エレクトラ』オレスト、『ばらの騎士』オックス男爵などバスの重要な役をレパートリーに、バイエルン州立歌劇場、ベルリン州立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、パリ・オペラ座、リヨン歌劇場、ミラノ・スカラ座、ロサンゼルス・オペラなど各地の主要劇場に出演。パイロイト音楽祭『ローエングリン』ハインリヒ国王、ハンブルク州立歌劇場『フィガロの結婚』タイトルロール、『後宮からの逃走』オスミン、シカゴ・リリック・オペラ『ラインの黄金』新制作のファージルトは特に成功を収める。パイロイト音楽祭へは12年以來出演を重ね、19年、21年には『タンホイザー』、22年は「ニーベルングの指環」ファフナーで再登場した。新国立劇場初登場。



イゾルデ: エヴァ=マリア・ヴェストブルック(ソプラノ)

Isolde : Eva-Maria WESTBROEK

オランダのソプラノ。パイロイト音楽祭、エクサン・プロヴァンス音楽祭、英国ロイヤルオペラ、パリ・オペラ座、メトロポリタン歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ミラノ・スカラ座、ザクセン州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場など主要劇場で活躍。歌唱力と多彩な表現力が評価され、『ワルキューレ』ジークリンデ、『アンドレア・シェニエ』マッダレーナ、『カヴァレリア・ルスティカーナ』サントウツァ、『西部の娘』ミニーに加え、ターネジ『アンナ・ニコル』タイトルロール、『フランチェスカ・ダ・リミニ』タイトルロール、『ムツェンスク郡のマクベス夫人』カテリーナ・リヴォーヴナ・イズマイロヴァ、『イエヌーフア』タイトルロール、『マノン・レスコー』タイトルロール、『カーチャ・カヴァノヴァ』タイトルロールなどをレパートリーとする。最近の主な出演に、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、オランダ国立オペラ『ワルキューレ』ジークリンデ、バイエルン州立歌劇場『ナクソス島のアリアドネ』タイトルロール、英国ロイヤルオペラ『スペードの女王』リーサ、バイエルン州立歌劇場『外套』ジョルジュッタ、メトロポリタン歌劇場『西部の娘』ミニー、ベルリン・ドイツ・オペラ、モネ劇場、英国ロイヤルオペラ、メトロポリタン歌劇場『カヴァレリア・ルスティカーナ』サントウツァがある。新国立劇場初登場。



クルヴェナール: エギルス・シリンス(バス・バリトン)

Kurwenal : Egils SILINS

ラトヴィア出身。ラトヴィア国立歌劇場でデビュー後、ウィーン国立歌劇場にデビュー。ブレッグンツ音楽祭『デーモン』タイトルロールで称賛され、サヴォンリンナ・オペラ・フェスティバル、グライントボーン音楽祭などの著名音楽祭に出演。ウィーン国立歌劇場、ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、リセウ大劇場、テアトロ・レアル、チューリヒ歌劇場、バイエルン州立歌劇場などに定期的に登場。「ニーベルングの指環」ヴォータン、さすらい人、『パルジファル』クリングゾル、アムフォルタス、『トリストアンとイゾルデ』クルヴェナール、『サロメ』ヨハナーン、『エレクトラ』オレスト、『ボリス・ゴドゥノフ』タイトルロール、『オテロ』イアーゴ、『トスカ』スカルピアなどレパートリーは70に及ぶ。2019/20シーズンはウィーン国立歌劇場『ローエングリン』テルラムント、英国ロイヤルオペラ『フィデリオ』ドン・フェルナンド、ライン・ドイツ・オペラ『ラインの黄金』『ワルキューレ』ヴォータンに出演。21年はベルリン・ドイツ・オペラ『さまよえるオランダ人』オランダ人、カッセル州立歌劇場『ワルキューレ』ヴォータン、『ジークフリート』さすらい人などに出演。新国立劇場では14年『パルジファル』アムフォルタスに出演した。23年3月『ホフマン物語』悪役四役にも出演予定。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ブランゲーネ: 藤村実穂子 (メゾソプラノ)

Brangäne : FUJIMURA Mihoko

ヨーロッパを拠点に国際的な活躍を続ける、日本を代表するメゾソプラノ歌手。東京芸術大学声楽科卒業、同大学大学院及びミュンヘン音楽大学大学院修了。主役級としては日本人で初めてバイロイト音楽祭にデビューし、フリッカ、クンドリー、ブランゲーネ、ワルトラウテ、エルダなどの主役で9シーズン連続出演。メトロポリタン歌劇場、ミラノ・スカラ座、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、パリ・シャトレ座、ベルリン・ドイツ・オペラ、ザクセン州立歌劇場、フィレンツェ歌劇場、ヴェローナ歌劇場、バルセロナ・リセウ歌劇場、ザルツブルグ祝祭大劇場等に出演の他、ウィーン・フィル、ベルリン・フィル、ロイヤル・コンセルトヘボウ管、バイエルン放送響、ロンドン響、ロンドン・フィル、ティーレマンパリ管、ライプツィヒ・ゲヴェントハウス管、スイス・ロマンダ管等の世界的なオーケストラ、ティーレマン、アバド、メータ、エッシェンバッハ、シャイー、ヤンソンス、ネルソンス、ネゼ=セガン、ガッティ、ドゥダメル等の著名指揮者と共演している。またブランゲーネ役でプラシド・ドミンゴとのCD録音「トリストアンとイゾルデ」(EMI)でも各方面より注目を浴びた。2002年出光音楽賞、03年芸術選奨文部科学大臣新人賞、07年エクソンモービル音楽賞、13年サントリー音楽賞、14年紫綬褒章をそれぞれ受賞。新国立劇場では『ラインの黄金』(01年)と『ワルキューレ』(02年、21年)フリッカ、『ドン・カルロ』エボリ公女(01年)、『神々の黄昏』ヴァルトラウテ(04年)、『イドメネオ』イダマンテ(06年)、『ウェルテル』シャルロット(19年)に出演。



椿姫

La Traviata

オペラパレス | 5回公演 | 全3幕<イタリア語上演/日本語及び英語字幕付>

●会員先行販売期間: 2024年2/24(土)～3/5(火)

●一般発売日: 2024年3/9(土)

初演:1853年3月6日/フェニーチェ歌劇場(ヴェネツィア)

作曲:ジュゼッペ・ヴェルディ

原作:アレクサンドル・デュマ・フィス

台本:フランチェスコ・マリア・ピアヴェ

プロダクションについて

パリ社交界を舞台に、高級娼婦ヴィオレッタの愛と哀しい運命を描いた人気オペラ。原作はアレクサンドル・デュマ・フィスが高級娼婦マリー・デュプレシをモデルに書いた戯曲『椿の花を持つ女』で、ヴェルディは同時代に生きる女性をヒロインに据え、感情表現に重きを置いた斬新なオペラを誕生させました。ガラ・コンサートの定番曲としてお馴染みの「乾杯の歌」をはじめ、悲劇を予兆する前奏曲、ヴィオレッタの超絶技巧のアリア「ああ、そは彼の人か～花から花へ」、ジェルモン「プロヴァンスの海と陸」など有名な曲が続きます。演出のヴァンサン・ブサルは色彩にこだわる洗練された舞台に定評があり、この『椿姫』(2015年初演)ではその美的センスを発揮すると同時に、鏡を効果的に用いて心象風景を描出し、男性社会で誇り高く生きる女性の姿を印象付けました。

注目のヴィオレッタには、2022年公演で同役に急遽出演し絶賛された中村恵理が再び登場。アルフレードには、イタリアの新星リッカルド・デッラ・シュッカが出演します。



2022年公演より

あらすじ

【第1幕】パリ社交界の華である高級娼婦ヴィオレッタは、肺の病で先が長くないことを悟っている。今夜も自宅のサロンでパーティを開催。ガストン子爵が、青年アルフレードを連れてくる。彼は「1年前にあなたを見て以来ずっと恋している」と真摯にヴィオレッタに告白するのだった。ひとりになったヴィオレッタは、今まで経験したことのない、心からの愛の告白に心ときめくが、たかが愛のために享樂的な人生は捨てられない、と我に返る。

【第2幕】アルフレードとの愛を選んだヴィオレッタは、パリ郊外の田舎で彼と静かに暮らしているが、生活費のため全財産を競売にかけようとしていた。それを知ったアルフレードは競売を止めさせようとパリへ向かう。すれ違いでヴィオレッタが帰宅すると、家にはアルフレードの父ジェルモンが。アルフレードの妹の縁談を成立させるため、息子と別れるようジェルモンは頼む。今は彼との愛だけが生きる希望であるヴィオレッタは、はじめ拒むが承諾し、別れの手紙を書いて家を出る。事情を知らないアルフレードは手紙に愕然とし、父が「一緒に故郷に戻ろう」と慰めても聴く耳をもたない。アルフレードは怒りが収まらず、夜会の大勢の客の前でヴィオレッタを罵倒する。彼女は絶望に打ちのめされる。

【第3幕】1ヵ月後。死の床に伏しているヴィオレッタ。そこに、父ジェルモンからすべてを聞いたアルフレードが来て、許しを乞い、パリを離れて一緒に暮らそうと語る。ヴィオレッタは愛する人に囲まれ息絶える。

ジュゼッペ・ヴェルディ

椿姫

Giuseppe VERDI / La Traviata

全3幕(イタリア語上演/日本語及び英語字幕付)

指揮 Conductor	フランチェスコ・ランツィロットタ Francesco LANZILLOTTA
演出・衣裳 Production and Costume Design	ヴァンサン・ブサル Vincent BOUSSARD
美術 Set Design	ヴァンサン・ルメール Vincent LEMAIRE
照明 Lighting Design	ガイド・レヴィ Guido LEVI
ムーヴメント・ディレクター Movement Director	ヘルゲ・レトニャ Helge LETONJA

ヴィオレッタ Violetta Valéry	中村恵理 NAKAMURA Eri
アルフレード Alfredo Germont	リッカルド・デッラ・シュッカ Riccardo DELLA SCIUCCA
ジェルモン Giorgio Germont	グスターボ・カステイーリョ Gustavo CASTILLO
フローラ Flora Bervoix	杉山由紀 SUGIYAMA Yuki
ガストン子爵 Visconte Gastone	金山京介 KANAYAMA Kyosuke
ドゥフォーール男爵 Barone Douphol	成田博之 NARITA Hiroyuki
ドビニー侯爵 Marchese D'Obigny	近藤 圭 KONDO Kei
医師グランヴィル Dottor Grenvil	久保田真澄 KUBOTA Masumi

ほか

合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

2024年	5月	16日(木) 19:00	19日(日) 14:00
		22日(水) 14:00	25日(土) 14:00
		29日(水) 14:00	

【チケット料金】 S:29,700円 ・ A:24,200円 ・ B:17,600円 ・ C:11,000円 ・ D:7,700円

【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮: フランチェスコ・ランツィロッタ

Conductor : Francesco LANZILLOTTA

ローマ出身。近年、イタリアの著名劇場に定期的に客演。2010～14年ヴァルナ歌劇場首席指揮者、14年～17年トスカニーニ・フィル音楽監督、17年～21年マチェラータ音楽祭音楽監督を務める。トリノ王立歌劇場、フェニーチェ歌劇場、サン・カルロ歌劇場、パレルモ・マッシモ劇場、ローマ歌劇場、フィレンツェ歌劇場、ボローニャ歌劇場、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルなどイタリアの歌劇場をはじめ、ベルリン・ドイツ・オペラ、バイエルン州立歌劇場、ザクセン州立歌劇場、チューリヒ歌劇場、モネ劇場、リヨン歌劇場など国際的に活躍。22年には『清教徒』でウィーン国立歌劇場にデビュー。近年はフランクフルト歌劇場『椿姫』『ウリッセ』、ポリシヨイ劇場『フィガロの結婚』、トリノ王立歌劇場『ノルマ』などを指揮。20世紀音楽や現代音楽、現代オペラにも注力する。スイス・イタリアーナ管弦楽団、ボルツァーノ・ハイドン管弦楽団、RAI交響楽団、パルマ・トスカニーニ交響楽団、トスカーナ管弦楽団、ミラノ・ヴェルディ管弦楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、モンペリエ歌劇場管弦楽団などオーケストラへの客演も多い。作曲家としても数々の賞を受賞し、バレエや映画、演劇のための音楽を作曲している。新国立劇場初登場。



演出・衣装: ヴァンサン・ブサーール

Production and Costume Design : Vincent BOUSSARD

1999年コメディ・フランセーズにて演出家デビュー。これまでに、ベルリン州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、フランクフルト歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、アン・デア・ウィーン劇場、スウェーデン王立歌劇場、モネ劇場、サンフランシスコ・オペラ、エクサン・プロヴァンス音楽祭、インスブルック音楽祭など各地の歌劇場や音楽祭に登場。演出作品には、パーセル『ディドとエネアス』、ヘンデル『テオドーラ』、シャルパンティエ『オルフェウスの冥府下り』、カヴァッリ『エリオガバロ』などのバロック・オペラ、メノッティ『マリア・ゴロヴィン』、ブノワ・メルニエ『春の目覚め』などの現代オペラのほか、『偽の女庭師』『カプラーティ家とモンテッキ家』『カルメン』『蝶々夫人』『サロメ』『アドリアーナ・ルクヴルール』『キャンディード』など多岐に渡る。最近では、ストラスブルク・ラン歌劇場で『椿姫』、リトアニア国立オペラ『マノン』、ザルツブルク・イースター音楽祭『オテロ』、ザンクト・ガレン歌劇場『ローエングリン』、リセウ大劇場『カプラーティ家とモンテッキ家』、ワロン王立歌劇場『清教徒』などを演出。幾つかのプロダクションはテレビ放映やDVD化され、『春の目覚め』はディアパソン・ドール賞を受賞している。



ヴィオレッタ: 中村恵理(ソプラノ)

Violetta Valéry : NAKAMURA Eri

大阪音楽大学、同大学院修了。新国立劇場オペラ研修所第5期修了。2008年英国ロイヤルオペラにデビュー。翌年、同劇場の『カプラーティ家とモンテッキ家』にネトレブコの代役として出演し、一躍脚光を浴びる。そののち、カーディフ国際声楽コンクールにて、歌唱賞・オーケストラ賞の両部門で本選進出。10～16年はバイエルン州立歌劇場専属歌手となり、『フィガロの結婚』スザンナ役でデビュー後、ケント・ナガノ、キリル・ペトレンコ、大野和士らの指揮のもと、『魔笛』『ホフマン物語』『ヘンゼルとグレーテル』『ボリス・ゴドゥノフ』などに主要キャストとして出演。英国ロイヤルオペラに『フィガロの結婚』スザンナ、『ウェルテル』ソフィー、『トゥーランドット』リユー、『蝶々夫人』タイトルロールなどで客演に招かれるほか、ベルリン・ドイツ・オペラ、ザルツブルク州立劇場など客演多数。16年11月、『チェネレントラ』クロリンダでウィーン国立歌劇場にデビュー。19年には台中国家歌劇院の『神々の黄昏』ヴォークリンデに出演。12年度アリオン賞、15年度芸術選奨文部科学大臣新人賞、17年第47回JXTG音楽賞洋楽部門奨励賞受賞。大阪音楽大学客員教授、東京音楽大学非常勤講師。新国立劇場では『フィガロの結婚』バルバリーナ(03、05年)、スザンナ(07、17年)、06年『イドメネオ』イーリア、07年『ファルスタッフ』ナンネッタ、19年『トゥーランドット』リユーなど出演多数。21年には『蝶々夫人』タイトルロール、22年『椿姫』ヴィオレッタに出演し絶賛された。

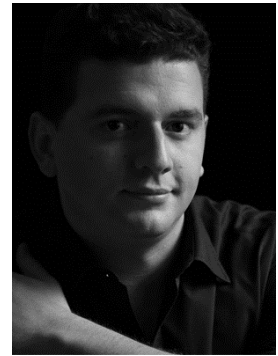


主要キャスト・スタッフ プロフィール

アルフレード・リツカルド・デッラ・シュツカ(テノール)

Alfredo Germont : Riccardo DELLA SCIUCCA

イタリア・アトリ出身。音楽と並行して人文科学も学び、ミラノのカトリック・デル・サクロ・クオーレ大学を哲学で卒業。2017年、ミラノのアドリアーナ・マリポンテ国際声楽コンクール、アンジェロ・ロフォレス国際オペラコンクールに優勝。ミラノ・スカラ座アカデミーに参加し、18年アカデミー公演『アリババと40人の盗賊』ナディール役でデビュー。また、子どものための『愛の妙薬』ネモリーノに出演したほか、スカラ座のオペラ公演に出演を重ねる。20年にはフィレンツェ歌劇場『オテロ』カッシオに出演。21年パルマ・ヴェルディ音楽祭で『シモン・ボッカネグラ』ガブリエレ・アドルノ、パヴィアのフラスキーニ劇場などでニーノ・ロータ『ナポリ・ミリオナリア』のエリコ・セッテベレッツェ、22年にはザルツブルク音楽祭へ『アイーダ』伝令、『ルチア』アルトゥーロでデビューしたほか、エアフルト劇場『椿姫』アルフレード、ワロン歌劇場『イドメネオ』アルバーチェに出演。22年兵庫県立芸術文化センター『ラ・ボエーム』ロドルフォに出演。新国立劇場初登場。



ジェルモン・グスターボ・カスティージョ(バリトン)

Giorgio Germont : Gustavo CASTILLO

ベネズエラ・バルキシメト出身。エル・システマで音楽教育を受け、2016年～18年はミラノ・スカラ座アカデミーメンバーとなる。スカラ座で『ヘンゼルとグレーテル』ペーター、子どものための『セビリアの理髪師』フィガロを歌いデビュー。ベルン歌劇場『ドン・カルロ』ロドリゴ、『メリー・ウィドウ』ツェータ男爵、ボローニャ歌劇場『蝶々夫人』シャープレス、カリアリ歌劇場『ヘンゼルとグレーテル』ペーター、オビエド歌劇場『ルチア』エンリーコ、ミラノ・スカラ座『セビリアの理髪師』フィガロに出演。最近では、バーリ・ペトルツェリ劇場『ロメオとジュリエット』マキューシオ、クラーゲンフルト歌劇場『仮面舞踏会』レナートに出演している。コンサートでは、ボストン交響楽団、シンシナティ交響楽団と『カンタータ・クリオージャ』に出演したほか、サレルノ・ヴェルディ劇場でロサンゼルス・フィルと『カルミナ・ブラーナ』に出演している。22年兵庫県立芸術文化センター『ラ・ボエーム』マルチェッロに出演。新国立劇場初登場。



コジ・ファン・トウツテ

Così fan tutte

オペラパレス | 4回公演 | 全2幕(イタリア語上演/日本語及び英語字幕付)

●会員先行販売期間: 2024年3/2(土)~3/12(火)

●一般発売日: 2024年3/16(土)

初演: 1790年1月26日/ブルク劇場(ウィーン)

作曲: ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

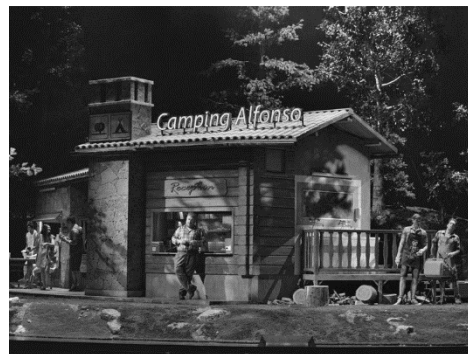
台本: ロレンツォ・ダ・ポンテ

プロダクションについて

『フィガロの結婚』『ドン・ジョヴァンニ』と共に“ダ・ポンテ三部作”として親しまれているモーツァルトの名作。タイトルは“女はみんな、こうしたもの”の意味で、皇帝ヨーゼフⅡ世が『フィガロの結婚』のバジリオの台詞をもとにした新作を依頼したと言われ、ウィーンでの初演はアンコールのために上演時間が倍になるほどの大成功を収めました。今日では、若い男女の恋愛喜劇の中に、鋭い人間洞察による男女の感情の機微、人間の本质や愚かさがにじみ、美しい音楽の世界が広がるモーツァルトの代表作としてその真価が認められています。二重唱をはじめ三重唱、四重唱、五重唱と、繊細な感情を表現する均整のとれた優美なアンサンブルは、モーツァルトのオペラの極致といってもよい美しさです。

世界中のオペラハウスで今や引く手あまたの演出家ミキエレットを招いて11年5月に初演したこのプロダクションは、現代のキャンプ場へ舞台を移した斬新な演出ながら、的を射た展開で観客の心を掴み、「キャンプ・コジ」と大きな話題となりました。巨木が立ち並び苔の薫りまで漂うような深遠な森を背景に、現代性と遊び心いっぱいの色彩豊かな衣裳や小道具が目飛び込んでくる、徹底してリアルな舞台美術も大きな見どころです。

セレーナ・ガンベローニ、ダニエラ・ピーニ、ホエル・プリエト、マッティア・オリヴィエーリら旬の歌手たちが結集し、2020/2021シーズン開幕公演『夏の夜の夢』を大成功に導いた飯森範親が指揮を務めます。



2013年公演より

あらすじ

【第1幕】青年士官のグリエルモとフェルランドは、美しい姉妹フィオルディリージとドラベッラとそれぞれ婚約を交わしている。二人は老哲学者のドン・アルフォンソにそそのかされて女性の愛が永続的に信頼しうるかどうか、議論をする。アルフォンソは永続する愛など虚像にすぎないのだと二人を諭すが、若者たちは恋人の貞節について「信頼しうる」方に賭けることになった。まず、フェルランドとグリエルモは出征するふりをして偽りの別れを演じる。その後、二人は変装して現れ、姉妹を熱烈に口説く。最初は断固拒否する姉妹。男たちは毒をあおる振りをして偽医者として登場したデスピーーナの解毒で蘇生、さらに熱烈に姉妹を口説く。

【第2幕】小間使いのデスピーーナによるさばけた恋の指南も手伝ってか、あの手この手のプロポーズ攻撃に姉妹の心は徐々に揺らいでいる。まず、ドラベッラが姉の婚約者グリエルモに陥落し、ついにフィオルディリージも激しい葛藤の末フェルランドの手に落ちる。「女はみんなこうしたもの」とほくそえむドン・アルフォンソ。新しい二組のカップルの結婚式が行われているところに突如軍隊の帰還が告げられる。変装した男二人はもとの姿に戻って姉妹の前に現れ、恋人の不貞を詰問。姉妹は許しを乞いドン・アルフォンソの種明かして四人はもとの鞆に収まり、理性を讃えて幕となる。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

コジ・ファン・トゥツテ

Wolfgang Amadeus MOZART / Così fan tutte

全2幕(イタリア語上演/日本語及び英語字幕付)

指揮 Conductor	飯森範親 IIMORI Norichika
演出 Production	ダミアーノ・ミキエレット Damiano MICHIELETTA
美術・衣裳 Set and Costume Design	パオロ・ファンティン Paolo FANTIN
照明 Lighting Design	アレッサンドロ・カルレッティ Alessandro CARLETTI
フィオルディリージ Fiordiligi	セレーナ・ガンベロニ Serena GAMBERONI
ドラベツラ Dorabella	ダニエラ・ピーニ Daniela PINI
デスピーナ Despina	九嶋香奈枝 KUSHIMA Kanae
フェルランド Ferrando	ホエル・プリエト Joel PRIETO
グリエルモ Guglielmo	マッティア・オリヴィエーリ Mattia OLIVIERI
ドン・アルフォンソ Don Alfonso	フィリッポ・モラーチェ Filippo MORACE
合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

2024年	5月	30日(木) 18:30	
	6月	1日(土) 14:00	2日(日) 14:00
		4日(火) 14:00	

【チケット料金】 S:26,400円 ・ A:22,000円 ・ B:15,400円 ・ C:9,900円 ・ D:6,600円

【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮:飯森範親

Conductor: IIMORI Norichika

桐朋学園大学指揮科卒業。ベルリンとミュンヘンで研鑽を積み、1994年から東京交響楽団の専属指揮者、モスクワ放送交響楽団特別客演指揮者、広島交響楽団正指揮者などを歴任。96年の東京交響楽団ヨーロッパツアーで絶賛されて以降、同楽団とは密接な関係を続け、正指揮者、特別客演指揮者を務めた。2003年、NHK交響楽団定期演奏会にマーラーの交響曲第1番でデビューを飾る。06年度芸術選奨文部科学大臣新人賞。海外ではフランクフルト放響、ケルン放響、チェコ・フィル、プラハ響などに客演を重ねる。01年よりドイツ・ヴェルテンベルク・フィルの音楽総監督(GMD)に就任し、ベートーヴェンの交響曲全集を録音。日本ツアーも成功に導いた。現在、パシフィックフィルハーモニア東京音楽監督、日本センチュリー交響楽団首席指揮者、山形交響楽団桂冠指揮者、いづみシンフォニエッタ大阪常任指揮者、東京佼成ウインドオーケストラ首席客演指揮者、中部フィルハーモニー交響楽団首席客演指揮者。23年4月より群馬交響楽団常任指揮者に就任予定。新国立劇場では『鹿鳴館』、高校生のためのオペラ鑑賞教室『蝶々夫人』を指揮したほか、20/21シーズン開幕公演『夏の夜の夢』を指揮し大成功を収めた。



演出:ダミアノ・ミキエレット

Production: Damiano MICHIELETTA

ミラノのパオロ・グラッシ演劇学校でオペラと演劇の演出を学んだ後、生地ヴェネツィアの大学で現代文学を学ぶ。2003年ウェックスフォード・フェスティバル『バグパイブ吹きシュワング』の演出が絶賛され、アイルランド・タイムスESB演劇賞を受賞。08年ロッシェニ・オペラ・フェスティバル『泥棒かささぎ』でアッピアーティ賞を受賞。12年にはザルツブルク音楽祭に『ラ・ボエーム』でデビューし、続いて13年『ファルスタッフ』、14年『チェネレントラ』を演出。主な演出作品に、オランダ国立オペラ『ランスへの旅』『リゴレット』、英国ロイヤルオペラ『カヴァレリア・ルスティカーナ/道化師』(16年オリヴィエ賞受賞)、フェニーチェ歌劇場『魔笛』『メリー・ウイドゥ』、アン・デア・ウィーン劇場『オテロ』(ロッシェニ)、『夏の夜の夢』、ベルリン・コーミッシェ・オーパー『サンドリヨン』、ロッシェニ・フェスティバル『湖上の美人』、パリ・オペラ座『サムソンとデリラ』『ドン・パスクワレ』、フェニーチェ歌劇場『アクアグラнда』(ペロッコ作曲・世界初演、17年アッピアーティ賞受賞)、『マクベス』、ミラノ・スカラ座『ファルスタッフ』、ローマ歌劇場『ファウストの劫罰』(18年アッピアーティ賞)、フランクフルト歌劇場『はるかなる響き』、ザルツブルク音楽祭『アルチーナ』などがある。



フィオルディリジ:セレーナ・ガンベローニ(ソプラノ)

Fiordiligi: Serena GAMBERONI

イタリア出身。2000年にヴェローナで『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナに出演してデビュー。ジェノヴァ・カルロ・フェリーチェ歌劇場で『愛の妙薬』ジャンネッタ、『フィガロの結婚』スザンナ、『仮面舞踏会』オスカル、『ドン・パスクワレ』ノリーナに、トリノ王立歌劇場で『愛の妙薬』アディーナ、『ラ・ボエーム』ムゼッタ、『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタ、パルマ王立歌劇場『コジ・ファン・トゥッテ』、『ウェルテル』など出演。『ファルスタッフ』ナンネッタでヴェローナ野外歌劇場、ローマ歌劇場に、『仮面舞踏会』オスカルでパルマ・ヴェルディ音楽祭、トリノ王立歌劇場、ヴェローナ野外歌劇場に出演し、同役でミラノ・スカラ座、英国ロイヤルオペラにデビュー。最近の出演に、パレルモ・マッシモ劇場『ウェルテル』ソフィー、カルロ・フェリーチェ劇場で『トゥーランドット』リユー、カリアリ歌劇場、フィレンツェ歌劇場で『フィガロの結婚』伯爵夫人(ロールデビュー)、フェニーチェ歌劇場『仮面舞踏会』オスカル、英国ロイヤルオペラ『コジ・ファン・トゥッテ』デスピーナなどがある。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

ドラベッラ:ダニエラ・ピーニ(メゾソプラノ)

Dorabella : Daniela PINI

ボローニャ大学で音楽史を専攻し、モデナで声楽を学ぶ。『チェネレントラ』アンジェリーナ、『セビリアの理髪師』ロジーナ、『タンクレディ』ロジエーロ、『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『ファルスタッフ』ページ夫人メグなどのレパートリーで、ボローニャ歌劇場、ヴェローナ歌劇場、パルマ王立歌劇場、サッサリ歌劇場、トリエステ歌劇場、カリアリ歌劇場、フランフルト歌劇場などで活躍。最近の出演に、ニュース・オペラ『コジ・ファン・トゥッテ』ドラベッラ、『メデア』ネリス、バイエルン州立歌劇場『ファルスタッフ』ページ夫人メグ、ラヴェンナ音楽祭『リゴレット』マッダレーナ、トリノ王立歌劇場『チェネレントラ』アンジェリーナ、ベルガモ・ドニゼッティ劇場『アンナ・ボレーナ』ジョヴァンナ・シーモアなどがある。新国立劇場では2011年、『コジ・ファン・トゥッテ』本プロダクション新制作の際にもドラベッラに出演している。



デスピーナ:九嶋香奈枝(ソプラノ)

Despina : KUSHIMA Kanae

東京藝術大学卒業。新国立劇場オペラ研修所第4期修了。文化庁派遣在外研修員としてミラノに留学。2005年にはギリシャにてアテネ国立劇場開場記念公演『魔笛』（ミヒヤエル・ハンペ演出）に招聘され出演。第54回全日本学生音楽コンクール第1位、HIMESコンクール第1位。東京二期会『魔笛』パパゲーナ、びわ湖ホール『死の都』ユリエッテ、PMFステージオペラ『ナクソス島のアリアドネ』ナヤデなど出演。新国立劇場では『愛の妙薬』ジャンネッタ、『フィガロの結婚』スザンナ、バルバリーナ、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『パルジファル』小姓1、『ジークフリート』森の小鳥、『魔笛』パパゲーナ、『愛の妙薬』ジャンネッタ、『ペレアスとメリザンド』イニョルド、『ボリス・ゴドゥノフ』クセニア、高校生のためのオペラ鑑賞教室『ドン・バスクワーレ』ノリーナなど出演している。二期会会員。



フェルランド:ホエル・プリエト(テノール)

Ferrando : Joel PRIETO

スペイン出身、プエルトリコ育ち。若手世代で最も注目される刺激的なテノールのひとり。2008年オペラリアコンクールに満場一致で優勝し、国際的な舞台へ躍り出る。プエルトリコ大学及びプエルトリコ音楽院、マンハッタン音楽学校で学び、パリ・オペラ座研修所、ザルツブルク音楽祭ヤング・シンガーズ・プロジェクトに参加、ベルリン・ドイツ・オペラ専属歌手を経て、英国ロイヤルオペラ、テアトロ・レアル、リセウ大劇場、ベルリン州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ザクセン州立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、ワシントン・ナショナル・オペラ、ヒューストン・グランド・オペラ、ロサンゼルス・オペラ、パリ・オペラ座、シャトレ座、トゥールーズ・キャピトル劇場、モンテカルロ歌劇場、モネ劇場、アン・デア・ウィーン劇場、ローマ歌劇場、サンチャゴ市立劇場、サンタフェ・オペラ、グライントボーン音楽祭、エディンバラ音楽祭、エクサン・プロヴァンス音楽祭など世界の著名歌劇場、音楽祭へ登場。モーツァルトやベルカントの主要な役柄でキャリアを拓き、リリック・テノールとして『ロメオとジュリエット』ロメオ、『ルチア』エドガルド、『愛の妙薬』ネモリーノ、『エウゲニ・オネーギン』レンスキー、『椿姫』アルフレード、『ファウスト』タイトルロール、『カルメン』ドン・ホセ、『ラ・ボエーム』ロドルフォなどに役を拡げている。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

グリエルモ・マッティア・オリヴィエーリ(バリトン)

Guglielmo : Mattia OLIVIERI

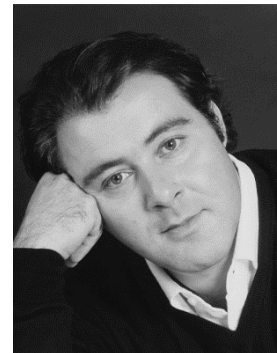
イタリア生まれ。ボローニャのマルティーニ音楽院で学び、ボローニャ歌劇場オペラスタジオに入る。2008年にボローニャ歌劇場でデビュー後、ロッシーニ・オペラ・フェスティバルアカデミー、ミラノ・スカラ座、ヴェローナ音楽祭、トリエステ・ヴェルディ劇場、パレルモ・マッシモ劇場、ブレゲンツ音楽祭、パレンシア歌劇場、マルティーナ・フランカ音楽祭、サンパウロ歌劇場などに次々と登場している。レパートリーには『ドン・ジョヴァンニ』タイトルロール、『ラ・ボエーム』マルチェッロ、ショナール、『ゴジ・ファン・トゥッテ』グリエルモ、『愛の妙薬』ベルコーレ、『カルメン』エスカミーリョ、『セビリアの理髪師』フィガロがある。最近ではバイエルン州立歌劇場『トゥーランドット』ピン、フィレンツェ歌劇場『愛の妙薬』ベルコーレ、『フィガロの結婚』アルマヴィーヴァ伯爵、オランダ国立オペラ『道化師』シルヴィオなどに出演。今後の予定に、ミラノ・スカラ座で『ロメオとジュリエット』メルキューシオと『イタリアのトルコ人』プロスドーチモ、バイエルン州立歌劇場『愛の妙薬』ベルコーレのほか、ヒューストン・オペラでのアメリカデビュー、グラインドボーン音楽祭などの予定がある。新国立劇場では18年『ファルスタッフ』フォードに出演し、抜群の表現力で観客を魅了した。



ドン・アルフォンソ・フィリッポ・モラーチェ(バス・バリトン)

Don Alfonso : Filippo MORACE

ナポリ出身。サレルノ音楽院を卒業直後にロベルト・デ・シモーネに抜擢され、サン・カルロ歌劇場『ヴィーヴァ・ラ・マンマ』（ドニゼッティ）に出演。1999年スポレートでコンクールに優勝し同地で『オベルト、サン・ボニファーチョ伯爵』（ヴェルディ）タイトルロールに出演。サン・カルロ歌劇場で『チェネレントラ』『焼きもち焼きの夫』（チマローザ）『イエヌーファ』『セビリアの理髪師』『ラ・ボエーム』『トスカ』『イタリアのトルコ人』『空想のソクラテス』（パイジェッロ）などで活躍するほか、ミラノ・スカラ座『ラ・ボエーム』『空想のソクラテス』『トスカ』、フェニーチェ歌劇場『セビリアの理髪師』（パイジェッロ、ロッシーニ）、ボローニャ歌劇場『ランスへの旅』『ラ・ボエーム』、ローマ歌劇場『アルジェのイタリア女』『セビリアの理髪師』、マチェラータ音楽祭『ラ・ボエーム』、トリエステ歌劇場『ピーター・グライムズ』、モンテカルロ歌劇場『ランスへの旅』、モネ劇場『セビリアの理髪師』（パイジェッロ）、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル『美女たちの勝利』（パヴェージ）などに出演。最近ではトリノ王立劇場『アニーゼ』（パエール）、サレルノ歌劇場『連隊の娘』シュルピス、同劇場『魔笛』パプァーノ、フィレンツェ歌劇場『ヴィーヴァ・ラ・マンマ』、イェージ・ベルゴレージ・スポンティーニ・フェスティバル『妹に恋した兄』などに出演している。新国立劇場初登場。



トスカ

Tosca

オペラパレス | 5回公演 | 全3幕(イタリア語上演/日本語及び英語字幕付)

●会員先行販売期間: 2024年3/30(土)～4/9(火)

●一般発売日: 2024年4/13(土)

初演: 1900年1月14日/コスタンツィ劇場(ローマ)

作曲: ジャコモ・プッチーニ

原作: ヴィクトリアン・サルドウ

台本: ジュゼッペ・ジャコーザ、ルイーダ・イツリカ

プロダクションについて

政情不安のローマを舞台に、運命に翻弄される歌姫トスカと画家カヴァラドッシの愛と悲劇を、プッチーニが甘美な旋律と劇的なオーケストラで描いた傑作オペラ。冒頭のカヴァラドッシの甘美なアリア「妙なる調和」、トスカの絶唱「歌に生き、恋に生き」、カヴァラドッシの告別の歌「星は光りぬ」など全編に人気アリアが散りばめられ、1日を切り取った緊迫したドラマと共に、声のエンターテインメントとして歌手の技量も存分に楽しめる作品です。荘厳華麗なマダウ＝ディアツ演出は、緻密な描写で愛と欲望、追い詰められ死に瀕する極限のドラマを描くもので、新国立劇場のレパートリーの中でも屈指の人気を誇ります。中でも1幕フィナーレの「テ・デウム」は、壮麗な礼拝堂へと舞台装置が展開し、人々の祈りの合唱を背景に究極の悪役スカルピアが欲望を吐露する、圧巻の名場面。オペラの醍醐味を存分に味わえる決定的瞬間が、観客の心を揺さぶります。

指揮には名匠マウリツィオ・ベニーニを迎え、トスカ役にはジョイス・エル＝コーリー、カヴァラドッシには『トゥーランドット』カラフでも場を圧倒したテオドル・イリンカイが出演します。



2018年公演より

あらすじ

【第1幕】旧王制派の警視総監スカルピアの恐怖政治下の1800年6月17日のローマ。共和派で画家のカヴァラドッシが教会でマリア像を描いていると、アンジェロッチェが脱獄して逃げてくる。カヴァラドッシは再会を喜ぶが、恋人のトスカが来るので、慌てて彼を礼拝堂に隠す。トスカは描きかけのマリア像が侯爵夫人にそっくりだと嫉妬するが、カヴァラドッシになだめられ教会を去る。彼らが隠れ家に向った後、スカルピアが教会にやってくる。脱獄犯をかくまった証拠をつかんだスカルピアは、嫉妬深いトスカを利用して二人の行方を突きとめようとする。

【第2幕】スカルピアの執務室にカヴァラドッシが連行される。アンジェロッチェの居場所を白状しない彼は、拷問部屋へ連れていかれる。トスカは拷問を受ける彼のうめき声を聞き、アンジェロッチェの居場所を告白してしまう。カヴァラドッシを助けてほしいとトスカが懇願すると、スカルピアは代わりにトスカ自身を要求。トスカは泣く泣く受け入れる。スカルピアは、形だけの死刑執行をするため、空砲で銃殺刑を行うと約束する。納得したトスカは出国のための通行証書を要求。書き終えたスカルピアがトスカを抱こうとしたとき、「これがトスカの口づけよ」とトスカはスカルピアを刺し、部屋を去る。

【第3幕】牢獄のカヴァラドッシのもとをトスカが訪れ、スカルピアを殺したこと、刑は見せかけであることを説明。死刑執行のときを迎える。銃声が鳴り響き、地面に崩れ落ちるカヴァラドッシ。トスカが駆け寄ると、彼は絶命していた。そのときスカルピア殺害も発覚し、追手の声が迫る。追い詰められたトスカは、聖アンジェロ城から身を投げる。

ジャコモ・プッチーニ

トスカ

Giacomo PUCCINI / Tosca

全3幕(イタリア語上演/日本語及び英語字幕付)

指揮 Conductor	マウリツィオ・ベニーニ Maurizio BENINI
演出 Production	アントネッロ・マダウ＝ディアツ Antonello MADAU-DIAZ
美術 Set Design	川口直次 KAWAGUCHI Naoji
衣裳 Costume Design	ピエール・ルチアーノ・カヴァッロツティ Pier Luciano CAVALLOTTI
照明 Lighting Design	奥畑康夫 OKUHATA Yasuo

トスカ Tosca	ジョイス・エル＝コーリー Joyce EL-KHOURY
カヴァラドッシ Cavaradossi	テオドール・イリンカイ Teodor ILINCĂI
スカルピア Scarpia	ニカラズ・ラグヴィラーヴァ Nikoloz LAGVILAVA
アンジェロツティ Angelotti	妻屋秀和 TSUMAYA Hidekazu
スポレッタ Spoletta	糸賀修平 ITOGA Shuhei
シャルローネ Sciarrone	大塚博章 OTSUKA Hiroaki
堂守 Il Sagrestano	志村文彦 SHIMURA Fumihiko

ほか

合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

2024年	7月	6日(土)14:00	10日(水)14:00
		14日(日)14:00	19日(金)19:00
		21日(日)14:00	

【チケット料金】 S:29,700円・A:24,200円・B:17,600円・C:11,000円・D:7,700円

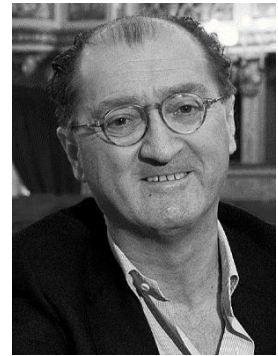
【会場】 オペラパレス

主要キャスト・スタッフ プロフィール

指揮: マウリツィオ・ベニーニ

Conductor : Maurizio BENINI

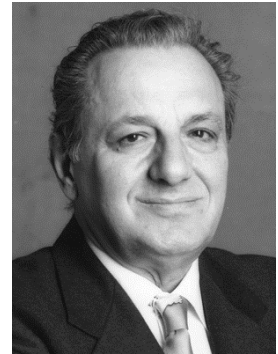
メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、ウィーン国立歌劇場、英国ロイヤルオペラなど世界の主要歌劇場、音楽祭で活躍する指揮者。ボローニャ歌劇場『ブルスキノー氏』でデビュー後、ミラノ・スカラ座に1992年『湖上の美人』でデビュー。ミラノ・スカラ座、ロッシーニ・オペラ・フェスティバル、英国ロイヤルオペラ、エディンバラフェスティバルなどで活躍。ボローニャ歌劇場管弦楽団、サンチャゴ・ムニシパル劇場首席指揮者、サン・カルロ歌劇場首席客演指揮者などを歴任。最近では、メトロポリタン歌劇場『ルチア』『ドン・パスクワレ』『ロベルト・デヴェリュー』『セビリアの理髪師』『清教徒』『セミラーミデ』『マノン』、アムステルダムで『イル・トロヴァトーレ』、英国ロイヤルオペラ『ナブッコ』『椿姫』『シチリアの晩鐘』、チューリヒ歌劇場『カプレーティ家とモンテッキ家』、テアトロ・レアル『イル・トロヴァトーレ』『海賊』、モンテカルロ歌劇場『ルイザ・ミラー』『ファルスタッフ』、パリ・オペラ座『イル・トロヴァトーレ』、オランダ国立オペラ『セビリアの理髪師』『ナブッコ』、英国ロイヤルオペラ『椿姫』、プエノスアイレス・コロソ歌劇場『リゴレット』、チューリヒ歌劇場『夢遊病の女』を指揮。新国立劇場には98年『セビリアの理髪師』を指揮しており、22/23シーズン『リゴレット』も指揮する予定。



演出: アントネッロ・マダウ＝ディアツ

Production : Antonello MADAU-DIAZ

イタリア・ペルージャ生まれ。フィレンツェで舞台技術と演出を学び、ヴィスコンティ、ゼッフィレリなど世界第一級の演出家のもとで研鑽を積む。1956年ジェノヴァ市立歌劇場の『ヘンゼルとグレーテル』でオペラ演出家デビュー。以来、ミラノ、ローマなどイタリア各地をはじめ、スペイン、フランス、アメリカなど世界各地の歌劇場で200本以上の演出を手がけ、オペラ専門の演出家として活躍。いずれもイタリア・オペラの伝統を踏まえた手堅い演出で評価を得ている。58年から91年までミラノ・スカラ座に所属し、演出部長、制作部長を務めた。新国立劇場では、98年に『ナブッコ』、2000年には『トスカ』の演出を手掛けた。『トスカ』は緻密な舞台づくりと豪華な舞台装置で、新国立劇場屈指の人気レパートリーとなっている。15年8月逝去。



トスカ: ジョイス・エル＝コーリー (ソプラノ)

Tosca : Joyce EL-KHOURY

レバノン出身。カナダで育ち、オタワ大学で音楽学士号を、フィラデルフィア声楽アカデミーでアーティスト・ディプロマを取得し、メトロポリタン歌劇場のリンデマン・ヤング・アーティスト・プログラムを修了。ロイヤル・コンサート・ホウ管弦楽団『ルサルカ』タイトルロール、バイエルン州立歌劇場『ラ・ボエーム』ムゼッタ、サンタフェ・オペラ『カルメン』ミカエラ、カナディアン・オペラ・カンパニー『椿姫』ヴィオレッタなどに出演し、2016/17シーズンに英国ロイヤルオペラに『椿姫』ヴィオレッタでデビュー。17年には同役でグランドボーン音楽祭にデビュー。ボルドー歌劇場『真珠採り』レイラ、『海賊』イモジェーネ、フィラデルフィア・オペラ『トゥーランドット』リユー、リール・オペラ『トスカ』タイトルロール、カナディアン・オペラ・カンパニー『エウゲニ・オネーギン』タチヤーナなどに出演。21/22シーズンはウェールズ・ナショナル・オペラで『蝶々夫人』タイトルロールにデビューしたほか、ダラス・オペラ『真珠採り』、カナディアン・オペラ・カンパニー『カルメン』、ビルパオ・オペラ『アンナ・ボレーナ』タイトルロールなどに出演し、ムーティ指揮シカゴ交響楽団『仮面舞踏会』でアメリカにロールデビュー、ルツェルン音楽祭とグラフェネック音楽祭にR.シュトラウス『4つの最後の歌』でデビューした。新国立劇場初登場。



主要キャスト・スタッフ プロフィール

カヴァラドッシ:テオドール・イリンカイ(テノール)

Cavaradossi : Teodor ILINCAI

ルーマニア生まれ。オーボエ、ピザンチン音楽、音楽教育を学んだ後、声楽に転向。2008年にブカレストのルーマニア国立歌劇場にデビューして注目を集め、以後国際的に活躍している。レパートリーには『マクベス』マクダフ、『椿姫』アルフレード、『ドン・カルロ』タイトルロール、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『蝶々夫人』ピンカートン、『トスカ』カヴァラドッシ、『ロメオとジュリエット』ロメオ、『エウゲニ・オネーギン』レンスキー、『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドゥなどがあり、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、パリ・オペラ座、英国ロイヤルオペラ、ザクセン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ライン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、モネ劇場などで活躍している。近年ではドラマティックな役柄にも進出し、『イル・トロヴァトーレ』マンリーコ、『カルメン』ドン・ホセ、『トゥーランドット』カラフなどを歌っている。数々のコンクールで入賞しており、ルーマニア騎士章を授けられているほか、詩人としても高い評価を得ている。新国立劇場では19年オペラ夏の祭典『トゥーランドット』カラフに出演。



スカルピア:ニカラズ・ラグヴィラーヴァ(バリトン)

Scarpia : Nikoloz LAGVILAVA

ジョージア出身。ジョージア国立歌劇場専属歌手を経て、2017/18シーズンから18/19シーズンはエッセン・アールト劇場専属歌手を務める。エッセンでは『イル・トロヴァトーレ』ルーナ伯爵、『リゴレット』タイトルロール、『カルメン』エスカミーリョ、『オテロ』イアーゴ、『トスカ』スカルピアに出演した。これまでにリール歌劇場とディジョン歌劇場で『ナブッコ』タイトルロール、サヴォンリンナ・オペラ・フェスティバル『スぺードの女王』トムスキー、ノルウェー国立オペラ『カヴァレリア・ルスティカーナ』アルフィオ、ペイルートのアル・ブスタン・フェスティバルで『オテロ』イアーゴ、ボリショイ劇場、スロヴァキア国立歌劇場、ジョージア国立歌劇場で『カルメン』エスカミーリョなどに出演。最近では、ライン・ドイツ・オペラ『トスカ』スカルピア、ポーランド国立歌劇場『ナブッコ』タイトルロール、ベルリン・コーミッシェ・オーパー、プラハ国立歌劇場、ポーランド国立歌劇場『リゴレット』タイトルロール、ボリショイ劇場、トビリシ歌劇場『カルメン』エスカミーリョ、トビリシ歌劇場『椿姫』ジェルモン、ポーランド国立歌劇場『アイダ』アモナズロなどに出演している。新国立劇場初登場。



令和5年度公演 〈2 演目 8 公演〉

2023年7月
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2023
(新国立劇場公演)

ラ・ボエーム

La Bohème | G. プッチーニ
6回公演

2023年10月
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2023
(ロームシアター京都公演)

魔笛

Die Zauberflöte | W. A. モーツァルト
2回公演

ラ・ボエーム

La Bohème

オペラパレス | 6回公演 | 全4幕<イタリア語上演/日本語及び英語字幕付>

●高校生以下発売日: 2023年5/28(日)

●一般発売日: 2023年6/24(土)

初演:1896年2月1日/トリノ王立歌劇場

作曲:ジャコモ・プッチーニ

原作:アンリ・ミュルジェ

台本:ジュゼッペ・ジャコーザ/ルイージ・イツリカ

プロダクションについて

新国立劇場「高校生のためのオペラ鑑賞教室」は、現代舞台芸術の一層の普及を目指す新国立劇場が、次の世代を担う青少年に向け優れた舞台芸術を提供する機会として1998年（平成10年）より毎年開催しています（※2020年のみ中止）。「初めてのオペラ鑑賞だからこそ、本物のオペラを体験していただきたい」という願いを込めて、演出、舞台美術、衣裳など本公演と全く同じプロダクションを上演。日本を代表するオペラ歌手が出演し、生のオーケストラ演奏で上演しています。高校生を学生扱いせず、一般のお客様と全く同じスタイルで名作オペラを全曲鑑賞していただくというコンセプトが大変好評をいただいております。

2023年の新国立劇場公演は、プッチーニの名作『ラ・ボエーム』を上演します。19世紀パリを舞台に、詩人ロドルフォとお針子ミミの純愛、そして明日の成功を夢見る若き芸術家たちの貧しくも自由な生活を描いた青春オペラで、プッチーニならではの甘美な音楽がロマンティックな物語を紡ぎます。等身大の若者たちの姿が、多感な高校生の共感を大いに誘うことでしょう。



2012年公演より

あらすじ

【第1幕】若き詩人ロドルフォ、画家マルチェッロ、音楽家ショナール、哲学者コッリーネは、成功を夢見て、パリの屋根裏部屋で暮らしている。薪も買えず、原稿を燃やして暖を取るほど貧しいが、クリスマス・イブの今日はショナールの報酬でディナーへ出かける。ロドルフォだけ急ぎの原稿を仕上げるため部屋に残る。すると隣の部屋に住むお針子ミミが火を分けてほしいとやってくる。ミミは火をもらって帰ろうとしたとき鍵を落としたことに気づく。火の消えた闇の中、2人で鍵を探すうちに手が触れ合い、恋に落ちる。

【第2幕】カフェ・モミュスで仲間と合流したロドルフォはミミを紹介する。そこへマルチェッロの元恋人ムゼッタが、新しいパトロンのお老人アルチンドロとやってくる。マルチェッロの気を引くためムゼッタはわざと大げさに振る舞うが、マルチェッロは無視。しかし、ついにはアルチンドロを追い払い、2人はめでたくよりを戻す。

【第3幕】雪降る夜明け。ロドルフォの態度に悩むミミは、マルチェッロの働く酒場へ向かう。店にはロドルフォがいて、マルチェッロに語り出す。自分の稼ぎでは病のミミの治療代を払えない、だからミミが離れるようわざと冷たく当たっているのだと。ミミは身を引く決意をする。マルチェッロはムゼッタの浮気を疑いけんか別れする。

【第4幕】ロドルフォとマルチェッロは元恋人に想いを馳せて仕事ははかどらない。ショナールとコッリーネと共に騒いでいると、ムゼッタが瀕死のミミを連れてくる。皆で所持品を質に入れて薬代にしようとするが、時すでに遅く、ミミは、望み通りロドルフォの側で息を引き取る。

ジャコモ・プッチーニ
新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2023

ラ・ボエーム

Giacomo PUCCINI / La Bohème

全4幕〈イタリア語上演／日本語及び英語字幕付〉

指揮 Conductor	阪 哲朗 BAN Tetsuro
演出 Production	粟國 淳 AGUNI Jun
美術 Set Design	パスクアーレ・グロッシ Pasquale GROSSI
衣裳 Costume Design	アレッサンドロ・チャンマルーギ Alessandro CIAMMARUGHI
照明 Lighting Design	笠原俊幸 KASAHARA Toshiyuki

	(7月10日・12日・14日)	(7月11日・13日・15日)
ミミ Mimi 吉田珠代 YOSHIDA Tamayo	石橋栄実 ISHIBASHI Emi
ロドルフォ Rodolfo 工藤和真 KUDO Kazuma	宮里直樹 MIYASATO Naoki
マルチェット Marcello 青山 貴 AOYAMA Takashi	成田博之 NARITA Hiroyuki
ムゼッタ Musetta 九嶋香奈枝 KUSHIMA Kanae	臼木あい USUKI Ai
シヨナル Schaunard 高橋正尚 TAKAHASHI Masanao	吉川健一 YOSHIKAWA Kenichi
コッリーネ Colline 伊藤貴之 ITO Takayuki	久保田真澄 KUBOTA Masumi
ベノア Benoit 畠山 茂 HATAKEYAMA Shigeru	畠山 茂 HATAKEYAMA Shigeru
アルチンドロ Alcindoro 晴 雅彦 HARE Masahiko	大久保光哉 OKUBO Mitsuya

ほか

合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	東京フィルハーモニー交響楽団 Tokyo Philharmonic Orchestra

助 成：公益財団法人 **ロームミュージックファンデーション**

協 賛：**ローム株式会社**  **損保ジャパン**

2023年 7月	10日(月)13:00	11日(火)13:00	12日(水)13:00
	13日(木)13:00	14日(金)13:00	15日(土)13:00

【チケット料金】 2,200円(高校生及び引率教員【学校団体】)

残席がある公演日に限り前売販売：2,200円(高校生以下)／4,400円(一般)

【 会 場 】 オペラパレス

魔笛

Die Zauberflöte

ロームシアター京都 メインホール | 2回公演 | 全2幕(ドイツ語上演/日本語字幕付)

初演:1791年9月30日/アウフ・デア・ヴィーデン劇場

作曲:ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

台本:エマヌエル・シカネーダー

プロダクションについて

「高校生のためのオペラ鑑賞教室」は2008年から関西公演が始まり、2016年からはロームシアター京都で『フィガロの結婚』『蝶々夫人』『魔笛』『ドン・パスクワレ』と上演を重ねてきました。『魔笛』の上演は2018年、20年に続き3回目となります。

モーツァルトのジングシュピール(歌芝居)として知られる『魔笛』は「おいらは鳥刺し」「パ・パ・パ」といった親しみやすい曲、そして夜の女王の超絶技巧のアリアなど、誰も耳になじみのある美しい曲が次々に登場する、音の宝宝箱のような作品で、世界中で多くの子供たちが『魔笛』でオペラ鑑賞デビューを飾っています。現代アートの巨匠ウィリアム・ケントリッジの演出はケントリッジならではの人間哲学に満ち、映像をふんだんに使ったビジュアルアートとしての迫力も相まって、観客に多くの問いを投げかけます。ケントリッジは日本で初の大規模展覧会(京都国立近代美術館)、京都賞受賞など京都の地とも縁が深く、上演のたびに大きな反響を呼んでいます。



2018年公演より

あらすじ

【第1幕】森で大蛇に襲われ、恐ろしさの余り気絶してしまった王子タミーノ。そこに夜の女王に仕える3人の侍女がやってきて大蛇を退治し立ち去る。タミーノが目覚めると大蛇が死んでいるのにびっくり。やってきた鳥刺しのパパゲーノに尋ねてみると、大蛇を退治したのは自分だと誇らしげに語る。が、それは嘘で、罰として3人の侍女がパパゲーノの口に鍵をかけてしまう。3人の侍女は、夜の女王の娘パミーナの肖像画をタミーノに見せ、邪悪なザラストロにさらわれた彼女を救ってほしいと願う。パミーナに一目惚れしたタミーノは引き受ける。お礼に夜の女王は、タミーノに魔法の笛、口の鍵の解けたパパゲーノに銀の鈴を授ける。

ザラストロの神殿にいるパミーナのもとにパパゲーノが行き、タミーノが助けにくることを伝える。喜ぶパミーナ。タミーノは神殿の門に到着するが、弁者によれば、ザラストロは暴君ではなく賢人で、高慢な夜の女王からパミーナをかままっているのだという。そしてザラストロが登場。タミーノとパパゲーノは神殿に招き入れられる。

【第2幕】タミーノは、徳と正義を得るため神殿で試練を受けることに。これを経れば妻に会えると言われたパパゲーノも、しぶしぶ承諾する。一方パミーナのもとには夜の女王が現れ、ザラストロを殺せ、と命じて短剣を渡す。悩むパミーナに、ザラストロは、神殿では愛だけが暴力に打ち勝つ、と語る。タミーノとパパゲーノの最初の試練は、喋ってはいけない「沈黙」の試練。タミーノはパミーナとも喋れず、次の試練のため彼女と別れねばならない。彼の態度にパミーナは絶望して自殺をはかるが、3人の童子が止める。その後タミーノとパミーナは再会し、最後の「火」「水」の試練を2人で乗り越える。女房がほしいとぼやくパパゲーノは試練などお構いなしだが、努力は認められ、伴侶のパパゲーノと出会う。夜の女王たちは滅び、ザラストロ、タミーノ、パミーナたちは神を讃える。

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト
 新国立劇場 高校生のためのオペラ鑑賞教室 2023

魔笛

Wolfgang Amadeus MOZART / Die Zauberflöte

全2幕 〈ドイツ語上演／日本語字幕付〉

指揮 Conductor	園田隆一郎 SONODA Ryuichiro
演出 Production	ウィリアム・ケントリッジ William KENTRIDGE
美術 Set Design	ウィリアム・ケントリッジ William KENTRIDGE ザビーネ・トイニッセン Sabine THEUNISSEN
衣裳 Costume Design	グレタ・ゴアリス Greta GOIRIS
照明 Lighting Design	ジェニファー・ティプトン Jennifer TIPTON
ザラストロ Sarastro	河野鉄平 KONO Teppei
タミーノ Tamino	金山京介 KANAYAMA Kyosuke
弁者・僧侶Ⅰ・武士Ⅱ Sprecher / Erster Priester / Zweiter Geharnischter	高橋正尚 TAKAHASHI Masanao
僧侶Ⅱ・武士Ⅰ Zweiter Priester / Erster Geharnischter	濱松孝行 HAMAMATSU Takayuki
夜の女王 Königin der Nacht	宮地江奈 MIYACHI Ena
パミーナ Pamina	九嶋香奈枝 KUSHIMA Kanae
侍女Ⅰ Erste Dame	今野沙知恵 KONNO Sachie
侍女Ⅱ Zweite Dame	宮澤彩子 MIYAZAWA Ayako
侍女Ⅲ Dritte Dame	石井 藍 ISHII Ai
パパゲーナ Papagena	三宅理恵 MIYAKE Rie
パパゲーノ Papageno	駒田敏章 KOMADA Toshiaki
モノスタトス Monostatos	升島唯博 MASUJIMA Tadahiro
		ほか
合唱 Chorus	新国立劇場合唱団 New National Theatre Chorus
管弦楽 Orchestra	京都市交響楽団 Kyoto Symphony Orchestra

主 催: 京都市、ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、新国立劇場

助 成: 公益財団法人 **ロームミュージックファンデーション**

協 賛: **ローム株式会社**

2023年	10月	26日(木)13:00	27日(金)13:00
-------	-----	-------------	-------------

- 【チケット料金】 2,200円(高校生及び引率教員【学校団体】)
残席がある公演日に限り前売販売:2,200円(高校生以下)／4,400円(一般)
- 【 会 場 】 ロームシアター京都 メインホール

Opera

公演一覧

開場記念公演～2022/2023 シーズン

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
開場記念公演	建・TAKERU*	團 伊玖磨	星出 豊	西澤敬一	1997. 10/10
	ローエングリン*	R.ワーグナー	若杉 弘	ヴォルフガング・ワーグナー	1997. 11/22
	アイダ*	G.ヴェルディ	ガルシア・ナバロ	フランコ・ゼツフィレリ	1998. 1/15
1998/ 1999	蝶々夫人*	G. プッチーニ	菊池彦典	栗山昌良	1998. 4/08
	魔笛*	W.A.モーツァルト	大野和士	ミヒヤエル・ハンペ	1998. 5/06
	ナブッコ*	G.ヴェルディ	アントン・グアダーニョ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	1998. 6/18
	アラベッラ*	R.シュトラウス	若杉 弘	鈴木敬介	1998. 9/19
	セビリアの理髪師*	G.ロッシーニ	マウリツィオ・ベニーニ	ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	1998. 10/09
	ヘンゼルとグレーテル*	E.フンパーディンク	佐藤功太郎	西澤敬一	1998. 11/27
	カルメン*	G.ビゼー	グスタフ・クーン	グスタフ・クーン	1999. 1/19
	天守物語*	水野修孝	星出 豊	栗山昌良	1999. 2/13
	こうもり*	J.シュトラウス II 世	北原幸男	寺崎裕則	1999. 4/21
	罪と罰*	原 嘉壽子	外山雄三	加藤 直	1999. 6/18
	1999/ 2000	仮面舞踏会*	G.ヴェルディ	パオロ・オルミ	アルベルト・ファッシーニ
マノン・レスコー*		G.プッチーニ	菊池彦典	ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	1999. 11/06
蝶々夫人		G.プッチーニ	ウジェコスラフ・シュティ	栗山昌良	1999. 12/18
ドン・ジョヴァンニ*		W.A.モーツァルト	アッシャー・フィッシュ	ロベルト・デ・シモーネ	2000. 1/16
セビリアの理髪師		G.ロッシーニ	アントニオ・ピロリ	栗國淳/ピエールフランチェスコ・マエストリーニ	2000. 2/20
沈黙*		松村禎三	星出 豊	中村敬一	2000. 3/16
サロメ*		R.シュトラウス	若杉 弘	アウグスト・エファアーディング	2000. 4/11
ドン・キホット*		J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	ピエロ・ファッジョーニ	2000. 5/07
リゴレット*		G.ヴェルディ	レナート・パルンボ	アルベルト・ファッシーニ	2000. 6/11
2000/ 2001	トスカ*	G.プッチーニ	マルチェッロ・ヴィオッティ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2000. 9/21
	魔笛	W.A.モーツァルト	村中大祐	ミヒヤエル・ハンペ	2000. 10/10
	エウゲニ・オネーギン*	P.チャイコフスキー	ステファノ・ランザーニ	ボリス・ポクロフスキー/ヴェラ・カルパチョワ	2000. 10/30
	青ひげ公の城*	B.バルトーク	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2000. 11/24
	夕鶴*	團 伊玖磨	増田宏昭	栗山民也	2000. 12/02
	イルトロヴァトーレ*	G.ヴェルディ	ダニエル・オーレン	アルベルト・ファッシーニ	2001. 1/15
	リゴレット	G.ヴェルディ	アントニオ・ピロリ	アルベルト・ファッシーニ	2001. 2/05
	ラインの黄金*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2001. 3/30
	仮面舞踏会	G.ヴェルディ	菊池彦典	アルベルト・ファッシーニ	2001. 5/13
	蝶々夫人	G.プッチーニ	アントン・グアダーニョ	栗山昌良	2001. 6/07
	マノン*	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	ジャン＝ピエール・ボネル	2001. 7/05
2001/ 2002	トゥーランドット*	G.プッチーニ	菊池彦典	ウーゴ・デ・アナ	2001. 9/15
	ナブッコ	G.ヴェルディ	パオロ・オルミ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2001. 11/01
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	ポール・コネリー	ロベルト・デ・シモーネ	2001. 11/16
	ドン・カルロ*	G.ヴェルディ	ダニエレ・カッレガーリ	アルベルト・ファッシーニ	2001. 12/06
	ヘンゼルとグレーテル	E.フンパーディンク	三澤洋史	西澤敬一	2002. 1/10
	忠臣蔵*	三枝成彰	大友直人	平尾力哉	2002. 1/25
	ウェルテル*	J.E.F.マスネ	アラン・ギンガル	アルベルト・ファッシーニ	2002. 2/21
	ワルキューレ*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2002. 3/26
	サロメ	R.シュトラウス	児玉 宏	アウグスト・エファアーディング	2002. 5/01
	トスカ	G.プッチーニ	アルベルト・ヴェロネージ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2002. 5/02
	カルメン*	G.ビゼー	ジャック・デラコート	マウリツィオ・ディ・マッティエーア	2002. 6/07

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2002/ 2003	椿姫*	G.ヴェルディ	ブルーノ・カンパネッラ	ルーカ・ロンコーニ	2002. 9/05
	ルチア*	G.ドニゼッティ	パオロ・オルミ	ヴァンチェンツォ・グリゾストミトラヴァリーニ	2002. 10/11
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	アントニオ・ピロツリ	粟國 淳	2002. 10/31
	イル・トロヴァトーレ	G.ヴェルディ	ジュリアーノ・カレッタ	アルベルト・ファッシーニ	2002. 11/21
	ナクソス島のアリアドネ*	R.シュトラウス	児玉 宏	ハンス＝ペーター・レーマン	2002. 12/12
	光*	一柳 慧	若杉 弘	松本重孝	2003. 1/17
	アラベッラ	R.シュトラウス	若杉 弘	鈴木敬介	2003. 1/31
	ジークフリート*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2003. 3/27
	ラ・ボエーム*	G.プッチーニ	アントニオ・ピロツリ	粟國 淳	2003. 4/19
	オテロ*	G.ヴェルディ	菊池彦典	エライジャ・モシンスキー	2003. 6/10
	アイーダ	G.ヴェルディ	ダニエル・オーレン	フランコ・ゼッフィレッツィ	2003. 9/14
2003/ 2004	フィガロの結婚*	W.A.モーツァルト	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	2003. 10/10
	トスカ	G.プッチーニ	ジェラルド・コルステン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2003. 11/09
	ホフマン物語*	G.オッフエンバック	阪 哲朗	フィリップ・アルロー	2003. 11/28
	鳴神／俊寛*	間宮芳生／清水 修	秋山和慶	市川團十郎	2004. 1/30
	スペインの燦き*	M.ラヴェル	マルク・ピオレ	ニコラ・ムシン	2004. 2/18
	サロメ	R.シュトラウス	フリードリヒ・ハイダー	アウグスト・エファアーディンク	2004. 2/27
	神々の黄昏*	R.ワーグナー	準・メルクル	キース・ウォーナー	2004. 3/26
	マクベス*	G.ヴェルディ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	野田秀樹	2004. 5/13
	ファルスタッフ*	G.ヴェルディ	ダン・エッティンガー	ジョナサン・ミラー	2004. 6/25
	カルメン	G.ビゼー	沼尻竜典	マウリツィオ・ディ・マッティーア	2004. 6/28
2004/ 2005	カヴァレリア・ルスティカーナ／ 道化師*	P.マスカーニ／ R.レオンカヴァッロ	阪 哲朗	グリシャ・アサガロフ	2004. 9/09
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	井上道義	粟國 淳	2004. 9/25
	エレクトラ*	R.シュトラウス	ウルフ・シルマー	ハンス＝ペーター・レーマン	2004. 11/11
	椿姫	G.ヴェルディ	若杉 弘	ルーカ・ロンコーニ	2004. 11/22
	マクベス	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	野田秀樹	2005. 1/17
	ルル*	A.ベルク	シュテファン・アントン・レック	デヴィッド・パウントニー	2005. 2/08
	おさん―「心中天網島」より*	久保摩耶子	神田慶一	粟國 淳	2005. 2/25
	コジ・ファン・トゥッテ*	W.A.モーツァルト	ダン・エッティンガー	コルネリア・レブシュレーガー	2005. 3/21
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	平井秀明	アンドレアス・ホモキ	2005. 4/07
	フィデリオ*	L.v.ベートーヴェン	ミヒャエル・ボーダー	マルコ・アルトゥーロ・マレッツィ	2005. 5/28
蝶々夫人*	G.プッチーニ	レナート・パルンボ	栗山民也	2005. 6/24	
2005/ 2006	ニルンベルクのマイスタージンガー*	R.ワーグナー	シュテファン・アントン・レック	ベルント・ヴァイクル	2005. 9/14
	セビリアの理髪師*	G.ロッシーニ	ニール・カバレッティ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2005. 10/14
	アンドレア・シェニエ*	U.ジヨルダノ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	フィリップ・アルロー	2005. 11/20
	ホフマン物語	J.オッフエンバック	阪 哲朗	フィリップ・アルロー	2005. 11/27
	魔笛	W.A.モーツァルト	服部譲二	ミヒャエル・ハンペ	2006. 1/21
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A.モーツァルト	オラフ・ヘンツォルト	コルネリア・レブシュレーガー	2006. 2/04
	愛怨*	三木 稔	大友直人	恵川智美	2006. 2/17
	運命のカ*	G.ヴェルディ	井上道義	エミリオ・サージ	2006. 3/15
	カヴァレリア・ルスティカーナ／ 道化師	P.マスカーニ／ R.レオンカヴァッロ	ファビオ・ルイーダ	グリシャ・アサガロフ	2006. 4/05
	こうもり*	J.シュトラウス II世	ヨハネス・ヴィルトナー	ハインツ・ツェドニク	2006. 6/14

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2006/ 2007	ドン・カルロ*	G.ヴェルディ	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	マルコ・アルトゥーロ・マレツリ	2006. 9/07
	イドメネオ*	W.A.モーツァルト	ダン・エッティンガー	グリシャ・アサガロフ	2006. 10/20
	フィデリオ	L.v.ベートーヴェン	コルネリウス・マイスター	マルコ・アルトゥーロ・マレツリ	2006. 11/30
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	ミケーレ・カルツリ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2006. 12/01
	さまよえるオランダ人*	R.ワーグナー	ミヒャエル・ボーダー	マティアス・フォン・シュテークマン	2007. 2/25
	運命の力	G.ヴェルディ	マウリツィオ・バルパチーニ	エミリオ・サージ	2007. 3/15
	蝶々夫人	G.プッチーニ	若杉 弘	栗山民也	2007. 3/22
	西部の娘*	G.プッチーニ	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	2007. 4/15
	ばらの騎士*	R.シュトラウス	ペーター・シュナイダー	ジョナサン・ミラー	2007. 6/06
	ファルスタッフ	G.ヴェルディ	ダン・エッティンガー	ジョナサン・ミラー	2007. 6/13
2007/ 2008	タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦*	R.ワーグナー	フィリップ・オーギャン	ハンス＝ペーター・レーマン	2007. 10/08
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	沼尻竜典	アンドレアス・ホモキ	2007. 10/18
	カルメン*	G.ビゼー	ジャック・デラコート	鶴山 仁	2007. 11/25
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	マウリツィオ・バルパチーニ	栗國 淳	2008. 1/20
	サロメ	R.シュトラウス	トーマス・レスナー	アウグスト・エファアーディング	2008. 2/03
	黒船 一夜明け*	山田耕筰	若杉 弘	栗山昌良	2008. 2/22
	アイーダ	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	フランコ・ゼツフィレツリ	2008. 3/10
	魔弾の射手*	C.M.v.ウェーバー	ダン・エッティンガー	マティアス・フォン・シュテークマン	2008. 4/10
	軍人たち*	B.A.ツインマーマン	若杉 弘	ヴィリー・デッカー	2008. 5/05
	椿姫	G.ヴェルディ	上岡敏之	ルーカ・ロンコーニ	2008. 6/05
2008/ 2009	トウーランドット*	G.プッチーニ	アントネッロ・アッレマンディ	ヘニング・ブロックハウス	2008. 10/01
	リゴレット	G.ヴェルディ	ダニエレ・カッレガーリ	アルベルト・ファッシーニ	2008. 10/25
	ドン・ジョヴァンニ*	W.A.モーツァルト	コンスタンティン・トリックス	グリシャ・アサガロフ	2008. 12/05
	蝶々夫人	G.プッチーニ	カルロ・モンタナーロ	栗山民也	2009. 1/12
	こうもり	J.シュトラウスⅡ世	アレクサンダー・ジョエル	ハインツ・ツェドニク	2009. 1/27
	ラインの黄金	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2009. 3/07
	ワルキューレ	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2009. 4/03
	ムツェンスク郡のマクベス夫人*	D.ショスタコーヴィチ	ミハイル・シンケヴィチ	リチャード・ジョーンズ	2009. 5/01
	チェネレントラ*	G.ロッシーニ	デイヴィッド・サイラス	ジャン＝ピエール・ポネル	2009. 6/07
	修禅寺物語*	清水 脩	外山雄三	坂田藤十郎	2009. 6/25
2009/ 2010	オテロ*	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	マリオ・マルトーネ	2009. 9/20
	魔笛	W.A.モーツァルト	アルフレート・エシュヴェ	ミヒャエル・ハンペ	2009. 10/29
	ヴォツェック*	A.ベルク	ハルトムート・ヘンヒェン	アンドレアス・クリーゲンブルク	2009. 11/18
	トスカ	G.プッチーニ	フレデリック・シャスラン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2009. 12/02
	ジークフリート	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2010. 2/11
	神々の黄昏	R.ワーグナー	ダン・エッティンガー	キース・ウォーナー	2010. 3/18
	愛の妙薬*	G.ドニゼッティ	パオロ・オルミ	チェーザレ・リエヴィ	2010. 4/15
	影のない女*	R.シュトラウス	エーリッヒ・ヴェヒター	ドニ・クリエフ	2010. 5/20
	カルメン	G.ビゼー	マウリツィオ・バルパチーニ	鶴山 仁	2010. 6/10
	鹿鳴館*	池辺晋一郎	沼尻竜典	鶴山 仁	2010. 6/24
2010/ 2011	アラベッラ*	R.シュトラウス	ウルフ・シルマー	フィリップ・アルロー	2010. 10/02
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	ミヒャエル・ギュットラー	アンドレアス・ホモキ	2010. 10/10
	アンドレア・シェニエ	U.ジョルダーノ	フレデリック・シャスラン	フィリップ・アルロー	2010. 11/12
	トリスタンとイゾルデ*	R.ワーグナー	大野和士	デイヴィッド・マクヴィカー	2010. 12/25
	夕鶴	團 伊玖磨	高関 健	栗山民也	2011. 2/04
	椿姫	G.ヴェルディ	広上淳一	ルーカ・ロンコーニ	2011. 2/14
	マノン・レスコー*(公演中止)	G.プッチーニ	リッカルド・フリッツァ	ジルベール・デフロ	
	ばらの騎士	R.シュトラウス	マンフレッド・マイヤー＝ホーファー	ジョナサン・ミラー	2011. 4/10
	コジ・ファン・トゥッテ*	W.A.モーツァルト	ミゲル・ゴメス＝マルティネス	ダミアノ・ミキエレット	2011. 5/29
	蝶々夫人	G.プッチーニ	イヴ・アベル	栗山民也	2011. 6/06

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2011/ 2012	イル・トロヴァトーレ*	G.ヴェルディ	ピエトロ・リッツォ	ウルリッヒ・ペーター	2011. 10/02
	サロメ	R.シュトラウス	ラルフ・ヴァイケルト	アウグスト・エファアーディング	2011. 10/09
	ルサルカ*	A.ドヴォルザーク	ヤロスラフ・キズリンク	ポール・カラン	2011. 11/23
	こうもり	J.シュトラウス二世	ダン・エッティンガー	ハインツ・ツェドニク	2011. 12/01
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	コンスタンティン・トリックス	粟國 淳	2012. 1/19
	沈黙*	松村禎三	下野竜也	宮田慶子	2012. 2/15
	さまよえるオランダ人	R. ワーグナー	トマーシュ・ネトピル	マティアス・フォン・シュテークマン	2012. 3/08
	オテロ	G.ヴェルディ	ジャン・レイサム＝ケニック	マリオ・マルトーネ	2012. 4/01
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	エンリケ・マッツォーラ	グリシャ・アサガロフ	2012. 4/19
ローエングリン*	R.ワーグナー	ペーター・シュナイダー	マティアス・フォン・シュテークマン	2012. 6/01	
2012/ 2013	ピーター・グライムズ*	B.ブリテン	リチャード・アームストロング	ウィリー・デッカー	2012. 10/02
	トスカ	G.プッチーニ	沼尻竜典	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2012. 11/11
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	カルロ・モンタナーロ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2012. 11/28
	タンホイザーとヴァルトブルクの歌合戦	R.ワーグナー	コンスタンティン・トリックス	ハンス＝ペーター・レーマン	2013. 1/23
	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	ジュリアン・サレムクール	チェーザレ・リエヴィ	2013. 1/31
	アイーダ	G.ヴェルディ	ミヒヤエル・ギュットラー	フランコ・ゼッフィレッリ	2013. 3/11
	魔笛	W.A.モーツァルト	ラルフ・ヴァイケルト	ミヒヤエル・ハンペ	2013. 4/14
	ナブッコ*	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	グラハム・ヴィック	2013. 5/19
	コジ・ファン・トゥッテ	W.A.モーツァルト	イヴ・アベル	ダミアーノ・ミキエレット	2013. 6/03
夜叉ヶ池*	香月 修	十束尚宏	岩田達宗	2013. 6/25	
2013/ 2014	リゴレット*	G.ヴェルディ	ピエトロ・リッツォ	アンドレアス・クリーゲンブルク	2013. 10/03
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	ウルフ・シルマー	アンドレアス・ホモキ	2013. 10/20
	ホフマン物語	J.オッフエンバック	フレデリック・シャスラン	フィリップ・アルロー	2013. 11/28
	カルメン	G.ビゼー	アイナルス・ルビキス	鶴山 仁	2014. 1/19
	蝶々夫人	G.プッチーニ	ケリー＝リン・ウィルソン	栗山民也	2014. 1/30
	死の都*	E.W.コロンゴルト	ヤロスラフ・キズリンク	カスパー・ホルテン	2014. 3/12
	ヴォツェック	A.ベルク	ギュンター・ノイホルト	アンドレアス・クリーゲンブルク	2014. 4/05
	カヴァレリア・ルスティカーナ /道化師*	P.マスカーニ/ R.レオンカヴァッロ	レナート・パルンボ	ジルベール・デフロ	2014. 5/14
	アラベッラ	R.シュトラウス	ベルトラン・ド・ビリー	フィリップ・アルロー	2014. 5/22
鹿鳴館	池辺晋一郎	飯森範親	鶴山 仁	2014. 6/19	
2014/ 2015	バルジファル*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ハリー・クブファー	2014. 10/02
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	ラルフ・ヴァイケルト	グリシャ・アサガロフ	2014. 10/16
	ドン・カルロ	G.ヴェルディ	ピエトロ・リッツォ	マルコ・アルトゥーロ・マレツリ	2014. 11/27
	さまよえるオランダ人	R.ワーグナー	飯守泰次郎	マティアス・フォン・シュテークマン	2015. 1/18
	こうもり	J.シュトラウス二世	アルフレート・エシュヴェ	ハインツ・ツェドニク	2015. 1/29
	マノン・レスコー*	G.プッチーニ	ピエール・ジョルジョ・モランディ	ジルベール・デフロ	2015. 3/09
	運命の力	G.ヴェルディ	ホセ・ルイス・ゴメス	エミリオ・サージ	2015. 4/02
	椿姫*	G.ヴェルディ	イヴ・アベル	ヴァンサン・ブサール	2015. 5/10
	ばらの騎士	R.シュトラウス	シュテファン・ショルテス	ジョナサン・ミラー	2015. 5/24
沈黙	松村禎三	下野竜也	宮田慶子	2015. 6/27	
2015/ 2016	ラインの黄金*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2015. 10/01
	トスカ	G.プッチーニ	エイヴィン・グルバルグ・イェンセン	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2015. 11/17
	ファルスタッフ	G.ヴェルディ	イヴ・アベル	ジョナサン・ミラー	2015. 12/03
	魔笛	W.A.モーツァルト	ロベルト・パーテルノストロ	ミヒヤエル・ハンペ	2016. 1/24
	イエヌーファ*	L.ヤナーチェク	トマーシュ・ハヌス	クリストフ・ロイ	2016. 2/28
	サロメ	R.シュトラウス	ダン・エッティンガー	アウグスト・エファアーディング	2016. 3/06
	ウェルテル*	J.É.F.マスネ	エマニュエル・プラッソン	ニコラ・ジョエル	2016. 4/03
	アンドレア・シェニエ	U.ジョルダノ	ヤデル・ピニャミーニ	フィリップ・アルロー	2016. 4/14
	ローエングリン	R.ワーグナー	飯守泰次郎	マティアス・フォン・シュテークマン	2016. 5/23
夕鶴	團 伊玖磨	大友直人	栗山民也	2016. 7/01	

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2016/ 2017	ワルキューレ*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2016. 10/02
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	パオロ・アリヴァベーニ	粟國 淳	2016. 11/17
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	フランチェスコ・アンジェリコ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2016. 11/27
	カルメン	G.ビゼー	イヴ・アベル	鶴山 仁	2017. 1/19
	蝶々夫人	G.プッチーニ	フィリップ・オーギャン	栗山民也	2017. 2/02
	ルチア*	G.ドニゼッティ	ジャンパオロ・ビザンティ	ジャン＝ルイ・グリンダ	2017. 3/14
	オテロ	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	マリオ・マルトーネ	2017. 4/09
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	コンスタンティン・トリンクス	アンドレアス・ホモキ	2017. 4/20
ジークフリート*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2017. 6/01	
2017/ 2018	神々の黄昏*	R.ワーグナー	飯守泰次郎	ゲッツ・フリードリヒ	2017. 10/01
	椿姫	G.ヴェルディ	リッカルド・フリッツァ	ヴァンサン・ブサル	2017. 11/16
	ばらの騎士	R.シュトラウス	ウルフ・シルマー	ジョナサン・ミラー	2017. 11/30
	こうもり	J.シュトラウス二世	アルフレート・エシュヴェ	ハインツ・ツェドニク	2018. 1/18
	松風*	細川俊夫	デヴィッド・ロバート・コールマン	サシヤ・ヴァルツ	2018. 2/16
	ホフマン物語	J.オッフェンバック	セバステイアン・ルラン	フィリップ・アルロー	2018. 2/28
	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	フレデリック・シャスラン	チェーザレ・リエヴィ	2018. 3/14
	アイーダ	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	フランコ・ゼッフィレッリ	2018. 4/05
	フィデリオ*	L.v.ベートーヴェン	飯守泰次郎	カタリーナ・ワーグナー	2018. 5/20
	トスカ	G.プッチーニ	ロレンツォ・ヴィオッティ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2018. 7/01
2018/ 2019	魔笛*	W.A.モーツァルト	ローラント・ベアー	ウィリアム・ケントリッジ	2018. 10/03
	カルメン	G.ビゼー	ジャン＝リュック・タンゴー	鶴山 仁	2018. 11/23
	ファルスタッフ	G.ヴェルディ	カルロ・リッツィ	ジョナサン・ミラー	2018. 12/06
	タンホイザー	R.ワーグナー	アッシャー・フィッシュ	ハンス＝ペーター・レーマン	2019. 1/27
	紫苑物語*	西村 朗	大野和士	笈田ヨシ	2019. 2/17
	ウェルテル	J.E.F.マスネ	ポール・ダニエル	ニコラ・ジョエル	2019. 3/19
	フィレンツェの悲劇 /ジャンニ・スキッキ*	A.ツェムリンスキー /G.プッチーニ	沼尻竜典	粟國 淳	2019. 4/07
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	カーステン・ヤヌシュケ	グリシャ・アサガロフ	2019. 5/17
	蝶々夫人	G.プッチーニ	ドナート・レンツェッティ	栗山民也	2019. 6/01
	トゥーランドット*	G.プッチーニ	大野和士	アレックス・オリエ	2019. 7/18
2019/ 2020	エウゲニ・オネーギン*	P.チャイコフスキー	アンドリー・ユルケヴィチ	ドミトリー・ベルトマン	2019. 10/01
	ドン・パスクワレ*	G.ドニゼッティ	コラード・ロヴァーリス	ステファノ・ヴィツィオーリ	2019. 11/09
	椿姫	G.ヴェルディ	イヴァン・レブシッチ	ヴァンサン・ブサル	2019. 11/28
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	パオロ・カリニャーニ	粟國 淳	2020. 1/24
	セビリアの理髪師	G.ロッシーニ	アントネッロ・アッレマンディ	ヨーゼフ・E.ケップリンガー	2020. 2/06
	ゴジ・ファン・トゥッテ(公演中止)	W.A.モーツァルト	パオロ・オルミ	ダミアノ・ミキエレット	
	ジュリオ・チェーザレ*(公演中止)	G.F.ヘンデル	リナルド・アレクサンダーニ	ロラン・ベリー	
	ホフマン物語(公演中止)	J.オッフェンバック	マルコ・レトニャ	フィリップ・アルロー	
	サロメ(公演中止)	R.シュトラウス	コンスタンティン・トリンクス	アウグスト・エファアーディング	
	ニュルンベルクのマイスタージンガー* (公演中止)	R.ワーグナー	大野和士	イェンス＝ダニエル・ヘルツォーク	
2020/ 2021	夏の夜の夢*	B.ブリテン	飯森範親	レア・ハウスマン (デイヴィッド・マクヴィカーの演出に基づく)	2020. 10/04
	アルマゲドン of the 夢*	藤倉 大	大野和士	リディア・シュタイアー	2020. 11/15
	こうもり	J.シュトラウス二世	クリストファー・フランクリン	ハインツ・ツェドニク	2020. 11/29
	トスカ	G.プッチーニ	ダニエレ・カッレガーリ	アントネッロ・マダウ＝ディアツ	2021. 1/23
	フィガロの結婚	W.A.モーツァルト	沼尻竜典	アンドレアス・ホモキ	2021. 2/07
	ワルキューレ	R.ワーグナー	大野和士/城谷正博	ゲッツ・フリードリヒ	2021. 3/11
	夜鳴きうぐいす /イオランタ*	I.ストラヴィンスキー /P.チャイコフスキー	高関 健	ヤニス・コッコス	2021. 4/04
	ルチア	G.ドニゼッティ	スペランツァ・スカッブッチ	ジャン＝ルイ・グリンダ	2021. 4/18
	ドン・カルロ	G.ヴェルディ	パオロ・カリニャーニ	マルコ・アルトゥーロ・マレッリ	2021. 5/20
	カルメン*	G.ビゼー	大野和士	アレックス・オリエ	2021. 7/03

★＝新制作

シーズン	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
2021/ 2022	チェネレントラ*	G.ロッシーニ	城谷正博	栗國 淳	2021. 10/01
	ニルンベルクのマイスタージンガー*	R.ワーグナー	大野和士	イェンス＝ダニエル・ヘルツォーク	2021. 11/18
	蝶々夫人	G.プッチーニ	下野竜也	栗山民也	2021. 12/05
	さまよえるオランダ人	R.ワーグナー	ガエタノ・デスピノーサ	マティアス・フォン・シュテークマン	2022. 1/26
	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	ガエタノ・デスピノーサ	チェーザレ・リエヴィ	2022. 2/07
	椿姫	G.ヴェルディ	アンドリー・ユルケヴィチ	ヴァンサン・ブサール	2022. 3/10
	ばらの騎士	R.シュトラウス	サッシャ・ゲッツェル	ジョナサン・ミラー	2022. 4/03
	魔笛	W.A.モーツァルト	オレグ・カエターニ	ウィリアム・ケントリッジ	2022. 4/16
	オルフェオとエウリディーチェ*	C.W.グルック	鈴木優人	勅使川原三郎	2022. 5/19
	ペレアスとメリザンド*	C.ドビュッシー	大野和士	ケイティ・ミッチェル	2022. 7/02
2022/ 2023	ジュリオ・チェーザレ*	G.F.ヘンデル	リナルド・アレッサンドリーニ	ロラン・ベリー	2022. 10/02
	ボリス・ゴドゥノフ*	M.ムソルグスキー	大野和士	マリウシュ・トレリンスキ	2022. 11/15
	ドン・ジョヴァンニ	W.A.モーツァルト	パオロ・オルミ	グリシャ・アサガロフ	2022. 12/06
	タンホイザー	R.ワーグナー	アレホ・ペレス	ハンス＝ベーター・レーマン	2023. 1/28
	ファルスタッフ	G.ヴェルディ	コッラード・ロヴァーリス	ジョナサン・ミラー	2023. 2/10
	ホフマン物語	J.オッフエンバック	マルコ・レトーニャ	フィリップ・アルロー	2023. 3/15
	アイーダ	G.ヴェルディ	カルロ・リッツィ	フランコ・ゼッフィレッリ	2023. 4/05
	リゴレット*	G.ヴェルディ	マウリツィオ・ベニーニ	エミリオ・サージ	2023. 5/18
	サロメ	R.シュトラウス	コンスタンティン・トリックス	アウグスト・エファーディング	2023. 5/27
	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	大野和士	栗國 淳	2023. 6/28

★＝新制作

〈高校生のためのオペラ鑑賞教室〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 10 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	菊池彦典	栗山昌良	1998. 7/15
平成 11 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	星出 豊	栗山昌良	1999. 7/13
平成 12 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	福森 湘	栗山昌良	2000. 7/12
平成 13 年度	トスカ	G.プッチーニ	村中大祐	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2001. 7/10
平成 14 年度	トスカ	G.プッチーニ	井崎正浩	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2002. 7/12
平成 15 年度	トスカ	G.プッチーニ	佐藤正浩	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2003. 7/11
平成 16 年度	カルメン	G.ビゼー	沼尻竜典	マウリツィオ・ディ・マッティーア	2004. 7/12
平成 17 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2005. 7/11
平成 18 年度	カヴァレリア・ルスティカーナ	P.マスカーニ	岡本和之	グリシヤ・アサガロフ	2006. 7/10
平成 19 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2007. 7/09
平成 20 年度	椿姫	G.ヴェルディ	城谷正博	ルーカ・ロンコーニ	2008. 7/11
	蝶々夫人(於 あましんアルカイックホール)	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2008. 11/13
平成 21 年度	トスカ	G.プッチーニ	沼尻竜典	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2009. 7/10
	蝶々夫人(於 あましんアルカイックホール)	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2009. 10/15
平成 22 年度	カルメン	G.ビゼー	石坂 宏	鶴山 仁	2010. 7/12
	蝶々夫人(於 あましんアルカイックホール)	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2010. 10/27
平成 23 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	菊池彦典	栗山民也	2011. 7/11
	愛の妙薬(於 あましんアルカイックホール)	G.ドニゼッティ	石坂 宏	チェーザレ・リエヴィ	2011. 10/26
平成 24 年度	ラ・ボエーム	G.プッチーニ	石坂 宏	栗國 淳	2012. 7/12
	愛の妙薬(於 あましんアルカイックホール)	G.ドニゼッティ	城谷正博	チェーザレ・リエヴィ	2012. 10/24
平成 25 年度	愛の妙薬	G.ドニゼッティ	城谷正博	チェーザレ・リエヴィ	2013. 7/10
	夕鶴(於 あましんアルカイックホール)	團 伊玖磨	石坂 宏	栗山民也	2013. 10/30
平成 26 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2014. 7/09
	夕鶴(於 あましんアルカイックホール)	團 伊玖磨	石坂 宏	栗山民也	2014. 11/05
平成 27 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	石坂 宏	栗山民也	2015. 7/10
	蝶々夫人(於 あましんアルカイックホール)	G.プッチーニ	城谷正博	栗山民也	2015. 10/27
平成 28 年度	夕鶴	團 伊玖磨	城谷正博	栗山民也	2016. 7/09
	フィガロの結婚(於 ロームシアター京都)	W.A.モーツァルト	広上淳一	アンドレアス・ホモキ	2016. 10/26
平成 29 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	三澤洋史	栗山民也	2017. 7/10
	蝶々夫人(於 ロームシアター京都)	G.プッチーニ	高関 健	栗山民也	2017. 10/30
平成 30 年度	トスカ	G.プッチーニ	城谷正博	アントネッロ・マダウ=ディアツ	2018. 7/06
	魔笛(於 ロームシアター京都)	W.A.モーツァルト	園田隆一郎	ウィリアム・ケントリッジ	2018. 10/29
令和 元年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	飯森範親	栗山民也	2019. 7/06
	蝶々夫人(於 ロームシアター京都)	G.プッチーニ	城谷正博	栗山民也	2019. 10/28
令和 2 年度	夕鶴(公演中止)	團 伊玖磨	三ツ橋敬子	栗山民也	
	魔笛(於 ロームシアター京都)	W.A.モーツァルト	園田隆一郎	ウィリアム・ケントリッジ	2020. 10/27
令和 3 年度	カルメン	G.ビゼー	沼尻竜典	アレックス・オリエ	2021. 7/09
	ドン・パスクワレ(於 ロームシアター京都)	G.ドニゼッティ	阪 哲朗	ステファノ・ヴィツィオーリ	2021. 10/26
令和 4 年度	蝶々夫人	G.プッチーニ	阪 哲朗	栗山民也	2022. 7/08
	蝶々夫人(於 ロームシアター京都)	G.プッチーニ	阪 哲朗	栗山民也	2022. 10/25

〈特別企画〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
令和 2 年度 (公演中止)	子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ Super Angels スーパーエンジェル	渋谷慶一郎	大野和士	台本: 島田雅彦	
令和 3 年度	子どもたちとアンドロイドが創る新しいオペラ Super Angels スーパーエンジェル	渋谷慶一郎	大野和士	台本: 島田雅彦	2021. 8/21

〈小劇場オペラ〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 12 年度	オルフェオとエウリディーチェ	C.W.グルック	佐藤正浩	岩田達宗	2000. 6/25
	幸せな間違い	G.ロッシーニ	星出 豊	粟國 淳	2000. 9/07
	アブ・ハッサン／オペラの稽古	C.M.v. ウェーバー ／A.ロルツィング	三澤洋史	井上 光	2000. 12/23
平成 13 年度	ねじの回転	B.ブリテン	松岡 究	平尾力哉	2001. 4/19
	花言葉	R.ロッセリーニ	宮松重紀	今井伸昭	2001. 10/11
	賢い女	C.オルフ	時任康文	伊藤明子	2002. 2/07
平成 14 年度	シャーロック・ホームズの事件簿(告白)	原 嘉壽子	樋本英一	岩田達宗	2002. 4/25
	なりゆき泥棒	G.ロッシーニ	佐藤 宏	恵川智美	2002. 9/12
	無人島	F.J.ハイドン	山上純司	井原広樹	2003. 1/23
平成 15 年度	ドン・ジョヴァンニ	G.ガッツァーニ	松岡 究	今井伸昭	2003. 5/15
	イタリアのモーツァルト	W.A.モーツァルト	平井秀明	恵川智美	2003. 11/13
	外套	G.プッチーニ	神田慶一	粟國 淳	2004. 2/05
平成 16 年度	友人フリッツ	P.マスカーニ	渡邊一正	高岸未朝	2004. 6/10
	ザザ	R.レオンカヴァッロ	服部譲二	恵川智美	2005. 3/03
平成 17 年度	セルセ	G.F.ヘンデル	平井秀明	三浦安浩	2006. 1/12
平成 18 年度	フラ・ディアボロ	D.F.E.オベール	城谷正博	田尾下 哲	2007. 2/15

〈演奏会形式公演〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 20 年度	コンサート・オペラ ペレアスとメリザンド	C.A.ドビュッシー	若杉 弘	若杉 弘(舞台構成)	2008. 6/28
平成 21 年度	コンサート・オペラ ポッペアの戴冠	C.モンテヴェルディ	鈴木雅明	鈴木優人・田村吾郎	2009. 5/15
平成 23 年度	コジ・ファン・トゥッテ(演奏会形式)	W.A.モーツァルト	石坂 宏		2011. 5/15
平成 24 年度	ドン・ジョヴァンニ(演奏会形式)	W.A.モーツァルト	石坂 宏		2012. 4/03
平成 26 年度	さまよえるオランダ人(演奏会形式)	R.ワーグナー	城谷正博		2015. 1/16
平成 29 年度	「ジークフリート」ハイライトコンサート -邦人歌手による-	R.ワーグナー	城谷正博		2017. 5/17

〈こどものためのオペラ劇場〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 16 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ!	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2004. 8/06
平成 17 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ!	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2005. 7/30
平成 18 年度	スペース・トゥーランドット	G.プッチーニ 「トゥーランドット」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	田尾下 哲(台本・演出)	2006. 7/28
平成 19 年度	スペース・トゥーランドット	G.プッチーニ 「トゥーランドット」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	田尾下 哲(台本・演出)	2007. 7/28
平成 20 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ!	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2008. 7/25
平成 21 年度	ジークフリートの冒険 指環をとりもどせ!	R.ワーグナー 「ニーベルングの指環」による	三澤洋史 (編曲・指揮)	マティアス・フォン・シュテークマン (台本・演出)	2009. 7/24
平成 23 年度	パルジファルとふしぎな聖杯	R.ワーグナー 「パルジファル」による	三澤洋史 (編曲・指揮・台本)	三浦安浩(演出)	2011. 7/22

〈文化庁芸術祭〉

年度	公演	指揮	演出	公演初日
平成 12 年度	国際音楽の日記念コンサート オペラ・ガラコンサート	菊池彦典		2000. 10/01
平成 18 年度	新国立劇場開場 10 周年記念 オペラ・バレエ ガラ公演	渡邊一正(第一部) フィリップ・オーギャン(第二部)		2007. 10/01
平成 21 年度	国際音楽の日記念 メリーメリー・ウィドウ 祝祭版～ちよつと陽気な未亡人～	現田茂夫	飯塚勲生	2009. 10/01
平成 25 年度	国際音楽の日記念 尾高忠明指揮 新国立劇場合唱団が歌う ベルシャザールの饗宴	尾高忠明		2013. 10/01

〈国際交流公演〉

年度	公演	指揮	演出	公演初日
平成 24 年度	2012「日中国民交流友好年」認定行事 オペラ『アイダ』(コンサート形式)	広上淳一		2012. 7/27

〈ニューイヤー オペラパレス ガラ〉

年度	公演	指揮	公演初日
平成 19 年度	ニューイヤー オペラパレスガラ	マウリツィオ・バルパチーニ	2008. 1/05
平成 20 年度	ニューイヤー オペラパレスガラ	渡邊一正(バレエ)／菊池彦典(オペラ)	2009. 1/05
平成 21 年度	ニューイヤー オペラパレスガラ	大井剛史(バレエ)／菊池彦典(オペラ)	2010. 1/05

〈はじめてのオペラ〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 19 年度	カルメン ～楽しいトークとハイライト上演～	G.ビゼー	ジャック・デラコート	鶴山 仁	2007. 12/02

〈舞台芸術国際フェスティバル〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 14 年度	舞台芸術国際フェスティバル ねじの回転	B.ブリテン	松岡 究	平尾力哉	2002. 9/28

〈地域招聘公演〉

年度	公演	作曲	指揮	演出	公演初日
平成 17 年度	沈黙(ザ・カレッジ・オペラハウス)	松村禎三	山下一史	中村敬一	2005. 9/16
平成 18 年度	フィガロの結婚(ひろしまオペラルネッサンス)	W.A.モーツァルト	デリック・イノウエ	岩田達宗	2006. 10/15
平成 19 年度	ナクス島のアリアドネ(関西二期会)	R.シュトラウス	飯守泰次郎	松本重孝	2008. 1/25
平成 21 年度	月を盗んだ話(札幌室内歌劇場)	C.オルフ	柳澤寿男	中津邦仁	2010. 1/13
平成 23 年度	鳴砂(仙台オペラ協会)	岡崎光治	山下一史	岡崎光治	2011. 7/30
平成 25 年度	三文オペラ(びわ湖ホール)	K.ワイル	園田隆一郎	栗山昌良	2013. 7/12
平成 27 年度	いのち(長崎県オペラ協会)	錦かよ子	星出 豊	星出 豊	2015. 7/25
平成 29 年度	ミカド(びわ湖ホール)	A.サリヴァン	園田隆一郎	中村敬一	2017. 8/26
令和 2 年度	竹取物語(びわ湖ホール) (公演中止)	沼尻竜典	沼尻竜典	栗山昌良	

MEMO

MEMO

MEMO